

|                |  |                          |  |  |
|----------------|--|--------------------------|--|--|
| <b>科目名</b>     | 宗教学の人間学  | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修 |  |
| <b>担当教員</b>    | 福島 寛太郎   |                          |  |  |
| <b>開講期</b>     | 後期   |                          |  |  |
| <b>授業概要</b>    | 宗教学はヨーロッパのヒューマニズム思想の流れの中で、ヨーロッパ以外の地域の宗教に関する情報をも取り入れて、「人間中心」の観点から「宗教」の起源や根拠を研究する学問として成立し、やがて隣接諸学問との連携のもとで、研究分野を拡大してきている。その主な研究対象として、神あるいは聖なるものの特性、神話、宗教的な行為あるいは儀式、宗教の社会的機能、呪術と宗教、宗教的人格、宗教的心理、現代社会と宗教、宗教と癒しなどがある。本講義では宗教学のそうした諸課題を紹介し、とくに人間学としての宗教学の流れに注目したい。今年はさしあたり「宗教から見た人間」について考えてみることになる。人間とは何か。宗教学の観点からの諸々の思索を紹介してみたい。☑<br>授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。☑<br>位置づけ・水準：HL2101 |                          |  |  |
| <b>達成目標</b>    | 「到達目標」☑<br>・宗教学的"ものの見方"を理解する。☑<br>・宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。☑<br>・紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解すること。☑<br>単位認定の最低基準は:「内容の7割以上を理解していること」☑<br>DPとの関係: 問題解決力、倫理観・社会的責任   |                          |  |  |
| <b>受講資格</b>    | 家政学部人間生活学科 1年  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 試験成績 (60点) 出席状況 (60%以上) ・授業への理解度8割、合とする。   |  |
| <b>教科書</b>     | 特に指定しないが、必要に応じて、プリントを配布する予定。   |                          |  |  |
| <b>参考書</b>     | 岸本英夫『宗教学』、大明堂出版。『生活禅のすすめ』、山喜房佛書林出版。いずれも本学付属図書館に所蔵がある。  |                          |  |  |
| <b>学生への要望</b>  | ・授業に積極的に参加すること。☑<br>・ノートをこまめにとること。   |                          |  |  |
| <b>オフィスタイム</b> | 火曜日以外、毎日の昼休みが対応可能。   |                          |  |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目             | 授業内容  | 自学自習               | 目安時間 |
|----|----------------|---|--------------------|------|
| 1  | 宗教の分類          | 宗教にはいろいろなタイプものがある。宗教類型論に関する従来の研究を概観し、宗教の多様性を明らかにすることで、「人間と宗教」の問題を考える。☑                  | 初回に当たり、とくになし       | 1.5  |
| 2  | 神中心の宗教         | 神に視点をおいてみると、宗教の中には、神を立てるものと神を立てないものとの二つがあることに気づく。いわゆる有神論的宗教と無神論的宗教である。ここではそれらを具体的に指摘する。 | ノートを読み返し、内容を理解すること | 1.5  |
| 3  | 人間主義的宗教        | 人間に視点をおいてみると、宗教の中には、人間中心のものがあり、いわゆる権威主義的宗教と人間主義的宗教がそれぞれである。☑                            | ノートを読み返し、内容を理解すること | 1.5  |
| 4  | 神秘主義的宗教と預言者的宗教 | 東洋の禅仏教に着目しつつ、とくにキリスト教神秘主義とユダヤ教の預言者の宗教を取り上げて分析する。☑                                       | ノートを読み返し、内容を理解すること | 1.5  |
| 5  | 汎神論的宗教         | 神、絶対者、自然、宇宙などについて考えてみる。アニミズムの理論に着目し、自然観をも考えてみたい。☑                                       | ノートを読み返し、内容を理解すること | 1.5  |
| 6  | 民族宗教と世界宗教      | それぞれの共通点と相違点を具体的に指摘し、人間と宗教のとの関わり方を明らかにしたい。  | ノートを読み返し、内容を理解すること | 1.5  |
| 7  | 人間観と救済観        | 民族宗教と世界宗教の人間観と救済観について、ユダヤ教、神道、道教および仏教、キリスト教、イスラム教を具体例として考えてみる。☑                         | ノートを読み返し、内容を理解すること | 1.5  |
| 8  | 信仰の担い手         | 個人意識と社会意識に焦点を当てて、宗教とアイデンティティの問題を考える。☑   | ノートを読み返し、内容を理解すること | 1.5  |
| 9  | 幸福観            | 幸せとは何か。幸福の源泉と「恵み」について、ユダヤ教を例に取り上げて見てみる。   | ノートを読み返し、内容を理解すること | 1.5  |
| 10 | 世界中心の思想        | ミルチャ・エリアーデの宗教学における「世界の中心の思想」に着目し、諸宗教の世界観を概観する。☑   | ノートを読み返し、内容を理解すること | 1.5  |
| 11 | 救済の原理と価値観の転倒   | 民族宗教と世界宗教における救済原理と価値観を比較し、その多様性を明らかにする。☑  | ノートを読み返し、内容を理解すること | 1.5  |
| 12 | 死生観            | 民族宗教と世界宗教の人間観を比較してみる。☑  | ノートを読み返し、内容を理解すること | 1.5  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目       | 授業内容                                 | 自学自習               | 目安時間 |
|----|----------|--------------------------------------|--------------------|------|
| 13 | 宗教的人間（1） | これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。        | ノートを読み返し、内容を理解すること | 1.5  |
| 14 | 宗教的人間（2） | 前回に続き、「宗教的人間」の問題を考え、全体的な総括を行う。       | ノートを読み返し、内容を理解すること | 1.5  |
| 15 | まとめ      | 全体のまとめ。試験については、前の週の授業において指示する。☒<br>☒ | ノートを読み返し、内容を理解すること | 1.5  |
| 16 | 期末試験     | 期末試験を行う                              |                    | 0    |

|         |   |                 |  |
|---------|---|-----------------|--|
| 科目名     | 哲学的人間学  | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択                     |
| 担当教員    | 関川 悦雄   |                 |  |
| 開講期     | 後期  |                 |  |
| 授業概要    | 本授業のねらいは、前期で哲学的人間論を講義したので それを基礎にしてさらに思想的思索を深めて行くことにあります。前期では、歴史上の哲学者が人間をどうとらえたか、たとえば「人間は考える葦」（パスカル）とか、人間は知性的に行動するとか、人間は自由意志をもつ等を取り上げました。本講義は、前期における「人間の理解」を基礎にして、さらに人間の尊厳と倫理的課題を追究し、そしてボルノーの著書を基にして、哲学的人間学の学的内容を解明することを中心に進めて行きます。なお、この講義専用のノートを用意して、それに講義内容を予習・復習の形で記述して貰いますが、それに対するフィードバック（評価）は行います。位置づけ・水準はHL2102です。 |                 |  |
| 達成目標    | 1 受講者は人間の尊厳と倫理的課題の8割を理解し、まとめることができること。☑<br>2 受講者はボルノーの考え・思想の下にあって「人間をどうとらえたか」という人間像を把握できること。☑<br>3 受講者はボルノー思想に関する講義を聴いて自身の「人間としての生き方やあり方」を述べることでできること。これら三つの学修によって、ディプロマ・ポリシーに掲げられている「知識・理解」が深められ、「倫理観・社会的責任」が培われることが期待できる。また、単位認定の最低基準は、これらの三つの項目の7割程度理解し、活用できることである。☑   |                 |  |
| 受講資格    | 特になし  | 成績評価<br>方法      | 毎回、ワーク・シートを活用し、ゼミ形式で発表する方法の中で評価する。評価内容は、事前調べ・自作ノートの作成・発表・討議などで、20点とする。この評価を含めて、学期末でまとめ作成の80点とし、合計で100点とする。 |
| 教科書     | ボルノー著/峰島旭雄訳『実存哲学と教育学』（理想社、1966年、再版もあり）。この著書は学内の図書館にある。葛生栄二郎他共著『新・いのちの法と倫理』（改訂版、法律文化社、2017年9月を使用するが、この本は当方でコピー物で用意する。  |                 |  |
| 参考書     | 特になし  |                 |  |
| 学生への要望  | 講義への主体的、協力的な参加を要望する。この講義専用のノートを用意すること。  |                 |  |
| オフィスタイム | 水曜Ⅲ限（12:50～14:20）；同曜Ⅳ限（14:30～16:00）。教職課程推進室内の関川研究室（家政学館4階）。   |                 |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                | 授業内容  | 自学自習                 | 目安時間 |
|----|-------------------|---|----------------------|------|
| 1  | 講義ガイダンス           | 授業の進め方やワークシートの活用と自作ノートの作成、成績評価の付け方、班別討議の仕方などを説明する。少人数の受講者数の場合は、ゼミ形式（事前調べ・発表・質疑応答の一連の流れ）をとります。 | 予習・復習；自作ノートの作への整理・記述 | 40   |
| 2  | 人間の尊厳と人権尊重・福祉理念   | 人間としての尊厳の考え方とその習得、人権思想・福祉理念の歴史の変遷とその意義、人権尊重・権利擁護の考え方とその習得。                                    | 予習・復習；自作ノートへの整理・記述   | 40   |
| 3  | 自立の概念             | 人間にとっての自立の意味、人間尊重の主体的保持、介護を要する人における自己決定の考え方とその理解。   | 予習・復習；自作ノートへの整理・記述   | 40   |
| 4  | ボルノーの人物とその哲学      | ボルノーという人物の紹介、教育学における人間学的見方。   | 予習・復習；自作ノートへの整理・記述   | 40   |
| 5  | ディルタイの生の哲学と教育学    | ディルタイの生涯と思想、ディルタイの哲学・教育学と思想的位置づけ。   | 予習・復習；自作ノートへの整理・記述   | 40   |
| 6  | ボルノーの実存哲学と教育学     | 序論―出発点としての実存哲学、二つの根本的な教育観、教育における非連続的形式の可能性。   | 予習・復習；自作ノートへの整理・記述   | 40   |
| 7  | ボルノーにおける非連続的事象（1） | 危機（1）―身体的・精神的発達における非連続的事象、危機の本質はなにか、病気における危機。   | 予習・復習；自作ノートへの整理・記述   | 40   |
| 8  | ボルノーにおける非連続的事象（2） | 危機（2）―道徳的危機、生における危機の位置、危機にたいする教育学態度。  | 予習・復習；自作ノートへの整理・記述   | 40   |
| 9  | ボルノーにおける非連続的事象（3） | 覚醒―教育学的概念としての覚醒、肉体的・感覚的事象、覚醒の教育学側面。   | 予習・復習；自作ノートへの整理・記述   | 40   |
| 10 | ボルノーにおける非連続的事象（4） | 助言―生活における助言の役割、助言と決断、教育としての助言   | 予習・復習；自作ノートへの整理・記述   | 40   |
| 11 | ボルノーにおける非連続的事象（5） | 出会い（1）―出会いの概念（出会い、あたらしい出会い概念の二つの段階、二つの出会い概念の相違、出会いの実存的概念）。                                    | 予習・復習；自作ノートへの整理・記述   | 40   |
| 12 | ボルノーにおける非連続的事象（6） | 出会い（2）―出会いの実存的概念、出会い概念の拡張と精神科学的概念。  | 予習・復習；自作ノートへの整理・記述   | 40   |
| 13 | ボルノーにおける非連続的事象（7） | 出会い（3）―教育学上の問題としての出会い（出会いと陶冶との対立、出会いと陶冶との補助関係、教師との出会い）。                                       | 予習・復習；自作ノートへの整理・記述   | 40   |
| 14 | ボルノーにおける非連続的事象（8） | 教育における冒険と挫折―教育の本質的契機としての冒険、試行・賭け・冒険、教育への転用、挫折。  | 予習・復習；自作ノートへの整理・記述   | 40   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目     | 授業内容                              | 自学自習             | 目安時間 |
|----|--------|-----------------------------------|------------------|------|
| 15 | 授業のまとめ | 倫理やボルノー思想の学習を通してのまとめ。自作ノートに対する評価。 | 予習・復習；自作ノートのチェック | 40   |

|                 |  |                          |  |
|-----------------|--|--------------------------|--|
| <b>科目名</b>      | 人間発達学  | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択 |
| <b>担当教員</b>     | 堀 琴美   |                          |  |
| <b>開講期</b>      | 前期   |                          |  |
| <b>授業概要</b>     | <p>人は生涯にわたって発達を続けます。成人後も老年期も、人間として成長し、円熟し、次の世代を育てて、いのちのバトンをつないでいきます。また、子どもの成長と発達、様々な発見と驚きに満ちた、奥深い世界です。この授業では、発達心理学の基本的な知識を学ぶと同時に、最新の話題と情報を取り入れながら、人間の発達と成長について考えていきます。担当教員の医療・福祉分野における心理臨床の実務経験を活かし、訓練用構成事例や視聴覚教材を駆使して、子どもや大人の姿が目に見えるように伝えます。☒</p> <p>授業は毎回、双方向型対話形式を活用しながら進めていきますので、活発な質問や意見を歓迎します。ディスカッションやグループワークも行いますので、学んだことや感じたことを多言語り合ってください。☒</p> <p>レポート提出（あるいは試験実施）後は、添削やコメントを各学生にフィードバックします。☒</p> <p>位置づけ・水準 HL2203☒</p> <p>担当教員の実務経験経歴：臨床心理士として医療機関、福祉施設に勤務。</p> |                          |  |
| <b>達成目標</b>     | <p>【達成目標】☒</p> <p>①エリクソン、ハヴィガースト、ピアジェなど、主要な発達理論を理解する。☒</p> <p>②子どもの成長の過程（身体、運動機能、認知、感情、知能、精神）を理解する。☒</p> <p>③愛着理論や母子関係の理論、子ども虐待、愛着障害など重要な概念を理解し、専門用語を正しく使うことができる。☒</p> <p>単位認定の最低基準：上記の内容について、7割を理解していること。☒</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任</p>  |                          |  |
| <b>受講資格</b>     | 人間生活学科2年生☒<br>(生活総合コースは必修)   | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 期末試験または期末レポート（80%）☒<br>発言内容・受講態度、普段のレポート（20%）☒   |
| <b>教科書</b>      | 授業でレジュメや資料を配布する。   |                          |  |
| <b>参考書</b>      | テーマ別に授業で紹介する。  |                          |  |
| <b>学生への要望</b>   | 授業では、理解を深め、身近なものとして感じることができるよう、できるだけグループ討論や・ワークやディスカッションを多く取り入れたいと思います。積極的に参加して、おおいに意見を交わしてください。   |                          |  |
| <b>オフィスタイトム</b> | 水曜IV限、木曜I限、No.2(臨床心理学)研究室。   |                          |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                   | 授業内容  | 自学自習   | 目安時間 |
|----|----------------------|---|--|------|
| 1  | オリエンテーション            | 授業目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法などについて。☒<br>発達心理学とは何か。   | 次回授業内容（発達理論）について、参考書等にあたり、キーワードを調べておく。         | 30   |
| 2  | 発達理論                 | 代表的な理論家たち（フロイト、ハヴィガースト、エリクソン等）の発達理論を紹介します。  | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 3  | 子どもの発達Ⅰ              | 発達心理学のはじまり、昔の「子ども観」、発達の評価、遺伝か環境か。☒<br>赤ちゃんの力。生理的早産、視覚・聴覚・嗅覚、原始反射、新生児模倣、言葉の準備などについて。 | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 4  | 子どもの発達Ⅰ 乳児期（0～1歳）    | はいはいから歩行へ。言葉の獲得。睡眠の変化。嘔む力と離乳食など。  | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 5  | 子どもの発達Ⅱ 幼児期（2～3歳）の発達 | 自我のめざめと反抗期。言葉の発達。認識の広がり。「ごっこ」遊びなど。  | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 6  | 子どもの発達Ⅲ 幼児期（4～5歳）の発達 | 子どもの思考能力（ピアジェ）、自己中心性、子どもの描く絵、言葉と文法、ルールの学習など。  | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 7  | 子どもの発達Ⅳ 児童期の発達       | ギャングエイジ、兄弟の影響、知能検査、やる気を育てる、同調圧力、いじめなどについて   | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 8  | 子どもの発達Ⅳ 子どもの道徳性の発達   | コールバーグ、ギリガン、バンデュエラの理論、反抗期「恐怖の2歳児」、こころの理論などについて。                                     | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 9  | 青年期・成人期・高齢期の発達       | アイデンティティの獲得、モラトリアム、青年期の心理的危機と精神疾患。☒<br>人生のパートナーを探す、次世代を育成する、人生を振り返る、などについて。☒        | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 10 | 愛着理論Ⅰ 愛着と基本的信頼       | ボウルビイの愛着理論、エインスワースの安全基地、神経ネットワークの発達からみる愛着の形成など。                                     | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目             | 授業内容   | 自学自習   | 目安時間 |
|----|----------------|--|--|------|
| 11 | 愛着理論Ⅱ 愛着と共感する力 | 愛情ホルモンの機能と役割、物マネ神経細胞の発見、共感する力や想像力はどのように育まれるのか、など。☒ | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 12 | 愛着障害と虐待        | 反応性愛着障害、虐待された子ども、親の養育を支援する、などについて。                 | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 13 | ネグレクトの影響       | ネグレクトの種類、感受期、言葉の獲得、「犬に育てられた少年」を取り上げます。             | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 14 | 発達のみまづき        | 発達障害とは、アスペルガー障害（事例）、支援の方法、サヴァン症候群などについて            | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 15 | まとめと補足         | まとめ、補足説明、掘り下げ討論など。                                 | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |

|                |   |                          |   |
|----------------|---|--------------------------|---|
| <b>科目名</b>     | 生理学の人間学   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザイン<br>コース 2年 2単位 選択 |
| <b>担当教員</b>    | 諏訪 雅貴   |                          |   |
| <b>開講期</b>     | 後期  |                          |   |
| <b>授業概要</b>    | 人体を構成する基本的構造と機能を学ぶため、細胞、組織、器官並びに系統別レベルで学習する。また、老化や特殊環境における生理反応を理解する。<br>期末試験を添削して返却してフィードバックするので、復習に活用してください。☑<br>☑<br>位置づけ・水準 HL2204 |                          |   |
| <b>達成目標</b>    | 人体について構造と機能を理解し、さらに疾病や老化を学ぶことで、ヒトを客観的に説明できる。60点以上で単位を認定する。☑<br>ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、総合的な学習経験、創造的思考                                     |                          |   |
| <b>受講資格</b>    | 本学に在籍して、高等教育を積極的に学修する意欲がある<br>こと。   | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 期末試験（100点満点）で評価する。  |
| <b>教科書</b>     | イラストでまなぶ生理学 田中越郎著 医学書院、および配布資料  |                          |   |
| <b>参考書</b>     | 特になし  |                          |   |
| <b>学生への要望</b>  | 人体の構造と働きを学び、ヒトの存在について考える。   |                          |   |
| <b>オフィスタイム</b> | 水曜日の1・2限目 木曜日の4限目☑<br>担当教員研究室（家政学館3階 生理学・食品衛生学研究室）  |                          |   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目       | 授業内容  | 自学自習                    | 目安時間 |
|----|----------|---|-------------------------|------|
| 1  | ガイダンス、体液 | まず、本講義の概要について説明します。<br>人体は細胞の集合体であり、細胞の内外の液体を調整し、生命が維持されています。ここでは、浸透圧や脱水について学びます。 | 体液について、配布した資料をもとに復習する。  | 30   |
| 2  | 血液       | 血液の成分とその働き、凝固のしくみについて理解します。   | 血液について、配布した資料をもとに復習する。  | 30   |
| 3  | 免疫       | 自己と非自己、細胞性免疫、液性免疫、アレルギーについて理解します  | 免疫について、配布した資料をもとに復習する。  | 30   |
| 4  | 循環       | 循環器の構造、血圧変動、抹消循環をについて理解します。   | 循環について、配布した資料をもとに復習する。  | 30   |
| 5  | 呼吸       | 肺の構造と機能、呼吸中枢について理解します。  | 呼吸について、配布した資料をもとに復習する。  | 30   |
| 6  | 代謝       | 栄養素、エネルギー（ATP）、肥満について理解します。   | 代謝について、配布した資料をもとに復習する。  | 30   |
| 7  | 内分泌      | ホルモンの種類、分泌腺、機能について理解します。  | 内分泌について、配布した資料をもとに復習する。 | 30   |
| 8  | 体温       | 熱産生、熱放散、体温調節、特殊環境への応答について理解します。   | 体温について、配布した資料をもとに復習する。  | 30   |
| 9  | 消化       | 消化管、消化酵素、長期脳の調節について理解します。   | 消化について、配布した資料をもとに復習する。  | 30   |
| 10 | 排泄       | 泌尿器系と腎臓の機能について理解します。  | 排泄について、配布した資料をもとに復習する。  | 30   |
| 11 | 神経       | ニューロン、末梢神経、自律神経、中枢神経、大脳、反射について理解します。  | 神経について、配布した資料をもとに復習する。  | 30   |
| 12 | 筋と骨      | 筋と骨の構造、筋収縮について理解します。  | 筋と骨について、配布した資料をもとに復習する。 | 30   |
| 13 | 感覚       | 感覚やその受容器の種類、機能について理解します。  | 感覚について、配布した資料をもとに復習する。  | 30   |
| 14 | 老化       | 各器官や機能の老化現象について理解します。   | 老化について、配布した資料をもとに復習する。  | 30   |
| 15 | まとめと質疑応答 | これまでの内容を再確認し、試験対策と質疑応答を行います。  | 配布した資料をもとに復習する。         | 90   |

|                |   |                          |   |
|----------------|---|--------------------------|---|
| <b>科目名</b>     | 人間関係学   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択                |
| <b>担当教員</b>    | 堀 琴美  |                          |   |
| <b>開講期</b>     | 前期  |                          |   |
| <b>授業概要</b>    | <p>本講では“生活に役立つ臨床心理学”を基礎のスタンスとして、健康的な対人関係のあり方、アサーティブでスマートなコミュニケーション技術、問題解決の方法、支配と依存の問題、電子メディアとメンタルヘルスなどについて学習します。担当教員の臨床心理士（カウンセラー）としての実務経験を活かし、わかりやすい事例（オリジナルの訓練用構成事例）を使った解説や、コミュニケーションの実践的な訓練を行います。☒</p> <p>授業は毎回、双方向型対話形式を活用しながら進めていきますので、活発な意見や質問を歓迎します。ディスカッションやグループワークも行いますので、学んだことや感じたことを大いに語り合い、理解を深めてください。☒</p> <p>レポート提出（あるいは試験実施）後は、添削やコメントを各学生にフィードバックします。☒</p> <p>位置づけ・水準：HU2301☒</p> <p>担当教員の実務経験経歴：臨床心理士として、医療機関・福祉施設に勤務。</p> |                          |   |
| <b>達成目標</b>    | <p>【達成目標】☒</p> <p>①アサーションの基本理念や、相手に分かりやすい表現方法を習得する。☒</p> <p>②自分の性格特徴や、他者を理解するための客観性、共感性、広い視野の大切さを理解する。☒</p> <p>③対人関係における心の働きや、対等な関係における意思と選択の重要性を理解する。☒</p> <p>④暴力や支配、依存などの問題について理解し、問題発生への予防と対策を理解する。☒</p> <p>単位認定の最低基準：上記の内容について、8割を理解していること。☒</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、倫理観・社会的責任</p>  |                          |   |
| <b>受講資格</b>    | 人間生活学科☒<br>生活総合コース3年生   | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 期末試験または期末レポート（80%）☒<br>発言内容、発表内容、受講態度（20%）☒ |
| <b>教科書</b>     | 授業でレジュメや資料を配布。  |                          |   |
| <b>参考書</b>     | 「アサーティブ・コミュニケーション」（PHP、1200円）、「よくわかるコミュニティ心理学」（ミネルヴァ書房、2520円）   |                          |   |
| <b>学生への要望</b>  | 理論や知識だけでなく、体験的な学習を積み重ねていきたいと考えています。学生には、ひとりひとりの経験や感性、想像力、共感力を駆使し、積極的に参加、発言してもらいたいと思います。   |                          |   |
| <b>オフィスタイム</b> | 水曜日Ⅳ限、木曜日Ⅰ限 No.2(臨床心理学)研究室  |                          |   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目             | 授業内容  | 自学自習   | 目安時間 |
|----|----------------|---|--|------|
| 1  | オリエンテーション      | 本講の目標、授業内容、授業のポリシー、学生自己紹介などを行います。   | この授業で学ぶことについて概要を把握し、興味を持った内容について調べたり、文献に当たったりする。 | 30   |
| 2  | アサーティブな自己表現Ⅰ   | ポジティブな表現やニュートラルな表現方法、相手に責任を転嫁しないアイ・メッセージ、敢えて「言わない選択」をすることなど。                              | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。       | 30   |
| 3  | アサーティブな自己表現Ⅱ   | 構成事例を使って、具体的な問題が起きたときの解決プロセスと、アサーティブな表現を使った伝達方法、相手に依存しない意思決定などについて考えます。                   | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。       | 30   |
| 4  | アサーション・ステップアップ | 大切だった人との関係解消や厳しい状況下の決断など、人生には逆境や孤立に耐えなければならないときもあります。そんな時に大切な選択と意思決定、自己肯定感などについて考えます。     | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。       | 30   |
| 5  | 自己理解           | 円滑な人間関係形成のためには、自分をよく理解していること、そして相手を一生懸命に理解しようとする姿勢が大切です。まずは、自己理解のために心理テスト（性格検査）をやってみましょう。 | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。       | 30   |
| 6  | 他者理解Ⅰ          | 視点が変われば解釈も変わる。自分の「思い込み」が問題を複雑化することもあります。ここではステレオタイプや偏見、差別の心理について学びます。                     | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。       | 30   |
| 7  | 他者理解Ⅱ          | 同じものを見て、聞いて、味わっていても、感じ方は人それぞれ。認知と表現の多様性や性の多様性について学びます。                                    | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。       | 30   |
| 8  | 心の構造と適応する力     | こころの構造、こころの要素、人間の持つ適応機制（防衛機制）について学びます。  | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。       | 30   |
| 9  | DV・デートDV・虐待    | 人はなぜ愛する人に暴力を振るうのか、サイクル・オブ・バイオレンス理論、支配の力学、依存的関係などを考えます。                                    | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。       | 30   |
| 10 | 支配と依存          | 「支配」とは何か。人はなぜ支配と愛情を取り違えてしまうのか。対等な人間関係を形成するために何が重要なのかについて考えます。                             | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。       | 30   |



-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目            | 授業内容  | 自学自習                                       | 目安時間 |
|----|---------------|---|--|------|
| 11 | 健康と安全のための選択Ⅰ  | 女性が自身の健康と安全を守り、他者の健康と安全を守って生きていくために、正しい性の知識と意識、性の自己決定、意思表示とコミュニケーションなどについて考えます。 | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 12 | 健康と安全のための選択Ⅱ  | なぜ女の子に教育が必要なのか、女性を取り巻く社会の問題や複雑化・多様化する社会の中での情報収集や教育の大切さについて考えます。                 | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 13 | メディアとメンタルヘルスⅡ | 電子メディアと健康について。スマホ依存やゲーム依存が何をもたらすのかを取り上げます。                                      | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 14 | メディアとメンタルヘルスⅢ | 子どもの発達段階とメディアの影響、ゲームの進化、言葉の発達などについて考えます。  | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |
| 15 | まとめ           | まとめと補足。もう少し深めたいテーマ、最新の情報や課題についての質疑、討論、いくつかのキーワードと授業の感想など。                       | 授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 | 30   |

|                |  |                          |  |
|----------------|--|--------------------------|--|
| <b>科目名</b>     | 家政学原論Ⅰ   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修 |
| <b>担当教員</b>    | 安田 純子  |                          |  |
| <b>開講期</b>     | 前期   |                          |  |
| <b>授業概要</b>    | <p>家政学原論（Principles Home Economics）は、家政学の領域において根本・基礎を学び、家政学関連科目における専門的各論の土台となる科目です。☑</p> <p>家政学原論Ⅰでは、家政学の基礎として、その意味や目的・経緯と先達からの学びなどについて学びます。そして学問としてのあり方を研究し、「家政学とは何か」について考えていきます。家政学の歴史や発展、家政学の研究の目的・対象、研究の原理を学び、次いで家政学の理論を学びます。☑</p> <p>本授業では、人間を大切に考え、健全な（家庭）生活を求め、人間生活を総合的に捉え、生活上の課題に対する解決策をも考える家政学への誘いをし、専門的研究への道づけも目指します。☑</p> <p>最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑</p> <p>☑<br/>位置づけ・水準 HL2211☑<br/>☑</p> |                          |  |
| <b>達成目標</b>    | <p>目標は☑</p> <p>①家政学の発祥と展開について、女性の生きる姿勢や勇気を学び、女性の教養観の葛藤や、その苦労や活躍を理解し、家政学の下地の理解につなげることができたか。☑</p> <p>②家政学の構造について問題を整理し理解できたか。☑</p> <p>③今日の（家庭）生活について見つめ直し、人間生活の真の豊かさとは何か、人間の成長にとって家庭の意義とは何かについて問題意識を深めることができたか。☑</p> <p>☑</p> <p>単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。☑</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力・創造的思考力☑<br/>☑</p>   |                          |  |
| <b>受講資格</b>    | 家政学部人間生活学科生活総合コース 2年 ☑<br>2単位 必修☑<br>家政学部人間生活学科福祉コース 2年 2単位☑<br>必修☑<br>家政学部人間生活学科建築デザインコース<br>2年 2単位 必修☑<br>家政学部 食物栄養学科2年 2単位 必修☑  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 試験60%、レポートは40%☑  |
| <b>教科書</b>     | 日本家政学会 家政学原論部会編「やさしい家政学原論」建帛社（授業の準備や参照に使用する）☑  |                          |  |
| <b>参考書</b>     | 関口富左編著「家政哲学」家政教育社 他授業中に参考書や資料名を挙げる。図書館にて参照。  |                          |  |
| <b>学生への要望</b>  | <p>学問的要望☑</p> <p>授業は暗記ではない。考察できる力を養う。したがって、課題などに対して、図書館やインターネット等で調べ、常に今日的な社会的課題についての問題意識をもって自主的に考察を深めて欲しい。☑</p> <p>日常的要望（守るべきこと）☑</p> <p>授業態度については、学生としての本分を貫き、飲食等の行為、スマホを離さない態度、隣人のおしゃべりなどは厳禁であり、授業に集中すること。レポートは指定された日程を守り提出すること。☑</p>  |                          |  |
| <b>オフィスタイム</b> | 月曜日と木曜日の13:00~16:30☑<br>場所は、創学館N0. 1研究室☑   |                          |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目                     | 授業内容   | 自学自習  | 目安時間 |
|---|------------------------|--|---|------|
| 1 | ガイダンス 家政学への接近          | ・本科目の構成と進め方☑<br>・その他の説明、受講生の確認☑<br>・授業への導入☑<br>家政学とはどういう学問か☑   | はじめての学問であり、基軸となる学問なので、授業の内容把握の復習をする。                          | 30   |
| 2 | 家政学原論とは何か              | 1 家政学を知ること ☑<br>家政学とは何か 家政+学☑<br>原論とは何か☑<br>2 家政学における原論の意味と必要性 | テキストのp.83~p.90 p.91~p.98に目を通す。（読み込む必要はない。）☑<br>復習をする。         | 60   |
| 3 | 家政学入門1 家政学の目的・対象・方法、定義 | 1 家政学の目的・対象・方法☑<br>2 家政学の定義☑                                   | テキストのp.10~p.18の2.3.4.5.(授業内容に関連した項目)を読む。☑<br>復習をする。☑<br>定義の確認 | 60   |
| 4 | 家政学入門2 家政学の領域と独自性      | 1 家政学の領域☑<br>2 家政学の独自性   | テキストのp.10~p.18の6.7.8.(授業内容に関連した項目)を読む。復習をする。                  | 60   |
| 5 | 家政学発祥の経緯と変遷(家政学の展開過程①) | 1 家政学発祥の経緯☑<br>2 家政学の変遷☑<br>☑                                  | テキストのp.1ならびに第4章に目を通す。☑<br>復習をする。                              | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                     | 授業内容  | 自学自習   | 目安時間 |
|----|------------------------|---|--|------|
| 6  | 家政学発祥の経緯と変遷(家政学の展開過程②) | 家政学の変遷（胎動期から現在）☑  | テキストの第4章を読む。復習をする。   | 60   |
| 7  | 学問研究と研究者たちの姿勢          | 学問研究と研究者たちの姿勢☑<br>先達から何を学ぶか☑<br>（1）松島千代野先生☑<br>（2）亀高京子先生☑<br>*（3）関口富左先生☑<br>☑   | 本学の創始者である、故関口富左名誉学園長について、御著書「家政哲学」などをもとに調べる。☑<br>復習をする。                        | 60   |
| 8  | 人間・福祉・自然を護る家政学         | 1 人間・福祉・自然を護る家政学☑<br>（1）人間を護る家政学☑<br>（2）福祉を護る家政学☑<br>（3）自然を護る家政学☑   | 復習をする。☑<br>新聞などから生活に関する身近な諸問題を考える。   | 60   |
| 9  | 生活の学としての家政学            | 1 生活とは－生活のとらえ方☑<br>（1）人はなぜ着るのか－衣服がもつ意味☑<br>（2）なぜ食べるのか－食物がもつ意味☑<br>（3）なぜ住むのか－住まいがもつ意味（住むということ）                             | テキストp.50～p.56とp.83～p.90に目を通す。（読み込まなくてもよい。）☑<br>復習をする。☑<br>課題レポートのテーマについて考え始める。 | 60   |
| 10 | 家族と生活（1）               | 1 家族とは何か☑<br>（1）家政学がみる家族☑<br>2 家族の起源☑<br>（1）家族の基本的概念☑   | テキストp.66～p.82に目を通す。（読み込まなくてもよい。）☑<br>復習をする。☑                                   | 60   |
| 11 | 家族と生活（2）               | 1 日本社会における家族の変遷と諸問題☑<br>（1）核家族の進行と少子化☑<br>（2）家族構成の変化と高齢者世帯の増加☑<br>（3）出生数の低下の問題☑<br>（4）家庭における今日的な不安定要因☑<br>☑               | テキストp.66～p.82に目を通す。（読み込まなくてもよい。）☑<br>復習をする。☑<br>課題レポートに取り掛かる。                  | 60   |
| 12 | 家庭生活と社会生活（1）           | 1 生活のバランス☑<br>（1）ライフコースの多様化☑<br>（2）働くということ☑<br>（3）家庭内の仕事（家事）と社会的労働☑   | ライフコースについて簡単に調べる。☑<br>復習をしながら自分の将来について考える。☑<br>課題レポート作成（途中）                    | 60   |
| 13 | 家庭生活と社会生活（2）           | 1 ワーク・ライフ・バランス☑<br>（1）「仕事と生活の調和憲章」2007年 ☑<br>2 仕事と家庭経営☑<br>（1）時間と空間☑<br>（2）経済的自立☑<br>（3）健康で豊かな生活（豊かさとは）☑<br>（4）多様な生き方・働き方 | ワーク・ライフ・バランスについて調べる。☑<br>復習をしながら自分の生活について展望する。☑<br>課題レポート作成（途中）☑               | 60   |
| 14 | 家政学のこれから（1）            | 1 諸問題☑<br>（1）家事の外部化の問題☑<br>・家庭における既製品利用の拡大と危険性について☑<br>（2）利便性と効率性に振り回される生活スタイル☑<br>2 社会貢献・復興と家政学 ☑<br>3 確認テストに向けての復習☑     | テキスト第6章に目を通す（読み込まなくてもよい）☑<br>復習をする。☑<br>課題レポートを仕上げる。                           | 90   |
| 15 | 家政学のこれから（2）            | 1 sustainability(持続可能性)と家政学☑<br>2 人間守護☑<br>人間が生きるということ☑<br>家政哲学へ☑<br>3 全体のまとめ☑<br>4 確認テストと解説☑                             | 総復習をする。  | 120  |

|                |   |                          |  |
|----------------|---|--------------------------|--|
| <b>科目名</b>     | 家政学原論Ⅱ  | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択 |
| <b>担当教員</b>    | 安田 純子   |                          |  |
| <b>開講期</b>     | 後期  |                          |  |
| <b>授業概要</b>    | <p>本講義は家政学の学問的基礎を確立するために、家政学を哲学的に究明し、家政哲学を樹立した。このことは、家族生活並びに個人の生活、即ち家政学の拠り所となる家政学原論を成立させる。従ってその重要性を捉え、家政学の本質を敷衍する。よって、この本質的視点より人々の生活の安定性へ寄与することを意図し且つ生活への還元を図る。☑</p> <p>最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑</p> <p>☑<br/>位置づけ・水準 HL2 3 1 2 ☑</p> <p>☑</p> |                          |  |
| <b>達成目標</b>    | <p>【履修カルテの評価項目】☑</p> <p>①家政学の定義が理解できたか。☑</p> <p>②家政学における空間性・時間性についてどのくらい理解できたか。☑</p> <p>③「住むとはどんなことか」について理解できたか。☑</p> <p>☑</p> <p>・単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。☑</p> <p>・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理観・社会的責任☑</p> <p>☑</p>                           |                          |  |
| <b>受講資格</b>    | 人間生活学科2年生☑<br>食物栄養学科 2年生  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 受講態度（10％）、テスト（90％）   |
| <b>教科書</b>     | 関口富左編『家政哲学』家政教育社 ☑<br>☑   |                          |  |
| <b>参考書</b>     | ☑<br>関口富左編『人間守護の家政学』家政教育社 この参考書は図書館にありますので、読んでください。☑  |                          |  |
| <b>学生への要望</b>  | 予習、復習更に疑義等の説明について討議できるように種々の疑問点をす提起すること。☑   |                          |  |
| <b>オフィスタイム</b> | 水曜日14:30~16:30,金曜日13:00~16:30 ☑<br>創学館 4 階No.1研究室☑<br>(* 影山先生一月曜日12:00~12:40創学館 4 階No. 2 研究室) ☑<br>(* 深谷先生一月曜日12:00~12:40教務部) ☑<br>☑  |                          |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目                      | 授業内容   | 自学自習             | 目安時間 |
|---|-------------------------|--|------------------|------|
| 1 | 家政から家政学へ                | 家政学原論とは何か、家政学概論とは何か、原論と概論の違いについて意味内容の違いについて学びます。☑<br>家政から家政学への歴史について学び、また、日本の大学で家政学部から名称変更になった大学とその理由について話します。☑<br>本学の家政哲学研究の歩みと東北北海道地区の家政学原論開講状況について話します。                         | 講義資料について復習する。    | 60   |
| 2 | 家政学の定義                  | 先学者の定義の比較と意味内容の検討をします。☑<br>日本家政学会の定義、黒川喜太郎氏、松平友子氏、小池行松氏、中原賢次氏、林太郎氏、山本キク氏、林太郎氏、野口サキ氏、原田一氏の家政学の定義と関口富左氏の定義を比較します。そこから関口富左氏の定義は、個人や家族に視点があてられていること、また家政学は人間守護の学、という家政学の中心概念について理解します。 | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 3 | 家庭生活と人間                 | 文学作品、森鷗外『半日』における家庭を読み、主人公は家庭に何を望んでいるか、また家庭を存続させるには家庭には何が必要か、家族の役割をを学びます。また夏目漱石『道草』における家庭を読み、その文学作品から、主人公は家庭に何を望んでいるか、また子どもは家庭に何をのぞみ、子どもが育つためには何が必要かを学びます。                          | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 4 | ボルノーの被護性と本家政学における「人間守護」 | 本学家政学が、ボルノー哲学を拠り所として捉えた理由と、家政行為・技術の実態の内容の本質的意味について学びます。人間の生活の基本である住むことの哲学から、人間のよりどころとなる家庭や家族の本質を学び私たちの生活から人間を守護する方法を理解します。   | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                                | 授業内容   | 自学自習             | 目安時間 |
|----|-----------------------------------|--|------------------|------|
| 5  | ボルノーの住むことの意味について                  | ボルノーの住むことの意味について、「住むとは、世界のすべての道がそこから出。またそこに帰ってくるような一定の場所に属しており、そこから自分の世界を作り上げるということで、簡単に言えば居住地と呼ぶ。この居住地は秩序ある世界の中心であり、人間が住むことのできる限りにおいてのみ、人間の世界は一つの中心とともに整理され多秩序をもつものである」という言葉から住むこととは何かを具体的に学びます。  | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 6  | 家政学と人間所在一居住空間の分析一                 | 人間の体験的生活空間を「内部空間」と「外部空間」との二層に区切っている。内部空間は人間がそこへ帰り、その中で自分が安全だと観ずることができる休息と平和の空間であること、すなわち守護空間です。外部空間は労働と仕事の空間で敵意に満ちた緊張の中の空間であることを理解します。また、人間生活の健全さはこの、2つの領域の均衡が正しく保たれていることにかかっているというボルノーの言の意味について、実例をもって理解します。  | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 7  | 家政学と人間所在 一時間的分析と日常一               | 生活とは一つの空間を所有することであるが、それと同時に、時間の経過の中に身を置くことでもあります。人間存在における時間性の問題。主観・客観による時間の変化と日常生活の在り方を学びます。くつろいでいる時の時間は、可逆可能な時間、例えば回想・追憶・反省等々と時間をもどしたり、また静止させたりするなど自由な広がりを持つことができます。また、喜びに満たされている時の短いと感じる時間、苦痛を強いられている時の長いと感じる時間があり、これらの時間は主観的時間と言われます。他方、時計で計られる物理的な時間は客観的な時間と言い表すことについて理解します。 | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 8  | 家政学の独自性 一 二相性の解明 一、 家政学の研究方法論について | 個人と家族、合理と非合理、内部空間と外部空間空間、主観的時間と客観的時間等々観点より捉え、これを生活上より分析し、さらにその解明による実態確認をします。<br>☒  | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 9  | 現代の科学の動向                          | 19世紀後半、イギリスで誕生した新しい科学の特色、概要について講じます。   | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 10 | 現代の科学に対する警告                       | 個別化、高度化を進めてきた、科学に対する科学者自身による反省と警告について解説をします。   | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 11 | 本学家政学のパラダイム（1）                    | 本学家政学のパラダイムの概要を説明し、特に本学家政学の理念である「人間守護」について解説をします。  | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 12 | 本学家政学のパラダイム（2）                    | 本学家政学の対象及び対象空間について説明をします。  | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 13 | 本学家政学のパラダイム（3）                    | 本学家政学の方法論について説明をします。   | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 14 | 本学家政学の政策論（1）                      | 本学家政学における政策論として、シビル・ミニマムの思想について解説をします。   | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 15 | 本学家政学の政策論（2）                      | シビル・ミニマムの内容が生活の充実を実現する条件であることを解説をします。  | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |

|         |   |                 |   |  |
|---------|---|-----------------|---|--|
| 科目名     | 生活学原論   | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザイン<br>コース 1年 2単位 選択 |  |
| 担当教員    | 影山 彌  |                 |   |  |
| 開講期     | 後期  |                 |   |  |
| 授業概要    | <p>政治、経済、社会のそれぞれにおける活動は、本来の目的である、豊かな生活を必ずしも達成してきたとはいいがたい。こうした中で、ようやく昨今、生活や生活者の優先ということが言われるようになった。そこで、本講義では、生活に対する多面的な検討をとおして、真に豊かな生活の実現に向けて探究することにする。☒</p> <p>・最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☒</p> <p>☒<br/>位置づけ・水準 HL2 1 1 3</p> |                 |   |  |
| 達成目標    | <p>個人生活、家庭生活、地域生活、国民生活、国際生活など、多様な生活場面を理解するとともに、家庭および地域の生活がより重要であることを認識できること。☒</p> <p>・単位認定の最低基準は内容の7割を理解していること。☒</p> <p>・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、総合的な学習経験、創造的思考力</p>   |                 |   |  |
| 受講資格    | 人間生活学科（生活総合コース・建築デザインコース）   | 成績評価<br>方法      | 受講態度（20%）、レポート（80%）   |  |
| 教科書     | <p>特になし。☒</p> <p>授業内容に関する資料を配布する。</p>   |                 |   |  |
| 参考書     | 川添登『生活学の誕生』ドメス出版  |                 |   |  |
| 学生への要望  | 授業目標を毎回確認すること。☒   |                 |   |  |
| オフィスタイト | 金曜日を除く昼休み（12:00～12:50）☒<br>創学館4階No.2研究室   |                 |   |  |

## -授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                 | 授業内容   | 自学自習             | 目安時間 |
|----|--------------------|--|------------------|------|
| 1  | 生活学における原論の意味       | 原論が、その学問の学問としての要件を明らかにするものであること、そしてその点から、生活学の学問としての要件、すなわち、生活学の目的、対象、方法、意義、などについて講義する。☒方向型授業を実施する。 | 講義資料について復習する。    | 60   |
| 2  | 生活という概念            | 生活学の対象である生活について、その概念を、様々な見解から考えるとともに、(住むこと)、(生きること)、(くらすこと)という、3つのポイントからとらえる。☒                     | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 3  | 生活の範囲              | 生活が、個人、家庭、地域、国、世界とかかわりながら展開されることを捉える。  | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 4  | 個人生活               | 個人生活が優勢になりつつある現状を捉え、その長所と短所について考える。  | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 5  | 生活の外部化(1)          | 工業化の進展とともに、家庭生活が外部化されている現状を、子どもの育児、老親の介護その他を通して捉えるとともに、その功罪について考える。                                | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 6  | 生活の外部化(2)          | 男女平等をめざすスウェーデンにおける生活の外部化の現状とその問題点について考える。  | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 7  | 生活の内部化             | オランダにおける家庭の生活機能を護る取り組み、特に「ワッセナーの合意」のもつ意義について理解する。  | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 8  | 生活概念における（住むこと）の意味① | 生活の概念における（住むこと）の重要性について、G、パシュラールの考えを理解する。  | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 9  | 生活概念における（住むこと）の意味② | 生活の概念における（住むこと）の重要性について、O.F.ボルノーの考えを理解する。  | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 10 | 生活の自立(1)           | 政治及び企業による生活保障機能が弱体化してきた今日、行政サービスや商品に過度に依存できないという現状の中で、生活の自立・自存が国民的課題になってきたことを考える。                  | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 11 | 生活の自立(2)           | これまでのように、行政サービスや商品に過度に依存した生活が、逆生産性、シャドウワーク、行政管理、公害といった諸問題につながることを考える。                              | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 12 | 生活の自立(3)           | 生活の自立・自存を象徴するI.イリチのいう「ヴァナキュラーな生活様式」について理解する。   | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目             | 授業内容   | 自学自習             | 目安時間 |
|----|----------------|--|------------------|------|
| 13 | 生活とコミュニティ      | 地域におけるヒューマンな人間関係を形成し、豊かな関わりをもつ地域生活を意味するコミュニティについて理解する。   | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 14 | 生活とシビル・ミニマム(1) | 豊かな地域生活を支える経済的、物理的条件であるシビル・ミニマム—社会保障、社会資本、社会保健—について理解する。 | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |
| 15 | 生活とシビル・ミニマム(2) | 生活の豊かさについて、量的豊かさと質的豊かさの観点について理解する。                       | 講義資料について予習・復習する。 | 60   |

|                |  |                          |   |
|----------------|--|--------------------------|---|
| <b>科目名</b>     | 生活経済学  | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択 |
| <b>担当教員</b>    | 長谷川 貴弘   |                          |   |
| <b>開講期</b>     | 前期   |                          |   |
| <b>授業概要</b>    | <p>本授業では、経済学においてより生活と密接につながっている分野について学修を深める。現代社会において、我々の生活は貨幣を媒介とした経済活動なしには維持していくことはできない。それ故に、経済に関する知識を高め、経済への理解を深めることは、今後社会人として生活をしていく上で必須のものとなると思われる。☑</p> <p>本授業では、一家庭の経済生活である「家計」の歴史、家計経済の最近の傾向・今後の動き、さらにはライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債、持続可能な社会等について採り上げる。☑</p> <p>なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、活用の仕方について採り上げていく。☑</p> <p>【実務経歴】☑</p> <p>内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。☑</p> <p>【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☑</p> <p>小テスト採点后、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☑</p> <p>【位置づけ・水準】 HU2302</p> |                          |   |
| <b>達成目標</b>    | <p>【単位認定の最低基準】 ☑</p> <p>一家庭の経済生活である「家計」の歴史、家計経済の最近の傾向・今後の動き、さらにはライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債、持続可能な社会等について理解を深めることを目標とする。これら内容を8割程度理解していることを単位認定の最低基準とする。☑</p> <p>☑</p> <p>【ディプロマ・ポリシーとの関係】 知識・理解、問題解決力</p>   |                          |   |
| <b>受講資格</b>    | 家政学部 人間生活学科 3年生  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | ①小テスト30点（15点×2回）☑<br>②レポート70点                         |
| <b>教科書</b>     | プリントを配布する。   |                          |   |
| <b>参考書</b>     | 大藪千穂「生活経済学」放送大学教育振興会、2012年 ☑<br>重川純子「生活経済学」放送大学教育振興会、2016年   |                          |   |
| <b>学生への要望</b>  | 本授業の内容は、いずれも社会人として経済活動にかかわっていく上で必須のものとなると思われるのでしっかりと取り組んでもらいたい。  |                          |   |
| <b>オフィスタイム</b> | 火曜日 3コマ 水曜日4コマ☑<br>食品経営学研究室  |                          |   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目               | 授業内容  | 自学自習                            | 目安時間 |
|----|------------------|---|---------------------------------|------|
| 1  | ガイダンス・生活経済の歴史    | 授業の進め方、評価方法について説明する。☑<br>古代から現代までの生活経済を概観し、生活経済学の位置付けについて学修する。☑ | 配布したプリントの内容を読んでおくこと。            | 30   |
| 2  | 戦後の経済変化と生活       | 1945年以降現在までの経済と生活の変化について学修する。                                   | 配布したプリントの内容を読んでおくこと。            | 30   |
| 3  | 家計研究史（世界と日本）①    | 世界における家計研究・調査に関する歴史について学修する。                                    | 配布したプリントの内容を読んでおくこと。            | 30   |
| 4  | 家計研究史（世界と日本）②    | 日本における家計研究・調査に関する歴史について学修する。                                    | 配布したプリントの内容を読んでおくこと。            | 30   |
| 5  | 家計収支と家計簿記帳       | 家計の収入・支出の種類と家計簿の記帳法について、実際の統計資料の見方・活用の仕方を交えて学修する。               | 家計の収入・支出の種類についてノートを見直しておくこと。    | 30   |
| 6  | 家計をめぐる法則         | エンゲルの法則と必需品とぜいたく品の違い、消費者物価指数について学修する。☑                          | 各種統計の原理についてノートを見直して復習すること。      | 30   |
| 7  | ライフサイクルと貯金・負債①   | ライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債の変化について学修する。              | 配布したプリントの内容を読んでおくこと。            | 30   |
| 8  | ライフサイクルと貯金・負債②   | 各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債の変化について学修する。                         | 配布したプリントの内容を読んでおくこと。            | 30   |
| 9  | 単身世帯と二人以上世帯の家計①  | 単身世帯の家計の特徴について学修する。<br>小テスト（1回目）                                | これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習しておくこと。 | 60   |
| 10 | 単身世帯と二人以上世帯の家計②  | 二人以上の世帯の家計の特徴について学修する。  | 配布したプリントの内容を読んでおくこと。            | 30   |
| 11 | 離婚の経済とひとり親世帯の家計① | 離婚件数の現状と離婚にかかる費用について学修する。                                       | 配布したプリントの内容を読んでおくこと。            | 30   |
| 12 | 離婚の経済とひとり親世帯の家計② | 離婚後における生活上、経済上の変化について学修する。                                      | 配布したプリントの内容を読んでおくこと。            | 30   |
| 13 | 高齢者世帯の家計と生活①     | 高齢者世帯の家計とその特徴について学修する。  | 配布したプリントの内容を読んでおくこと。            | 30   |
| 14 | 高齢者世帯の家計と生活②     | 高齢者世帯の家計とその特徴について学修する。（前回の続き）                                   | 配布したプリントの内容を読んでおくこと。            | 30   |



-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目  | 授業内容                                 | 自学自習                            | 目安時間 |
|----|-----|--------------------------------------|---------------------------------|------|
| 15 | まとめ | これまでの学修内容について確認と復習を行う。<br>小テスト (2回目) | これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習しておくこと。 | 60   |

|         |  |                 |   |  |
|---------|--|-----------------|---|--|
| 科目名     | 家族関係学  | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択 |  |
| 担当教員    | 知野 愛   |                 |   |  |
| 開講期     | 前期   |                 |   |  |
| 授業概要    | 人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。教職(家庭科)の必修科目であるため、家庭科の「家族関係学」の学習領域を意識し、家族と福祉に重点を置いた内容とする。最終的にレポートを返却してフィードバックを行います。☑<br>位置づけ・水準:HL2414, FN2403 |                 |   |  |
| 達成目標    | 達成目標は、中間ポイント確認シートを8割以上、レポートを指定の通りに提出すること。☑<br>単位認定の最低基準:内容の8割を理解していること、ディプロマ・ポリシーとの関係:HL 1)知識・理解、3)倫理観、社会的責任。FN 3)社会貢献、4)意識と責任感                          |                 |   |  |
| 受講資格    | 人間生活学科・食物栄養学科4年生、文化学専攻科1年生他  | 成績評価<br>方法      | 中間ポイント確認シート(20点)☑<br>レポート(80点)  |  |
| 教科書     | 資料を配布する  |                 |   |  |
| 参考書     | 適宜提示する   |                 |   |  |
| 学生への要望  | 興味をもったキーワードを自分から調べておくこと。   |                 |   |  |
| オフィスタイム | (前期)木曜 1限、金曜 1限、(場所)芸術館1階 地域創成学科研究室No.1  |                 |   |  |

## -授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                   | 授業内容   | 自学自習   | 目安時間 |
|----|----------------------|--|--|------|
| 1  | 授業の進め方と概要            | シラバスに基づき、授業の内容と進め方等を説明する。                                | 復習: 配布資料をよく読み興味をもったワードを調べる。予習: 次回内容に関連するキーワードを調べておく。 | 120  |
| 2  | 家族と法律                | 結婚・婚約、婚姻の要件、結婚の効果、親子関係の成立等に関する法律的側面について理解する。             | 復習: 配布資料をよく読み興味をもったワードを調べる。予習: 次回内容に関連するキーワードを調べておく。 | 120  |
| 3  | 戸籍と家族                | 戸籍に見る人の一生、戸籍の様式や記載内容、様々な事例について学ぶ。                        | 復習: 配布資料をよく読み興味をもったワードを調べる。予習: 次回内容に関連するキーワードを調べておく。 | 120  |
| 4  | 戦後日本の人口変動            | 戦後日本の合計特殊出生率の変化。ベビーブーム、高度経済成長期以降の家族の変化を学ぶ。               | 復習: 配布資料をよく読み興味をもったワードを調べる。予習: 次回内容に関連するキーワードを調べておく。 | 120  |
| 5  | 少子社会の現状              | 日本の少子化を統計資料から学び、少子化の定義、問題点、様々な少子化対策について学ぶ。               | 復習: 配布資料をよく読み興味をもったワードを調べる。予習: 次回内容に関連するキーワードを調べておく。 | 120  |
| 6  | 中間振り返り・補足            | 家族の機能とは何かを考え、ここまで学んだ内容を振り返り、中間ポイント確認。                    | 復習: 配布資料をよく読み興味をもったワードを調べる。予習: 次回内容に関連するキーワードを調べておく。 | 120  |
| 7  | 少子化と子育て支援            | 少子社会における子育て支援の具体的事例を知り、子育て家庭の現状や家族の置かれている状況を考える。         | 復習: 配布資料をよく読み興味をもったワードを調べる。予習: 次回内容に関連するキーワードを調べておく。 | 120  |
| 8  | 地域における子育て            | 少子社会の背景、それに対する子育て支援策について学ぶ。欧米諸国の事例も学ぶ。                   | 復習: 配布資料をよく読み興味をもったワードを調べる。予習: 次回内容に関連するキーワードを調べておく。 | 120  |
| 9  | 家族が抱える諸問題1           | 経済的な問題、家族の不和、育児不安や虐待等に焦点をあて現代の家族の置かれている状況を考える。           | 復習: 配布資料をよく読み興味をもったワードを調べる。予習: 次回内容に関連するキーワードを調べておく。 | 120  |
| 10 | 家族が抱える諸問題2           | 経済的な問題、家族の不和、育児不安や虐待等に焦点をあて現代の家族の置かれている状況を考える。           | 復習: 配布資料をよく読み興味をもったワードを調べる。予習: 次回内容に関連するキーワードを調べておく。 | 120  |
| 11 | 高齢化と世帯の変化1           | 人口減少と世帯数の増加、世帯構造の変化に注目する。高齢者とそれを取り巻く家族の様子を知る。            | 復習: 配布資料をよく読み興味をもったワードを調べる。予習: 次回内容に関連するキーワードを調べておく。 | 120  |
| 12 | 高齢化と世帯の変化2           | 人口減少と世帯数の増加、世帯構造の変化に注目する。高齢者とそれを取り巻く家族の様子を知る。            | 復習: 配布資料をよく読み興味をもったワードを調べる。予習: 次回内容に関連するキーワードを調べておく。 | 120  |
| 13 | 戦後日本の家族の変化と高齢者の生活の変化 | 戦後日本における家族の変化と高齢者の生活の変化に注目する。要介護高齢者と家族を取り巻く社会状況の変化に着目する。 | 復習: 配布資料をよく読み興味をもったワードを調べる。予習: 次回内容に関連するキーワードを調べておく。 | 120  |
| 14 | 海外の高齢者と家族            | 海外の高齢者と家族の状況について学ぶ。                                      | 復習: 配布資料をよく読み興味をもったワードを調べる。予習: 次回内容に関連するキーワードを調べておく。 | 120  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目       | 授業内容                 | 自学自習                    | 目安時間 |
|----|----------|----------------------|-------------------------|------|
| 15 | まとめ・振り返り | 授業全体を振り返り、まとめ補足説明する。 | 復習: 配布資料をよく読み授業全体を振り返る。 | 120  |

|                |   |                          |  |  |
|----------------|---|--------------------------|--|--|
| <b>科目名</b>     | 生活経営学Ⅰ  | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択 |  |
| <b>担当教員</b>    | 大泉 由美,深谷 笑子   |                          |  |  |
| <b>開講期</b>     | 前期  |                          |  |  |
| <b>授業概要</b>    | <p>本授業では、人と物の関わりにおいて、人間を中心とし、人間の生活を護り、一層向上させるため様々な分野の学問研究をも駆使し、健全な生活を築くために多面的な考え方を学ぶ。☑</p> <p>「人間守護」の理念に基づく家庭（内部空間）と社会（外部空間）の調和ある生活は、価値観の多様化傾向が時間の経過とともに広がる現代社会には不可欠な課題である。そこで、生活経営の基本的要因である「人・物・財貨（金）・時間」を中心に家庭・社会の両空間の調和ある望ましい生活経営の在り方を考える。☑</p> <p>レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。☑</p> <p>☑</p> <p>位置づけ・水準 HL2 2 1 5 ☑</p> <p>☑</p> |                          |  |  |
| <b>達成目標</b>    | <p>単位認定の最低水準は内容の7割を理解していること。☑</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力☑</p> <p>☑</p> <p>【履修カルテ】</p> <p>①内部空間と外部空間が密接不離であることが理解できる。☑</p> <p>②私たちは、組織の中にいることが理解できる。☑</p> <p>③家庭経済の仕組みが理解できる。</p>   |                          |  |  |
| <b>受講資格</b>    | 人間生活学科2年生以上   | <b>成績評価<br/>方法</b>       | テスト60%、課題・発表40%  |  |
| <b>教科書</b>     | 必要に応じて資料を配付する。☑   |                          |  |  |
| <b>参考書</b>     | 『新しい生活経営学』関口富左・関口修共著家政教育社出版 『家政哲学』関口富左編著 家政教育社 『組織の中の人間行動』三村敏子他著 有斐閣<br>『人間と空間』O.F.ボルノー著 大塚恵一訳 せりか書房 ☑<br>その他適宜授業中に紹介する。  |                          |  |  |
| <b>学生への要望</b>  | <p>・新聞やニュースなどで情報を収集を収集しながら、社会の状況に興味・関心を持ってください。☑</p> <p>・多くの生活体験を通し、「よりよい生活」実現のために行動できるよう、積極的に授業に臨んでください。</p>   |                          |  |  |
| <b>オフィスタイト</b> | <p>深谷 月曜日12時30分～12時45分（教務部）☑</p> <p>大泉 火曜日2限☑</p> <p>木曜日1限☑</p> <p>（創学館4階No.3研究室）</p>   |                          |  |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目        | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|---|-----------|---|---|------|
| 1 | ガイダンス     | ・授業の概要と進め方の説明   | シラバスを読んでおくこと。「生活」と「経営」の言葉の意味を調べておくこと。               | 30   |
| 2 | 人間の生活する空間 | ・ニュースの発表☑<br>・人間が生活するためには家庭(内部空間)と社会(外部空間)は密接不離な関係にあること、両者の関係が如何に重要な関係にあるかを理解するとともに、両者の均衡を保つために必要なことは何かをディスカッションする。 | 講義資料の予習をしておくこと。講義内容の復習をする。                          | 60   |
| 3 | 組織体①      | ・ニュースの発表<br>・組織体とは何か。歴史的経過を踏まえ理解する。☑  | 組織とは何かについて予め調べておくこと。講義内容の復習をする。                     | 60   |
| 4 | 組織体②      | ・ニュースの発表☑<br>・組織体の管理・運営方法、その基本的な要因を内部空間の健全なる発展に活用することを前提として、組織体の管理・運営を学び、併せて外部空間の組織的構成についてもその意義を考える。                | 一般企業や学校等の組織図を調べておくこと。講義資料の復習をする。                    | 60   |
| 5 | 組織体③☑     | ・ニュースの発表。<br>・組織体の管理・運営の方法を具体的に学習し、生活への活用について理解を深める。☑   | 組織に関するニュースを調べておくこと。第2～5回まで講義内容の理解度を確認するためレポートを提出する。 | 120  |
| 6 | 計画        | ・ニュースの発表<br>・計画とは何かを具体的に知ることは家庭（内部空間）の安定確保と更なる発展を図るためにも不可欠である。☑画の基本的な内容(意義)について学び、計画の中には長期計画と短期計画があることを理解する。☑       | 計画と予定の違いを調べておくこと。講義内容の復習をする。                        | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目          | 授業内容   | 自学自習  | 目安時間 |
|----|-------------|--|---|------|
| 7  | 計画の限界       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニュースの発表</li> <li>・ ここでは計画の限界を知り、如何にして計画を是正するかを考えると共に計画を内部空間の管理・運営に活用するかについてディスカッションをおこなう。</li> </ul>  | なぜ情報を持っていることが大切なのかを考えておくこと。講義内容の復習をする。          | 60   |
| 8  | 統制          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニュースの発表</li> <li>・ 人間は常に何らかの自己統制(管理)を行い周囲の人々との調和を図りつつ生活をしているが、組織体の健全な運営のためには意識的(規則・規程)に統制(管理)を行わなければならない。内部空間にあっても理性的な自己規制をはじめとして約束事(規則・規程)がある。人間が集団化し何らかの行為を行うには統制を図ることが必要であることを理解する。</li> </ul> | 統制とは、どのようなものか調べておくこと。講義内容について復習する。              | 60   |
| 9  | 経営の要因       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニュースの発表</li> <li>・ 経営の要因である「人・物・財貨(金)・時間」について統制の在り方を項目別及び総合的に学ぶ。☒</li> </ul>  | 第6～9回まで講義内容の理解度を確認するためレポートを提出する。                | 120  |
| 10 | 指導・リーダーシップ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニュースの発表☒</li> <li>・ 生活に必要な指導とは、リーダーシップとは何かということ学ぶ。現代社会での指導的役割を果たすリーダーの重要性について考える。講義内容を踏まえて自分が考える理想のリーダーについてプレゼンテーションをおこなう。</li> </ul>   | リーダーに必要な要素、影響力について考えをまとめておくこと。講義内容の復習をする。       | 60   |
| 11 | 人間と時間、生活と時間 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニュースの発表☒</li> <li>・ 私たちにとって、時間は何物にもかえがたいほどの関わりがあるが、それにもかかわらず重要視されていないのは何故か。人間と時間、生活と時間について考える。生活時間調査から考える生活の課題についてディスカッションをおこなう。</li> </ul>   | 配布されたプリントに生活時間調査をおこなってくる。講義内容を復習する。             | 60   |
| 12 | 家庭経済        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニュースの発表☒</li> <li>・ 家庭経済と経済社会、家庭経済に影響を及ぼす経済動向について理解を深める。</li> </ul>   | 経済に関するニュースを調べておくこと。講義内容の復習をすること。                | 60   |
| 13 | 家計の構成・家計簿   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニュースの発表</li> <li>・ 生活経営と家計、家計の構造(収入・支出・貯蓄)、家計の個別化について理解する。ライフステージに合わせて家計の課題も変わっていくことを理解する。</li> </ul>   | 総務省『家計調査』データの資料を基に、家計の変化について考えておくこと。講義内容の復習をする。 | 60   |
| 14 | 消費者の権利と責任   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニュースの発表☒</li> <li>・ 現代の消費生活や消費問題に理解を深める。☒</li> <li>・ 経済の高度成長と大量消費生活、「消費者」の登場と消費者保護、消費のサービス化と情報革命等について学び、生活者としてよりよい生活の在り方を考える。消費者を取り巻く問題を取り上げ(新聞記事等)、ディスカッションをおこなう。</li> </ul>                     | 消費生活に関するニュースを調べておくこと。講義内容の復習をする。                | 60   |
| 15 | まとめ         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニュースの発表</li> <li>・ 講義内容の総括☒</li> </ul>  | 講義内容をまとめ、定期試験に備える。                              | 60   |

|         |   |                 |                              |
|---------|---|-----------------|------------------------------|
| 科目名     | 生活経営学Ⅱ  | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択 |
| 担当教員    | 大泉 由美   |                 |                              |
| 開講期     | 後期  |                 |                              |
| 授業概要    | この授業は生活経営学Ⅰと連動して、「人間守護」（人間を守る）の理念に基づき、人と物の関わりにおいて、人間を中心とし、人間の生活を護り、一層向上させるため様々な分野の学問研究を駆使し、健全な生活を築くために多面的な考えを学ぶ。自分自身の問題として「考える」ことを通して、よりよい生活を構築することができる。☑<br>・レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。☑<br>☑<br>位置づけ・水準 HL2203 |                 |                              |
| 達成目標    | ・社会のしくみと生活経営の関係について考えることができた。☑<br>・単位認定の最低水準は、内容の7割を理解していること。☑<br>・ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力   |                 |                              |
| 受講資格    | 人間生活学科2年生以上☑  | 成績評価<br>方法      | テスト60%、課題・発表40%              |
| 教科書     | 必要に応じて資料を配付する。  |                 |                              |
| 参考書     | 関口富左編『人間守護の家政学』家政教育社 石川実編『高校家庭科における家族・保育・家政・福祉・経済』家政教育社   |                 |                              |
| 学生への要望  | ・日常生活の問題について認識を持つために、毎日、新聞やニュースに目を通しておくこと。☑<br>・多くの生活体験をすることにより、「よりよい生活」実現のために行動できるよう、積極的に授業に臨むこと。☑   |                 |                              |
| オフィスタイト | 深谷・月曜日12:20~12:40 火曜日12:20~12:40（教務部）☑<br>大泉・月曜日1限、火曜日2限（創学館4階No.3研究室）☑   |                 |                              |

## -授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目            | 授業内容  | 自学自習                                    | 目安時間 |
|----|---------------|---|---|------|
| 1  | ガイダンス         | ・授業の進め方や評価方法を理解する。☑   | シラバスを読むこと。生活経営学Ⅰの講義資料を確認しておくこと。         | 60   |
| 2  | 人間と時間、生活と時間   | ・人間と時間、生活と時間の関わりについて理解する。   | 講義資料を読み、その内容を把握しておくこと。                  | 60   |
| 3  | 人間ともの、生活ともの   | ・ものは、人間が主体となり、人間に付随した「もの」であること。また、ものを人間が使用するので、使用の仕方が重要であることを理解する。                        | 講義資料を読み、その内容を把握しておくこと。                  | 60   |
| 4  | 人間と財貨、生活と財貨   | ・生活の中で重要な役割を果たす財貨と人間、生活、それぞれの関わりについて理解する。   | 講義資料を読み、その内容を把握しておくこと。第2~4回の講義内容の副酒をする。 | 120  |
| 5  | 生活の総合体①       | ・第2回~4回の講義を通し、生活とは総合体であることが見えてくる。そこで、生活が総合体であることの理解を一層深めるために、生活（家庭）経営の諸要素（衣・食・住）について理解する。 | 講義資料を読み、その内容を把握しておくこと。                  | 60   |
| 6  | 生活の総合体②       | ・第5回に続き、生活が総合体であることの理解を深めるために、生活（家庭）経営の諸要素（衣食住・教育・保育・情報）について解説する。                         | 第5回の講義内容を確認しておくこと。プレゼンテーションの準備をすすめる。    | 120  |
| 7  | 生活の総合体③       | ・生活（家庭）経営の諸要素（衣食住・教育・保育・情報など）について、各自が気になるテーマを取り上げ、プレゼンテーションをおこなう。                         | プレゼンテーションを完成させておくこと。他者評価に基づき振り返りをおこなう。  | 90   |
| 8  | 生活に関する不易流行①   | ・前回まで学修した諸要素はそれぞれに深い関わりあいがある。どの様な関わりあいを持たれているかについて、具体的な例示によって学ぶ。、さらに生活に関する不易流行について考える。    | 不易流行についてその意味を調べておくこと。講義内容の復習をする。        | 60   |
| 9  | 生活に関する不易流行②   | ・生活の中の不易流行を取り上げグループディスカッションをおこない、不易流行についてより深く考える。   | 生活の中の不易流行について説明できるよう準備する。講義内容の復習をする。    | 90   |
| 10 | 現代の多様な価値観①    | ・内部空間（家庭）の生活そのものが幅広く多様な価値観によって経営（運営）されるようになってきている。現代の多様な価値観について考える。                       | 講義資料を読み、自分自身の価値観について考えをまとめておくこと。        | 60   |
| 11 | 現代の多様な価値観②    | ・価値観についてグループディスカッションをおこなう。他者の考えを聞くことにより多様な価値観が存在することをあらためて理解する。                           | 祖父母や親世代の価値観について話しを聞いておくこと。講義内容の復習をする。   | 90   |
| 12 | 内部空間の変動（変化）要因 | ・経営体としての家庭（内部空間）は家庭内部の問題並びに外部空間からの諸影響により様々に変化する。内部空間の変動（変化）要因について理解する。                    | 講義資料を読み、その内容を把握しておくこと。講義内容の復習をする。       | 60   |
| 13 | 外部空間の変動（変化）要因 | ・第11回に続き、自然等の要因を含めた外部空間からの影響による変動要因について理解する。  | 講義資料を読み、その内容を把握しておくこと。講義内容の復習をする。       | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目         | 授業内容   | 自学自習                              | 目安時間 |
|----|------------|--|-----------------------------------|------|
| 14 | 基本的変動要因と時間 | ・変動（変化）と時間とは表裏一体のものである。基本的変動要因と時間の関係について内部空間と外部空間について理解する。 | 講義資料を読み、その内容を把握しておくこと。講義内容の復習をする。 | 60   |
| 15 | 守護機能（まとめ）  | ・私たちのあらゆる生活には守護機能が作用している。生活経営学の「まとめ」として守護機能について多面的に理解する。   | 講義内容をレポートにまとめ提出する。                | 60   |

|                |  |                          |   |  |
|----------------|--|--------------------------|---|--|
| <b>科目名</b>     | 消費生活論  | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザイン<br>コース 3年 2単位 選択 |  |
| <b>担当教員</b>    | 長谷川 貴弘   |                          |   |  |
| <b>開講期</b>     | 前期   |                          |   |  |
| <b>授業概要</b>    | <p>大きく変化する社会情勢の中、消費者を取り巻く環境は変化し続けており、消費者問題の内容も時代とともに変貌している。現代における諸問題を把握し、日常生活の中の身近な問題として捉え、学生自らが安全・安心な生活を送ることができるようになることを目指す。☒</p> <p>また、消費生活に関する法律、政策、行政や企業の取り組みを理解し消費者教育を実践できるようになることを目指す。☒</p> <p>なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方・活用の仕方、法律と行政組織について採り上げていく。☒</p> <p>【実務経歴】☒</p> <p>内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。☒</p> <p>【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒</p> <p>小テスト採点后、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒</p> <p>【位置づけ・水準】 HL2316☒</p> <p>☒</p> <p>☒</p> |                          |   |  |
| <b>達成目標</b>    | <p>【単位認定の最低基準】 ☒</p> <p>下記①～③の目標の8割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。☒</p> <p>①消費者問題の実情を知り、課題を見出し、その解決策の方向性を見出すことができる。☒</p> <p>②日常生活の中で実践することができる自立した消費者の育成のために学生自身の消費者力を高める。☒</p> <p>③政策、法律、行政や企業の取り組み等を理解し、消費者力検定にチャレンジできるだけの能力を養う。☒</p> <p>☒</p> <p>【ディプロマ・ポリシーとの関係】 論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任☒</p> <p>☒</p> <p>☒</p>   |                          |   |  |
| <b>受講資格</b>    | 家政学部人間生活学科生活総合コース、建築デザインコース 3年生  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | ①小テスト30点（15点×2回）☒<br>②課題（消費者問題に関するレポート）70点                      |  |
| <b>教科書</b>     | プリントを配布する。   |                          |   |  |
| <b>参考書</b>     | ハンドブック消費者2014（消費者庁企画課）他☒   |                          |   |  |
| <b>学生への要望</b>  | <p>現代消費生活における課題を捉えるために、次のことを要望する。☒</p> <p>①新聞をよく読み、消費生活に関する記事を収集する。☒</p> <p>②消費者力検定に挑戦し、幅広い知識の習得を目指す。</p>  |                          |   |  |
| <b>オフィスタイム</b> | 火曜日 3コマ 水曜日4コマ☒<br>食品経営学研究室  |                          |   |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目                | 授業内容  | 自学自習                            | 目安時間 |
|---|-------------------|---|---------------------------------|------|
| 1 | ガイダンス             | 授業の目的および授業計画について説明（内容、評価方法について等）☒、消費者を取り巻く社会経済情勢と消費者行動・意識について学修する。☒               | 配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。 | 30   |
| 2 | 消費者問題の変遷          | 年代ごとにどのような消費者問題が発生したか概観し、様々な消費者問題の背景にある社会の情勢を読み取る。                                | 配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。 | 30   |
| 3 | 消費者行政の変遷①         | 消費者問題に対応してどのような政策が行われたか概観し、消費者問題に対処するための機関～消費者庁の誕生、国民生活センター、消費生活センターの役割～について学修する。 | 配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。 | 30   |
| 4 | 消費者行政の変遷②         | 前回に続いて、消費者庁、国民生活センター、消費生活センターの役割について動画教材の視聴等も通じて学修する。                             | 配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。 | 30   |
| 5 | 消費者の権利と責任①        | 消費者基本法、消費者の権利と責任☒消費者保護の概念について学修する。  | 配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。 | 30   |
| 6 | 消費者の権利と責任②        | 前回に続いて、消費者基本法、消費者の権利と責任☒消費者保護の概念について動画教材の視聴なども通じて学修する。                            | 配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。 | 30   |
| 7 | 自立した消費者を目指して①契約とは | 契約の意味、☒成年者契約☒契約に関するトラブルについて学修する。  | 配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。 | 30   |
| 8 | 自立した消費者を目指して②経済   | 消費者契約法☒特定商取引法について学修する。  | 配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。 | 30   |
| 9 | 自立した消費者を目指して③食    | 食品の安全・安心☒新しい食品表示制度について学修する。☒  | 配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。 | 30   |



-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                    | 授業内容   | 自学自習   | 目安時間 |
|----|-----------------------|--|--|------|
| 10 | 自立した消費者を目指して④生活用品     | 消費生活用製品安全法について学修する。<br>小テスト（1回目）                                     | これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。                               | 60   |
| 11 | 消費生活と環境～循環型社会のための法制度① | 持続可能な社会の構築と法律☑グリーンコンシューマーの概念、☒持続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。        | これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。 | 30   |
| 12 | 消費生活と環境～循環型社会のための法制度② | 持続可能な社会の構築と法律☑グリーンコンシューマーの概念、☒持続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。（前回の続き） | これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。 | 30   |
| 13 | 消費者教育・啓発活動            | 一般消費者に向けてどのような消費者教育が行われているか学修する。☑                                    | これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。 | 30   |
| 14 | 公平かつ自由な競争の促進          | 独占禁止法、不正競争防止法、その他各種制度について学修する。                                       | 消費者問題について、これまでの学修内容と自身で調べたことを元にレポートを作成する。                  | 60   |
| 15 | まとめ                   | 消費者力検定とその内容について理解を深め、過去問等にチャレンジする。<br>小テスト（2回目）<br>☑                 | これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。                               | 60   |

|                |  |                          |  |
|----------------|--|--------------------------|--|
| <b>科目名</b>     | 消費者保護関連法   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択                         |
| <b>担当教員</b>    | 長田 城治  |                          |  |
| <b>開講期</b>     | 後期   |                          |  |
| <b>授業概要</b>    | [授業の目的・ねらい] ☑<br>自ら考え行動する自立した消費者を目指し、衣・食・住生活に関する消費者問題を関連法律とその具体的事例を通して学ぶ。☑<br>☑<br>[授業全体の内容の概要] ☑<br>この授業は、3領域から構成され、2名の教員がそれぞれの領域の消費者問題について担当する。☑<br>○衣生活領域・・・難波めぐみ 担当：1から4(4回) ☑<br>○食生活領域・・・難波めぐみ 担当：12から15(4回) ☑<br>○住生活領域・・・長田城治 担当：5から11(7回) ☑ |                          |  |
| <b>達成目標</b>    | [達成目標] ☑<br>①身の回りにある消費者問題を理解する。 ☑<br>②自立した消費者として消費者問題に関する関連法を理解する。☑  |                          |  |
| <b>受講資格</b>    | 特になし   | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 各領域ごとにレポート、プレゼンテーションを行う。(3領域×30点=90点) ☑<br>ノート点(10点) |
| <b>教科書</b>     | 授業の領域ごとに、担当教員から配布する。   |                          |  |
| <b>参考書</b>     | 授業の領域ごとに、担当教員から紹介する。   |                          |  |
| <b>学生への要望</b>  | 新聞やニュースをよく読み、消費生活の動向を知り、探究心を持って授業に臨んで欲しい。また、授業で出された課題に積極的に取り組むこと。☑   |                          |  |
| <b>オフィスタイト</b> | 長田：月（Iコマ）、水（IVコマ） 場所：本館 1F No.2住居学研究室☑<br>難波：水（IVコマ）、金（IIIコマ） 場所：家政学館4F被服学研究室  |                          |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目                                   | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|---|--------------------------------------|---|---|------|
| 1 | ガイダンス ～消費生活と法律<br>～ [担当：難波(9/10)]    | 本授業の目標、概要、3領域の内容について、説明する。☑<br>また、消費生活と法律の関わりについて解説する。  | シラバスで授業内容を確認し、消費生活と法律について理解する               | 50   |
| 2 | 【衣領域】衣生活の中の消費者問題 [担当：難波(9/25)]       | ①衣生活の中の消費者問題 ☑<br>②暮らしの中の表示（a.安全を保証する表示 b.衣生活関連の表示 C.品質を保証する表示 d.環境への配慮表示）<br>身近な衣生活に関する表示の存在と意味を知り消費者問題を考える。☑  | 消費者問題について新聞等で記事を1つ見つけノートに内容と改善方法など記載する      | 90   |
| 3 | 【衣領域】衣生活の中の取組み<br>(1) [担当：難波(10/1)]  | 1) 家庭用品品質表示法と繊維製品品質表示☑<br>2) 様々な繊維製品と皮膚障害（a.化学物質による皮膚障害 b.抗菌防臭加工製品 C.紫外線防止処理製品 d.生地と紫外線透過率） ☑<br>消費者として商品購入の際に必要な情報を正確に知ることにより、様々なトラブルから身を守ることに繋がることを考えていく。☑  | 皮膚被害について事前確認し、対策方法をノートにまとめる                 | 90   |
| 4 | 【衣領域】衣生活の中の取組み<br>(2) [担当：難波(10/10)] | 1) 洗濯とクリーニング☑<br>正しい繊維の知識を学習しながら、洗濯用洗剤の使用及びクリーニングのトラブルをさける方法を考えていく。☑<br>2) 衣生活と資源・環境に配慮した消費生活の工夫と実践☑<br>a.循環型社会（5R） b.衣生活関連消費者保護法のまとめ☑<br>環境に配慮した消費生活を考えるとともに、衣生活に関連した消費者保護に関する法の学修したことをまとめ発表する。☑<br>☑<br>☑ | 正しい洗濯方法を事前確認する。クリーニングトラブルについて事例を見つけノートにまとめる | 90   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                                       | 授業内容  | 自学自習                          | 目安時間 |
|----|--|---|-------------------------------|------|
| 5  | 【住領域】住生活に関する消費者の視点と保護 [担当:長田(10/15)]     | 安全・安心な建物を建築し利用するには、建築を実際に設計・施工する生産者だけでなく、消費者側が知っておくべき知識も必要になっている。ここでは、住生活に関わる法律や建物を建築・購入する上で重要な事項について、消費者側の目線から学ぶ。まず住生活に関する消費者保護に関する現状とその問題点について概観する。 | 住生活に関わる法律について事前調査する           | 90   |
| 6  | 【住領域】安全・安心な住空間と建築1 [担当:長田(10/22)]        | ☑宅の建設、リフォームにおいて必要な工程や手続きを学び、それらに必要な法律を学修する。また、快適で安全な住空間を造る上で重要な材料や施工方法、土地などについて学習し、自身の理想の住宅を想起する。   | 住生活に関わる法律についてまとめる             | 90   |
| 7  | 【住領域】安全・安心な住空間と建築2 [担当:長田(10/29)]        | マンションなどの購入・売却に関する法律や手続きを学び、建物に付帯する設備(耐震や環境)に関する知識を身に付け、自分なりの建築の評価基準を身に付ける。  | 建物付帯について理解を深め、評価基準についてまとめる    | 90   |
| 8  | 【住領域】住生活に関する消費者保護の取り組み1 [担当:長田(11/5)]    | 住生活に関する各種の紛争事例を紹介し、その問題点と解決策の実例から消費者が採るべき方策について実例を通して学習する。  | 賢い消費者となるための解決策についてまとめる        | 90   |
| 9  | 【住領域】住生活に関する消費者保護の取り組み2 [担当:長田]          | ☑住生活に関する各種の紛争事例を紹介し、その問題点と解決策の実例から消費者が採るべき方策について実例を通して学習する。   | 授業内容を理解し、ノートにまとめる             | 90   |
| 10 | 【住生活】理想の住生活 [担当:長田]                      | 講義で得た知識を参考に住生活に関するライフプランを作成して発表する。  | ライフプランの作成                     | 90   |
| 11 | 【住生活】理想の住生活のプレゼンテーション [担当:長田]            | 各自の考えをパワーポイントを用いてプレゼンテーションする。   | プレゼンテーション準備                   | 90   |
| 12 | 【食領域】安心・安全な食生活と健康1 [担当:難波]               | 1) 食品安全基本法 2) 食品表示法☑<br>食品表示の見方を身近な具体例をもとに学修し、自身の日々の食品選択に活かし、食生活の向上に役立てる。   | 食品の様々な消費者保護について、事前調査しノートにまとめる | 90   |
| 13 | 【食領域】安心・安全な食生活と健康2 [担当:難波]               | 1) 健康食品 ☑<br>健康食品による健康被害の実態とその対処法について学修する。☑   | 健康食品の被害の実態を事前調査し、発表資料を作成する    | 90   |
| 14 | 【食領域】資源・環境に配慮した食生活の工夫と実践 [担当:難波]         | 1) 循環型社会形成推進基本法 2) 食育基本法☑<br>食品ロスを減らすための食生活の工夫について具体的事例を交えて学修する。  | 発表用パワーポイントの作成                 | 90   |
| 15 | 【食領域】環境に配慮した食生活の工夫についてのプレゼンテーション [担当:難波] | 1) 消費者教育推進法 ☑<br>各自の考えをパワーポイントを用いてプレゼンテーションする。  | 発表用パワーポイントの作成及びプレゼンテーションのまとめ  | 90   |

|                |   |                          |                              |
|----------------|---|--------------------------|------------------------------|
| <b>科目名</b>     | 地域生活論   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 必修 |
| <b>担当教員</b>    | 大泉 由美, 影山 彌   |                          |                              |
| <b>開講期</b>     | 前期  |                          |                              |
| <b>授業概要</b>    | <p>今日、地域社会（コミュニティ）は、原子化された都市的人間に見られる疎外状況への社会的対応として、すなわち、「生活の場における人間性の回復」とか「トータルな人間復権の拠りどころ」として考えられている。また、O・F・ボルノーは、地域を「拡張された家屋」と言っている。本講義では、地域社会がもつこのような生活に関する深い意味を捉えるとともに、生活の場としての地域社会を構成する、「施設・環境体系」と「行動・意識体系」について、郡山市内をフィールドとして見学・研修し、郡山市内における地域社会について、その現状と課題について学修する。☒</p> <p>・最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☒</p> <p>☒<br/>位置づけ・水準 HL2305</p> |                          |                              |
| <b>達成目標</b>    | <p>個人および家庭の生活を支える、地域の多様な生活機能・手段を理解するとともに、地域生活を支える地方行政の役割を理解できること。☒</p> <p>・単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。☒</p> <p>・ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、倫理観・社会的責任</p>   |                          |                              |
| <b>受講資格</b>    | 人間生活学科 生活総合コース  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 受講態度（20％）レポート結果（80％）         |
| <b>教科書</b>     | 関口富左編著『家政哲学』家政教育社 1977年   |                          |                              |
| <b>参考書</b>     | 関口富左編著『人間守護の家政学—福祉社会の実現をめざして—』家政教育社 1999年   |                          |                              |
| <b>学生への要望</b>  | 授業目標を毎回確認すること   |                          |                              |
| <b>オフィスタイム</b> | 金曜日を除く昼休み（12：00～12：50）☒<br>創学館4階No.2研究室   |                          |                              |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                   | 授業内容  | 自学自習              | 目安時間 |
|----|----------------------|---|-------------------|------|
| 1  | 地域社会の意味              | 家庭生活とともに、重要な生活の場である地域社会について、その本質的、現代的意味を理解し、授業全体の構成を理解する。                               | 講義資料について復習する。     | 60   |
| 2  | 市営住宅                 | 市営住宅の自治会をたずねて、市営住宅の現場を見学させていただき、市営住宅の管理・運営、生活の様子などについて学修する。                             | 研修資料について復習する。     | 60   |
| 3  | 生活道路                 | 郡山市の道路建設課をたずねて、地域住民の生活道路、コミュニケーション機能である市道について、その整備・管理などについて学修する。                        | 研修資料について復習する。     | 60   |
| 4  | 2～3回の学修の報告・ディスカッション  | 2～3回において学修したことについて、各自報告し、ディスカッションを行う。さらに、課題を発見し、解決策を考える。                                | ディスカッションのために予習する。 | 60   |
| 5  | 上水道                  | 郡山市の浄水場をたずねて見学し、市民生活に欠かせぬ飲料水としての水道水について、その取水から飲料水にいたる過程及び給水普及率などについて学修する。               | 研修資料について復習する。     | 60   |
| 6  | 下水道                  | 郡山市の下水処理場をたずねて見学し、雨水や家庭廃水などを浄化して河川に放流する過程及び下水道普及率などについて学修する。                            | 研修資料について復習する。     | 60   |
| 7  | 5～6回の学修の報告・ディスカッション  | 5～6回で学修したことについて、各自報告し、ディスカッションを行う。さらに課題を発見し、解決策を考える。                                    | ディスカッションのために予習する。 | 60   |
| 8  | 公園・緑地                | 郡山市の公園緑地課をたずねて、市民に「憩い」を与え都市に自然を保ち人間を復活させる契機となる、公園・緑地について、その設置場所、市民1人当たり面積、管理などについて学修する。 | 研修資料について復習する。     | 60   |
| 9  | 美術館・音楽堂・博物館など        | 郡山市の担当部署をたずねて、文化施設として人間の創造性に役立つ美術館・音楽堂・博物館などの設置状況などについて学修する。                            | 研修資料について復習する。     | 60   |
| 10 | 個室ユニット型特養ホーム         | 今日の超高齢社会において特養ホームへの入所待機高齢者が大勢いる。こうした中で、高齢者にとって最適といわれる個室ユニット型特養ホームをたずねて、その状況と課題について学修する。 | 研修資料について復習する。     | 60   |
| 11 | 8～10回の学修の報告・ディスカッション | 8～10回で学修したことについて、各自報告し、ディスカッションを行う。さらに課題を発見し、解決策を考える。                                   | ディスカッションのために予習する。 | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                            | 授業内容   | 自学自習                    | 目安時間 |
|----|-------------------------------|--|-------------------------|------|
| 12 | 郡山市中央卸売市場見学・研修<br>(魚介類・野菜・果実) | 市民生活の食品を扱う郡山市中央卸売市場をたずねて、魚介類と野菜・果実の競売の様子を見学し、担当者より魚介類と野菜・果物の流通過程について話しをしていただく。 | 研修について予習し、研修資料について復習する。 | 60   |
| 13 | 郡山市保健所での研修                    | 郡山市保健所をたずねて、郡山市における伝染病や食中毒や公害に関する現状と課題について学修する。                                | 研修資料について復習する。           | 60   |
| 14 | 自治会訪問・研修                      | 自治会をたずねて、役員の方より、地域住民の地域活動、一体感、定住意志、などについて話しをうかがう。                              | 研修について予習する。             | 60   |
| 15 | 12～14回の学修の報告・ディスカッション、総まとめ    | 12～14回で学修したことについて、各自報告し、ディスカッションを行う。さらに課題を発見し、解決策を考える。最後に、授業全体について総まとめを行う。     | ディスカッションのために予習する。       | 60   |

|                |   |                |                          |   |
|----------------|---|----------------|--------------------------|---|
| <b>科目名</b>     | 社会調査法   |                | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択 |
| <b>担当教員</b>    | 長谷川 貴弘  |                |                          |   |
| <b>開講期</b>     | 後期  |                |                          |   |
| <b>授業概要</b>    | <p>社会調査というものが何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標とした。☒</p> <p>なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計データの見方、活用の仕方について採り上げていく。☒</p> <p>【実務経歴】☒</p> <p>内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。☒</p> <p>【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒</p> <p>小テスト採点后、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒</p> <p>【位置づけ・水準】 HL2317☒</p> |                |                          |   |
| <b>達成目標</b>    | <p>【単位認定の最低基準】 社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。このためこれら内容の8割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。☒</p> <p>☒</p> <p>【ディプロマ・ポリシーとの関係】 問題解決力、倫理観・社会的責任</p>  |                |                          |   |
| <b>受講資格</b>    | 家政学部 人間生活学科 3年生☒  | 短期大学部 専攻科 1年生☒ | <b>成績評価<br/>方法</b>       | ①小テスト30点（15点×2回）☒<br>②課題（レポート）70点☒  |
| <b>教科書</b>     | プリントを配布する。  |                |                          |   |
| <b>参考書</b>     | 轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社  |                |                          |   |
| <b>学生への要望</b>  | 授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。☒   |                |                          |   |
| <b>オフィスタイト</b> | 火曜日 3コマ 金曜日5コマ☒<br>食品経営学研究室   |                |                          |   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                | 授業内容   | 自学自習                                   | 目安時間 |
|----|-------------------|--|--|------|
| 1  | ガイダンス<br>社会調査とは何か | 授業の進め方、評価方法について。☒<br>社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。☒ | 配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。 | 30   |
| 2  | 社会調査の種類①          | 社会調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。                                 | 配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。 | 30   |
| 3  | 社会調査の種類②          | 社会調査における質的調査の特徴について学修する。                                   | 配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。 | 30   |
| 4  | 社会調査のプロセス         | 社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。             | 配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。 | 30   |
| 5  | 社会調査のデザイン①        | 社会調査の調査内容とその検証について学修する。                                    | 配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。 | 30   |
| 6  | 社会調査のデザイン②        | 仮説の検証とより良い調査研究について学修する。                                    | 配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。 | 30   |
| 7  | 実査の方法①            | データ収集法選択の基準について学修する。                                       | これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。              | 60   |
| 8  | 実査の方法②            | 様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。小テスト（1回目）                  | これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。              | 60   |
| 9  | 調査票の作成            | 調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。                | 配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。 | 30   |
| 10 | サンプリング            | 調査対象の選び方について学修する。  | 配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。 | 30   |
| 11 | 調査の実施             | 郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。                              | 配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。 | 30   |
| 12 | データファイルの作成        | データ入力とその手順について学修する。  | 配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。 | 30   |
| 13 | データの集計方法          | 情報の集約、代表値（平均）から相関係数について学修する。                               | 配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。 | 30   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                           | 授業内容   | 自学自習  | 目安時間 |
|----|------------------------------|--|---|------|
| 14 | 調査報告とデータの管理<br>(パソコンを用いての実習) | 調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。<br>このため実際にパソコンを用いてデータの加工、管理について実習形式で授業を行う。 | 実習に備えてこれまでの学修内容を確認すること。また授業内で終わらなかった課題については自宅学修で引き続き取り組むこと。 | 60   |
| 15 | 社会調査の倫理について<br>学修の総まとめ       | 社会調査協会倫理規定に基づいて社会調査の倫理について学修する。小テスト(2回目)                             | これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。                                   | 60   |

|                |   |                          |  |
|----------------|---|--------------------------|--|
| <b>科目名</b>     | 保育学   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択 |
| <b>担当教員</b>    | 岡本 宏二   |                          |  |
| <b>開講期</b>     | 前期  |                          |  |
| <b>授業概要</b>    | <p>〔授業の目的・ねらい〕本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。☑</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。☑</p> <p>〔到達目標〕①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。☑</p> <p>【履修カルテの評価項目】☑</p> <p>①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解するができたか。☑</p> <p>②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。☑</p> <p>③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p> |                          |  |
| <b>達成目標</b>    | <p>〔授業の目的・ねらい〕本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。☑</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。☑</p> <p>〔到達目標〕①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。☑</p> <p>【履修カルテの評価項目】☑</p> <p>①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解するができたか。☑</p> <p>②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。☑</p> <p>③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p> |                          |  |
| <b>受講資格</b>    | 教職（中学・家庭科）履修者及び上記対象学生。  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | ①平常点（授業態度）30%、②途中課題（小レポート）30%、③試験40%、①～③の総合評価60点以上で合格とする。  |
| <b>教科書</b>     | 指定なし。授業毎に資料配布。  |                          |  |
| <b>参考書</b>     | 南山堂『新保育学(改訂5版)』著：岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子他2名☑<br>三恵社『初めて学ぶ保育学入門』著：保育学入門編集委員会  |                          |  |
| <b>学生への要望</b>  | 遅刻・欠席をせず主体的に探究心をもって授業に取り組むこと。レポートや課題について分からないことは、積極的に質問をするように心がけること。  |                          |  |
| <b>オフィスタイム</b> | 授業開始前：教室☑<br>授業終了後  |                          |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目        | 授業内容  | 自学自習 | 目安時間 |
|---|-----------|---|------|------|
| 1 | オリエンテーション | 講義の進め方や取り組み方、成績評価方法などについて説明する。☑   |      | 0    |
| 2 | 保育を考える    | 1) 未熟な状態で生まれるヒト☑<br>※保育の必要性を他の動物の生誕と比較して考える。  |      | 0    |
| 3 | 保育を考える    | 1) 文化の中の人間☑<br>※ヒトは文化的環境の中で成長していくことを野生児の事例から学ぶ。   |      | 0    |
| 4 | 子どもの発達①   | 1) 母体の健康管理と子どもの誕生 ☑<br>2) 乳幼児の生理機能☑<br>※子どもを産み育てる最も重要な内容を理解する。☑<br>3) 子どもの心身の発育・発達☑<br>※近年の日本の状況や世界的な状況を比較して、考え方や取り組み方の違いなどを理解する。☑                                      |      | 0    |
| 5 | 子どもの発達②   | 1) 子どもの成長課程における愛着と自律について☑<br>2) 親（父親・母親）のかかわりと保育責任と役割☑<br>※最新の情報を交えて親の保育責任として、子育て放棄が子どもの心身の成長にどのように関わっていくのか考えていく。☑<br>3) 子どもの言語・知能の発達☑<br>※色彩から見られる症状や研究事例を取り上げて考えていく。☑ |      | 0    |



-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                       | 授業内容  | 自学自習 | 目安時間 |
|----|--------------------------|---|------|------|
| 6  | 子どもの発達③                  | 1) 子どもの運動について☒<br>※子どもの成長には、運動も重要となる。原発事故により戸外で活動が制限されたことによって引き起こされた事例などを取り上げて、子どもの成長と運動について考えていく。☒<br>2) 子どもの睡眠と成長について☒<br>※子どもの心とからだの基本的健康づくりについて、休養面からアプローチして考えていく。とくに、近年の子どもの睡眠状況に着目し、その実態や問題点、また、対策などについて学習する。睡眠の必要性について、研究事例を取り上げて解説する。 |      | 0    |
| 7  | 子どもの発達④                  | 1) 子どもの発達課題の理解☒<br>※子どもの発達を理解し、同時に発達に伴う課題について学ぶ。  |      | 0    |
| 8  | 子どもの心とからだについて①           | 1) 子どもの病気と対処法☒<br>※子どもの主な病気と、家庭における子どもの症状に対する対処法を学ぶ。  |      | 0    |
| 9  | 子どもの心とからだについて②           | 1) 子どもを取り巻く環境について☒<br>※生活様式の変化により、子どもの心とからだに起きている異変について研究事例から考えていく。☒<br>2) 保育体験学習の事前指導。☒<br>※子どもを観察して、子どもについて身近に考えて見ましょう。   |      | 0    |
| 10 | 保育体験学習                   | 1) 「保育体験学習」を通して、子どもについて理解を深める。☒   |      | 0    |
| 11 | 日本の幼稚園の始まり               | 東京女子師範学校付属幼稚園について知る。  |      | 0    |
| 12 | 日本の保育の始まり                | 倉橋惣三の保育論を学ぶ。  |      | 0    |
| 13 | 保育所の始まり                  | 子守学校について知る。   |      | 0    |
| 14 | 子どもとのかかわり                | 1) 子どもの遊びについて☒<br>※子どもの遊びを通して、発達にあわせた遊びとはどのようなものか考えていく。1) 子どものタイプと対応方法について☒<br>※近年研究が進められている子どものタイプについて理解を深め、対応方法などを検討する。1) 保育実習☒<br>※保育体験学習を通して、子どもについて理解を深める。   |      | 0    |
| 15 | 子育て支援と様々なタイプについて、保育学のまとめ | 1) 児童福祉について☒<br>2) 子育て支援について☒<br>※近年の日本の実態や今後の課題について考えていく。☒<br>3) これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学修する。  |      | 0    |

|                |   |                          |   |
|----------------|---|--------------------------|---|
| <b>科目名</b>     | 社会福祉原論  | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修 |
| <b>担当教員</b>    | 熊田 伸子   |                          |   |
| <b>開講期</b>     | 前期  |                          |   |
| <b>授業概要</b>    | 現代社会における福祉制度と福祉政策の展開やその概念と意義について学ぶ。☒<br>また、現代社会の生活問題に注目しつつ福祉政策の現状と課題について考察する。         |                          |   |
| <b>達成目標</b>    | 現代社会における福祉課題が理解できている。☒<br>わが国の社会保障の基本的な仕組みが理解できている。☒<br>介護実践に必要な基礎的な知識が習得できている。☒<br>☒ |                          |   |
| <b>受講資格</b>    | 人間生活学科 ☒<br>福祉コース☒<br>生活総合コース   | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 期末試験 80%☒<br>小テスト 20%☒                                  |
| <b>教科書</b>     | 毎週、プリントを配布します   |                          |   |
| <b>参考書</b>     | 現代社会と福祉 中央法規  |                          |   |
| <b>学生への要望</b>  | 常に新聞等に目を通し、現代社会問題に着目してください。   |                          |   |
| <b>オフィスタイム</b> | 火曜日の2時限目・金曜日の4限目（創学館4階 No.6研究室）   |                          |   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                      | 授業内容   | 自学自習  | 目安時間 |
|----|-------------------------|--|---|------|
| 1  | オリエンテーション               | 授業に関するガイダンスを行う。☒<br>現代社会問題について考える。☒<br>福祉を学ぶ意義について考える。☒<br>☒                 | ・授業の復習をし、ノートにまとめる                           | 30   |
| 2  | 福祉制度の概念と理念              | 現代社会における福祉制度の意義や理念について理解する   | ・授業の復習をし、ノートにまとめる                           | 30   |
| 3  | 社会の変化と福祉                | 社会の変化に伴う福祉ニーズの発生☒<br>福祉政策の現代的課題  | ・授業の復習をし、ノートにまとめる                           | 30   |
| 4  | わが国の社会保障制度              | わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する   | ・授業の復習をし、ノートにまとめる                           | 30   |
| 5  | 福祉と福祉政策Ⅰ                | 社会福祉が従来のような高齢者・障害者・児童・困窮者を対象とするものから普遍化し拡大していること、反面、福祉政策から漏れる場合があるという部分も理解する。 | ・現代社会の福祉の問題について調べまとめる                       | 50   |
| 6  | 福祉と福祉政策Ⅱ                | 複雑多様化している日本の社会福祉問題に対して、政策の担い手である社会福祉士、介護実践の担い手である介護福祉士にどのような役割と機能があるのかを理解する。 | ・困難を抱えて生活している人々に対する社会福祉士・介護福祉士のかかわりについて調べる  | 60   |
| 7  | 地域☒<br>社会・組織            | 日常生活における地域とのかかわり、地域社会の集団・組織☒<br>地域における組織化、エンパワメント☒                           | ・地域における支え合いの活動を調べる                          | 40   |
| 8  | 社会構造とライフスタイルの変化         | 格差社会と社会的排除☒<br>コミュニティの希薄化と地域の問題の多様化・複合化☒<br>地域における生活支援                       | ・格差社会、社会的排除というキーワードについて、現代社会と照らし合わせて調べ、まとめる | 50   |
| 9  | 介護保険制度の概要Ⅰ              | 介護保険制度の仕組みの基礎的理解☒  | ・介護保険制度の仕組みを調べておく                           | 50   |
| 10 | 介護保険制度の概要Ⅱ              | 介護保険制度の動向☒<br>介護保険制度における専門職の役割   | ・要介護高齢者の増加等、介護保険制度に関連する内容を調べる               | 60   |
| 11 | 障がい者総合支援法               | 障がい者支援と障がい児支援☒<br>障がい者総合支援法の概要   | ・障がい児・者がどのような問題を抱え生活しているのかを調べる              | 60   |
| 12 | 障がい者自立支援制度              | 障がい者自立支援制度の仕組みの基礎的理解   | ・障がい児・者を取り巻く状況を調べる                          | 50   |
| 13 | ソーシャルワーク実践・介護実践に関する諸制度Ⅰ | 福祉関係職種、保健・医療職種の理解☒<br>保健・医療サービスの概要の理解  | ・社会福祉実践の場における多職種連携について調べる                   | 50   |
| 14 | ソーシャルワーク実践・介護実践に関する諸制度Ⅱ | 個人情報に関する制度、成年後見に関する制度、社会福祉法における権利擁護のしくみ、☒齢者虐待防止法、障がい者虐待防止法の概要を理解する           | ・授業内容の用語について調べておく                           | 60   |
| 15 | まとめ                     | 講義を振り返り、まとめを行う。☒   | ・ノートをまとめ授業内容を整理する                           | 30   |

|         |  |                 |                              |
|---------|--|-----------------|------------------------------|
| 科目名     | 社会保障論  | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択 |
| 担当教員    | 長谷川 貴弘   |                 |                              |
| 開講期     | 前期   |                 |                              |
| 授業概要    | 社会保障は、国民に社会的な危険・事故からの回避と回復を可能とするセーフティーネットの制度である。福祉国家の重要な政策である社会保障の理念、目的、機能および手段などを理解し、安定した人間生活に社会保障が果たす役割と、社会保障制度が整備されてきた歴史と背景について考える。☑<br>【課題（レポート）に対するフィードバックの方法について】☑<br>各自提出してもらったレポートを元に、関心を持っている点や課題について振り返る。☑<br>【位置づけ・水準】 HL2220 |                 |                              |
| 達成目標    | 【単位認定の最低基準】 ☑<br>下記①～③の目標の8割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。☑<br>①社会保障制度の全体像（どのような制度が含まれるか）について理解できたか。☑<br>②社会保障の各制度の役割と対象について理解できたか。☑<br>③現代の貧困問題や社会的弱者の生活実態について理解・関心が深まったか。☑<br>☑<br>【ディプロマ・ポリシーとの関係】 知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任                   |                 |                              |
| 受講資格    | 家政学部人間生活学科生活総合コース/福祉コース 2年生  | 成績評価<br>方法      | ①レポート30点☑<br>②定期試験70点☑       |
| 教科書     | プリントを配布する。   |                 |                              |
| 参考書     | 「わかる・みえる社会保障論 -事例でつかむ社会保障入門-」今井 伸 編、(株)みらい☑<br>「新・社会福祉士養成講座 社会保障」中央法規☑   |                 |                              |
| 学生への要望  | 授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。☑<br>☑   |                 |                              |
| オフィスタイム | 火曜日 2コマ 水曜日4コマ☑<br>食品経営学研究室  |                 |                              |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                 | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|----|--------------------|---|---|------|
| 1  | ガイダンス<br>社会保障とは何か① | 講義の進め方や取り組み方、成績評価方法について説明する。☑たちの生活と社会保障、自助・互助・共助・公助の展開について学修する。 | 配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。                 | 30   |
| 2  | 社会保障とは何か②          | 少子高齢化社会と社会保障制度について理解する。   | 配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。                 | 30   |
| 3  | 社会保障とは何か③          | 個人・家族・地域・社会のしくみと関わり、及び生活と社会の関わりについて学修する。                        | 配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。                 | 30   |
| 4  | 医療保険制度①            | 医療保険制度の概要、医療保険の種類と給付、後期高齢者医療制度について理解する。                         | 配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。                 | 30   |
| 5  | 医療保険制度②            | 医療保険制度の概要、医療保険の種類と給付、後期高齢者医療制度について理解する。（続き）                     | 配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。                 | 30   |
| 6  | 雇用保険制度             | 雇用保険制度の概要と各種給付について理解する。   | 配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。                 | 30   |
| 7  | 労働者災害補償保険制度        | 労働者災害補償保険制度（労災保険）の概要について理解する。                                   | 配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。                 | 30   |
| 8  | 年金保険制度             | 年金保険制度の役割と機能、仕組みについて理解する。                                       | 配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。                 | 30   |
| 9  | 介護保険制度             | 介護保険制度の創設と概要等について理解する。  | 配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。                 | 30   |
| 10 | 地域共生社会と地域包括ケアシステム  | 地域共生社会と地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、制度などについて学修する。                     | 配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。                 | 30   |
| 11 | 生活保護制度             | 生活保護制度の目的と基本原理、生活保護の動向等について理解する。                                | これまでの学修内容を元にレポートを作成すること。                    | 60   |
| 12 | 社会福祉制度             | 児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉、母子・父子・寡婦福祉について理解する。                            | これまでの学修内容を元にレポートを作成すること。                    | 60   |
| 13 | 社会保障の財源と費用         | 社会保障費用統計と国の財政、国民負担率について理解する。                                    | これまでの学修内容を元にレポートを作成すること。                    | 60   |
| 14 | 諸外国における社会保障制度      | ヨーロッパ、アメリカ、アジアの社会保障制度について理解する。レポート提出。                           | 配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。                 | 30   |
| 15 | まとめ                | これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学修する。  | これまでの学修内容を復習し、提出したレポートの内容を振り返って、定期試験に備えること。 | 90   |

|         |   |                 |   |
|---------|---|-----------------|---|
| 科目名     | 高齢者福祉論  | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修 |
| 担当教員    | 熊田 伸子   |                 |   |
| 開講期     | 後期  |                 |   |
| 授業概要    | わが国の急速な高齢化に伴う高齢者問題の発生及びニーズの高まりを捉えるとともに、高齢者を支えるサービス等について理解する。☑   |                 |   |
| 達成目標    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国の高齢化の特徴と諸問題について理解できている。☑</li> <li>・高齢者特徴について理解できている。☑</li> <li>・高齢者の生活を支えるサービスについて理解できている。☑</li> </ul> ☑<br>【履修カルテ評価項目】☑<br>①高齢者の生活実態についてどの程度理解できたか。☑<br>②高齢者の精神的・身体的・社会的特徴についてどの程度理解できたか。☑<br>③高齢者を支えるサービスについてどの程度理解できたか。 |                 |   |
| 受講資格    | 特になし  | 成績評価<br>方法      | 筆記試験70%、課題30%☑  |
| 教科書     | 毎時間プリントを配布  |                 |   |
| 参考書     | 随時紹介する  |                 |   |
| 学生への要望  | 高齢者について関心を持って、関連する新聞記事なども目を通してください。☑  |                 |   |
| オフィスタイト | 月曜日1時限、金曜1時限☑<br>創学館No.6 研究室  |                 |   |

## -授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目             | 授業内容   | 自学自習                               | 目安時間 |
|----|----------------|--|------------------------------------|------|
| 1  | オリエンテーション      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間授業内容の説明☑</li> <li>・高齢者観について</li> </ul>   | 自身の高齢者観についてまとめておく                  | 30   |
| 2  | 現代社会と高齢者問題（1）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢社会</li> <li>・人口の高齢化といくつかの側面</li> </ul>   | 最新の高齢化率、平均寿命、人口の高齢化により起こっていることを調べる | 30   |
| 3  | 現代社会と高齢者問題（2）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者をとりまく状況と諸問題☑<br/>高齢期の生活不安、健康についての意識、<br/>家族構造と機能の変化、☑高齢者の経済状況☑</li> <li>・高齢者の介護<br/>要介護高齢者の状況、家族介護者の現状と課題、</li> <li>・高齢者の雇用☑<br/>就労の動向と就労支援制度の概要</li> </ul> | ・配布資料を復習する                         | 30   |
| 4  | 高齢者福祉の変遷       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者福祉が時代の変化とともにどのように<br/>発達してきたかを学ぶ☑</li> </ul>  | ・配布資料を復習する                         | 30   |
| 5  | 高齢者のからだの動き     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢による機能低下 ☑</li> <li>・骨のはたらき☑</li> <li>・筋肉の動き☑</li> <li>・神経の動き☑</li> <li>・高齢者の身体機能の低下を助ける福祉機器の紹介</li> </ul>  | ・配布資料を復習する福祉機器について調べておく            | 30   |
| 6  | 高齢者の食生活        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・低栄養が問題となっている高齢者の食生活について学ぶ</li> </ul>   | ・配布資料を復習する                         | 30   |
| 7  | 高齢者福祉に関する法律（1） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・老人福祉法☑</li> <li>・介護保険法☑<br/>居宅サービス、施設サービス、地域密着型<br/>サービスの具体的な内容について学ぶ</li> </ul>   | ・配布資料を復習する                         | 30   |
| 8  | 高齢者福祉に関する法律（2） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待の実態と高齢者虐待防止法について学ぶ</li> </ul>   | ・配布資料を復習する                         | 30   |
| 9  | 認知症高齢者の理解と対応   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症高齢者の現状☑</li> <li>・認知症高齢者への対応の仕方 ☑</li> <li>・地域で支える取組み☑</li> <li>・認知症カフェへの参加</li> </ul>  | ・自身の生活する地域で行われている<br>認知症施策を調べる     | 30   |
| 10 | 高齢者の意識         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者がどのような意識を持って生活している<br/>のかについて理解する。☑</li> <li>・ビデオ『ひとりの老後も安心の住まい』</li> </ul>   | ・配布資料を復習する                         | 30   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目              | 授業内容   | 自学自習  | 目安時間 |
|----|-----------------|--|---|------|
| 11 | 高齢者福祉制度の概要とサービス | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者福祉制度の体系と理念☑</li> <li>・ 所得保障、医療保障、就労保障、社会福祉サービス、保健サービス、住宅保障、☑</li> <li>・ 会参加促進、まちづくり</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配布資料を復習する</li> </ul>     | 30   |
| 12 | 高齢者の社会参加        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の社会活動状況および学習活動への参加状況について理解する☑</li> <li>・ ビデオ『あなたの居場所はここにある』</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビデオ視聴の感想をまとめる</li> </ul> | 30   |
| 13 | 地域共生社会②         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住み慣れた地域で生活するための人や地域とのつながりについて学ぶ</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配布資料を復習する</li> </ul>     | 30   |
| 14 | 高齢者の生活を護る法制度    |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配布資料を復習する</li> </ul>     | 30   |
| 15 | まとめ             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業のまとめと補足説明</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業内容を整理する</li> </ul>     | 30   |

|         |   |                 |   |  |
|---------|---|-----------------|---|--|
| 科目名     | 児童福祉論   | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修 |  |
| 担当教員    | 近内 直美   |                 |   |  |
| 開講期     | 後期  |                 |   |  |
| 授業概要    | 子どもや子育て家庭を取り巻く社会環境の変化と、子ども家庭福祉の具体的ニーズについて理解し、子ども家庭福祉の理念、実施体制、サービスの現状と課題について学び、実践に役立てることを目標とする。☑<br>最終授業で課題やレポートについて、全体に対するフィードバックを行います。☑<br>☑<br>位置づけ・水準 HW2352                 |                 |   |  |
| 達成目標    | ①近年の日本における子どもと家庭の生活実態と、それを取り巻く諸問題等について理解する。☑<br>②子ども家庭福祉に関する法律や制度等について理解する。☑<br>③児童の権利について理解する。☑<br>単位認定の最低基準は、：「内容の8割を理解していること」☑<br>ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任 |                 |   |  |
| 受講資格    | 人間生活学科  | 成績評価<br>方法      | 試験70%、課題30%。  |  |
| 教科書     | 新・社会福祉士養成講座 15 ☑<br>「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」中央法規   |                 |   |  |
| 参考書     | 適宜指示する。   |                 |   |  |
| 学生への要望  | 主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。  |                 |   |  |
| オフィスタイト | 木曜日 1・11 時限 ☑<br>創学館4F、No.6 研究室   |                 |   |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目               | 授業内容  | 自学自習                              | 目安時間 |
|----|------------------|---|-----------------------------------|------|
| 1  | オリエンテーション        | 講義の進め方や取り組み方、成績評価方法について説明する。☑<br>社会福祉についての概念を知り、子どもや家庭における課題やニーズについてグループワークを行う。☑<br>2回目以降、課題の発表を行い適時意見の交換を行う。また、適宜単元テストを行う。 | ・児童福祉の科目で学ぶことを振り返る                | 15   |
| 2  | 子ども家庭福祉とは何か1     | 子ども家庭福祉の理念について理解する。<br>子どものための福祉の原理を理解する。   | ・テキストで予習を行う<br>・授業の要点をまとめる        | 45   |
| 3  | 子ども家庭福祉とは何か2     | 子どもと家庭の権利保障について理解する。<br>子ども家庭福祉の歴史について理解する。   | ・テキストで予習を行う<br>・課題を行う（子どもの権利について） | 45   |
| 4  | 現代社会と子ども家庭1      | 現代社会のと子ども家庭の現状を理解する。<br>子どもの育ちと子育てのニーズを理解する。  | ・テキストで予習を行う<br>・授業の要点をまとめる        | 45   |
| 5  | 子ども家庭福祉にかかわる法制度1 | 子育て支援対策に経緯と子育て支援制度を理解する。  | ・テキストで予習を行う<br>・授業の要点をまとめる        | 45   |
| 6  | 子ども家庭福祉にかかわる法制度2 | 子ども家庭福祉の法体系と実施体制を理解する。<br>子ども家庭福祉の財政を理解する   | ・テキストで予習を行う<br>・授業の要点をまとめる        | 45   |
| 7  | 子ども家庭福祉にかかわる法制度3 | 子ども家庭福祉にかかわる専門職について理解する。<br>子ども家庭福祉における権利擁護を理解する。   | ・テキストで予習を行う<br>・授業の要点をまとめる        | 45   |
| 8  | 子ども家庭にかかわる福祉・保健1 | 子どもの貧困防止、母子保健、障害のある子どもとその家庭への支援について理解する。☑<br>☑<br>☑   | ・テキストで予習を行う☑<br>・課題を行う            | 90   |
| 9  | 子ども家庭にかかわる福祉・保健2 | 児童の健全育成や保育制度について理解する。   | ・テキストで予習を行う<br>・授業の要点をまとめる        | 45   |
| 10 | 子ども家庭にかかわる福祉・保健3 | 近年の子育て支援施策の動向やひとり親世帯への支援について理解する。   | ・テキストで予習を行う<br>・授業の要点をまとめる        | 45   |
| 11 | 子ども家庭にかかわる福祉・保健4 | 社会的養護や非行児童・情緒障害児への支援について理解する。   | ・テキストで予習を行う<br>・授業の要点をまとめる        | 45   |
| 12 | 子ども家庭にかかわる福祉・保健5 | 児童虐待への対応や女性の福祉について理解する。   | ・テキストで予習を行う<br>・課題を行う（虐待防止法について）  | 45   |
| 13 | 子ども家庭への援助活動1     | 相談援助活動の必要性やその方法について学ぶ。  | ・テキストで予習を行う<br>・授業の要点をまとめる        | 45   |
| 14 | 子ども家庭への援助活動2     | 施設ケアや地域援助活動、ネットワークについてグループワークを行う。   | ・テキストで予習を行う☑<br>・授業の要点をまとめる       | 45   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目  | 授業内容                        | 自学自習                             | 目安時間 |
|----|-----|-----------------------------|----------------------------------|------|
| 15 | まとめ | レポートや課題について全体に対してフィードバックする。 | ・テキストで学んだことを確認する☑<br>・授業の要点をまとめる | 45   |

|                |  |                          |   |
|----------------|--|--------------------------|---|
| <b>科目名</b>     | 障害者福祉論   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択 |
| <b>担当教員</b>    | 岡本 宏二  |                          |   |
| <b>開講期</b>     | 後期   |                          |   |
| <b>授業概要</b>    | (授業の目的・ねらい) ☑<br>障害者の生活実態、権利擁護、福祉・介護ニーズを理解し、障害者福祉の理念や法制度の発展過程を理解する。また、障害者総合福祉法や福祉・介護に関する法制度、組織、団体及び専門職について学び、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野についての理解を深める。☑<br>(授業全体の内容の概要) ☑<br>資料を基に講義を行い、文献、映像や写真により興味・関心を育て、学生相互の討議を行って、学習を進める。☑<br>(授業修了時の達成課題(到達目標)) ☑<br>障害者の置かれている現状を理解し、ノーマライゼーションやインテグレーションなどの考え方及び支援の方法や法制度の活用について学習し、ともに生きる社会について理解を深める。☑ |                          |   |
| <b>達成目標</b>    | (授業の目的・ねらい) ☑<br>障害者の生活実態、権利擁護、福祉・介護ニーズを理解し、障害者福祉の理念や法制度の発展過程を理解する。また、障害者総合福祉法や福祉・介護に関する法制度、組織、団体及び専門職について学び、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野についての理解を深める。☑<br>(授業全体の内容の概要) ☑<br>資料を基に講義を行い、文献、映像や写真により興味・関心を育て、学生相互の討議を行って、学習を進める。☑<br>(授業修了時の達成課題(到達目標)) ☑<br>障害者の置かれている現状を理解し、ノーマライゼーションやインテグレーションなどの考え方及び支援の方法や法制度の活用について学習し、ともに生きる社会について理解を深める。☑ |                          |   |
| <b>受講資格</b>    | 人間生活学科生活総合コース2年  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 出席状況・学習態度(50)、定期試験等(50)総合的に評価する☑<br>☑                   |
| <b>教科書</b>     | 特に指定しない  |                          |   |
| <b>参考書</b>     | 障害者福祉論(ミネルヴァ書房) ☑<br>新・現代障害者福祉論(法律文化社)   |                          |   |
| <b>学生への要望</b>  | 意欲ある学習態度をもって、ノートを取り、予習復習をすること  |                          |   |
| <b>オフィスタイト</b> | 授業開始前:創学館2階教務部非常勤講師室☑<br>授業終了後   |                          |   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目              | 授業内容  | 自学自習 | 目安時間 |
|----|-----------------|---|------|------|
| 1  | オリエンテーション・障害とは  | 法律にみる障害の定義、ICFによる障害のとらえ方、しょうがいの表記の仕方などを通して、障害とはどういうことか考える。          |      | 0    |
| 2  | 障害者福祉の基本的視点     | ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンなど障害者福祉の新しい視点について学習する。                 |      | 0    |
| 3  | 障害者福祉のあゆみ       | 戦前から戦後にかけての障害者福祉、高度経済成長期以後の発展過程、障害者福祉の転換と国際的動向について学ぶ。               |      | 0    |
| 4  | 障害者福祉に関する制度や法律  | 障害者基本法・その改正の動向、身体者障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者健康福祉法等を学習する。                 |      | 0    |
| 5  | 障害者の生活実態とニーズ    | 障害者の生活とニーズを理解し、暮らしや就労等の実情把握から現実の支援へとどうつなげていくかを学習する。                 |      | 0    |
| 6  | 障害者総合支援法の概要     | 総合支援法の成立の背景や目的・理念について学び、給付や事業の全体像、サービスの実際やこれからの方向について学ぶ。            |      | 0    |
| 7  | 障害福祉サービスの利用プロセス | 福祉サービス支給決定の流れ、介護給付や訓練等給付、利用者負担、障害支援区分、利用計画や支援者の連携等利用プロセスについて学習する。☑  |      | 0    |
| 8  | 相談支援            | 総合支援法における相談支援の概要や相談支援専門員の役割、相談支援と協議会の関係など、相談支援にかかわる実際について学習する。      |      | 0    |
| 9  | 就労支援            | 就労支援施策の全体像と雇用の促進について、障害者雇用促進法の概要や関係機関の役割を学び、障害者雇用推進の現状について学習する。     |      | 0    |
| 10 | 成年後見制度と 権利擁護    | 障害者虐待防止法、障害者の権利条約、差別解消法や成年後見制度、日常生活支援事業制度、苦情解決制度等の権利擁護に関する諸制度を学習する。 |      | 0    |



-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目               | 授業内容   | 自学自習 | 目安時間 |
|----|------------------|--|------|------|
| 11 | 障害者プランにおける専門職の役割 | 市町村計画、当事者参加、民間活動等を学び、ケアマネジメントの手法や障害者支援に係る専門職の役割や実際について理解を深める。☒ |      | 0    |
| 12 | 障害者の文化スポーツ       | 障害者の社会参加、生活環境の改善及び文化やスポーツ、福祉レクリエーション活動などの地域交流について学習する。         |      | 0    |
| 13 | 障害者支援のニーズと対応     | 身体障害者、知的障害者、精神障害者、発達障害等様々な障害について理解し、それぞれの特別な支援ニーズと対応について学ぶ。    |      | 0    |
| 14 | 事例研究             | 個別事例を通して、障害者支援の実際について学ぶ。☒<br>☒                                 |      | 0    |
| 15 | まとめ              | 障害者福祉の課題とこれからの方向について総合的に学ぶ。                                    |      | 0    |

|         |   |                 |   |
|---------|---|-----------------|---|
| 科目名     | 海外生活実習  | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 1単位 選択                            |
| 担当教員    | 難波 めぐみ  |                 |   |
| 開講期     | 後期  |                 |   |
| 授業概要    | 諸外国を訪問して様々な文化に触れるとともに、衣・食・住・福祉・経営・情報などの生活に関わる施設や研修先を訪れ、見聞を広げる。事前研修において、各自与えられた内容を調べ発表しながら、渡航地の歴史、文化、について学びを深める。 |                 |   |
| 達成目標    | 諸外国を訪問し、訪問国の文化の理解を深めることを目的とする。  |                 |   |
| 受講資格    | 人間生活学科 3年生  | 成績評価<br>方法      | ①訪問前調査20% <input checked="" type="checkbox"/><br>②訪問時の観察・交流・行動50% <input checked="" type="checkbox"/><br>③レポート30% |
| 教科書     | なし  |                 |   |
| 参考書     | 関係資料の配布   |                 |   |
| 学生への要望  | 訪問国や訪問先について調べ、疑問点を明らかにしておくこと。 <input checked="" type="checkbox"/><br>また、訪問国の生活や文化について調べておくこと。                   |                 |   |
| オフィスタイム | 被服学研究室<br>Ⅰ、Ⅱコマ、水曜日Ⅳコマ<br>日Ⅲコマ  |                 | 前期：火曜日<br>後期：水曜日Ⅳコマ 金曜  |

## -授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目        | 授業内容  | 自学自習                          | 目安時間 |
|----|-----------|---|-------------------------------|------|
| 1  | オリエンテーション | 海外生活実習の目的および訪問時期の説明を行う。 <input checked="" type="checkbox"/><br>またこれまでの海外生活実習の訪問国を提示する。  | シラバスを確認する                     | 30   |
| 2  | オリエンテーション | 海外生活実習の訪問国や訪問地域の候補を提示する。 <input checked="" type="checkbox"/><br>また視察先の例を示し、これまでの実習先での様子を学ぶ。   | 希望渡航地を確認する。受講生による担当分野の発表用PP作成 | 30   |
| 3  | 手続き方法     | 旅行会社による横立や手続き方法の説明会を実施する。 <input checked="" type="checkbox"/><br>また海外生活実習を行うための予備調査として参加希望調査・訪問希望地域調査を行う。   | 発表用PP作成                       | 30   |
| 4  | 訪問国の選定    | 訪問希望調査結果を提示する。 <input checked="" type="checkbox"/><br>初回の調査で訪問希望地域が多岐にわたっている場合には、 <input checked="" type="checkbox"/> 回の希望調査結果の上位2 か国ないしは3 か国に限定した希望調査を行う。                                  | 発表用PP作成                       | 30   |
| 5  | 事前学習      | 旅行会社による説明会を実施する。 <input checked="" type="checkbox"/><br>訪問予定国の気候・文化・政治などを学び、訪問予定国に関する理解を深める。  | 発表者の内容をまとめる                   | 30   |
| 6  | 渡航の意義     | 渡航に向けての手続きに関する説明会を行い、訪問日程などを確認する。 <input checked="" type="checkbox"/><br>ビザやパスポートの役割などを理解し、その意味と重要性を認識することとする。 <input checked="" type="checkbox"/><br>また電圧などが国ごとに違うことを理解し、国ごとに違いがあることを理解する。 | 発表者の内容をまとめる                   | 30   |
| 7  | 訪問国の理解 1  | 渡航直前の説明会を行う。 <input checked="" type="checkbox"/><br>国際的にどのような問題が発生しているか国際状況を理解する。また訪問地域と日本の文化・気候等の違いを再度確認する。 <input checked="" type="checkbox"/> これらの確認により、日本が世界の中でどのように位置づけられているか理解を図る。    | 事前学習内容をノートにまとめる               | 60   |
| 8  | 訪問国の理解 2  | 渡航に際し、これまでの説明会や訪問国・訪問先について調べたことから生じ疑問をまとめる。 <input checked="" type="checkbox"/> た出国時と入国時における手続きの違いや為替などについて学ぶ。  | 事前学習内容をノートにまとめる               | 60   |
| 9  | 海外生活実習 1  | 車窓から町並み等を観察することで、建築物や道路などの施設の違いを確認する。とくに日本の建造物と訪問国の建造物の差に注意を払い確認をする。  | 研修地レポート作成                     | 60   |
| 10 | 海外実習 2    | 宿泊ホテル周辺を散策しスーパーマーケットなどで買い物をしてみることで、 <input checked="" type="checkbox"/> 売されているもの、購入方法、通貨の違いを理解する。訪問国の生活について実体験を通して学ぶこととする。  | 研修地レポート作成                     | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目        | 授業内容   | 自学自習             | 目安時間 |
|----|-----------|--|------------------|------|
| 11 | 海外実習 3    | 食文化の違いを理解するため、訪問国のマーケットを訪れ特産品や販売方法を確認する。日本の食文化と比較することで、国ごとに特色があることを学ぶ。また販売されている衣料品を観察し、日本との販売方法の違いや商品の違いが何か学ぶ。 | 研修地レポート作成        | 60   |
| 12 | 海外実習 4    | 福祉施設を訪問し、施設の状況や施設周囲の環境がどのようなものか学ぶ。☒<br>また施設の職員から制度や問題点について説明を受けて日本との制度の違いを学び、日本での改善を行うための一助とする。                | 研修地レポート作成        | 60   |
| 13 | 海外実習 5    | 宗教と関わる施設（寺院など）を訪れ、建築物としての機能性を確認する。☒たこれらの建造物を通して、宗教が文化や習慣及ぼす影響を確認する。  | 研修地レポート作成        | 60   |
| 14 | 海外実習まとめ 1 | 本訪問において学んだことを、衣・食・住・福祉・経営などの観点から整理する。☒た訪問前に生じた問題について、どのような回答が得られたまとめる。   | 報告会PP作成と提出用ノート作成 | 180  |
| 15 | 海外実習まとめ 2 | 本訪問において学んだことを、衣・食・住・福祉・経営などの観点から整理する。☒た訪問前に生じた問題について、どのような回答が得られたまとめる。   | 研修のまとめと報告書作成     | 120  |

|         |  |                 |                              |  |
|---------|--|-----------------|------------------------------|--|
| 科目名     | 健康生活論  | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択 |  |
| 担当教員    | 大西 弘太郎   |                 |                              |  |
| 開講期     | 前期   |                 |                              |  |
| 授業概要    | 個人あるいは集団レベルでの健康維持、疾病予防に有用な医学情報を概説する。☑<br>☑<br>実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☑<br>実務経歴：医師として医療機関に勤務している。☑<br>☑<br>随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけでなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。☑<br>☑<br>位置づけ・水準 HU2206 |                 |                              |  |
| 達成目標    | 単位認定の最低基準：健康維持、疾病予防についての基礎的知識が習得されていること。☑<br>☑<br>ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理観・社会的責任。  |                 |                              |  |
| 受講資格    | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年  | 成績評価<br>方法      | 小テスト (20%)☑<br>レポート (80%)    |  |
| 教科書     | 人体の構造と機能及び疾病 新・社会福祉養成講座 中央法規   |                 |                              |  |
| 参考書     | 特になし   |                 |                              |  |
| 学生への要望  | 教員が提示したテーマについて簡潔なレポートをまとめ、それを発表してもらいます。☑<br>発表のスキルを身に着けるのも授業の目標のひとつ。☑<br>学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。☑  |                 |                              |  |
| オフィスタイム | 臨床医学研究室☑<br>火曜日 13:00～17:00。☑<br>木曜日 15:00～17:00。☑<br>金曜日 08:30～17:00。   |                 |                              |  |

## -授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目             | 授業内容   | 自学自習                               | 目安時間 |
|----|----------------|--|------------------------------------|------|
| 1  | 健康寿命とライフスタイル   | 老化とは☑<br>日本人の寿命☑<br>健康寿命とは☑<br>人口統計から見た主な死因☑<br>非感染性疾患(NCD)の諸問題☑ | 老化、寿命、死因などについて予習・復習をしましょう。         | 120  |
| 2  | 生活習慣病とその予防 その1 | 糖尿病とは☑<br>糖尿病はいまや社会問題☑<br>糖尿病の病型                                 | 糖尿病の疫学・病態・病型などについて予習・復習をしましょう。     | 120  |
| 3  | 生活習慣病とその予防 その2 | 糖尿病の診断☑<br>糖尿病慢性合併症☑<br>妊娠糖尿病☑<br>糖尿病の治療☑<br>糖尿病の予防              | 糖尿病の合併症・診断・治療・予防などについて予習・復習をしましょう。 | 120  |
| 4  | 感染症とがん その1     | ピロリ菌感染とは☑<br>ピロリ菌感染と胃炎、胃潰瘍☑<br>ピロリ菌感染と胃がん                        | ヘリコバクター・ピロリについて予習・復習をしましょう。        | 120  |
| 5  | 感染症とがん その2     | ウイルス性肝炎☑<br>肝炎と肝がん☑<br>肝炎の予防                                     | (主にB型、C型)肝炎ウイルスについて予習・復習をしましょう。    | 120  |
| 6  | 感染症とがん その3     | 子宮頸がんとは☑<br>子宮頸がんの成因☑<br>子宮頸がんの予防                                | HPV(ヒト乳頭腫ウイルス)について予習・復習をしましょう。     | 120  |
| 7  | 感染症 その1        | 再興感染症☑<br>新興感染症☑<br>狂牛病の諸問題                                      | 再興感染症、新興感染症、狂牛病について予習・復習をしましょう。    | 120  |
| 8  | 感染症 その2        | 後天性免疫不全症 (AIDS)の現況☑<br>性感染症の特徴☑<br>性感染症の現況☑                      | HIV関連疾患、性感染症について予習・復習をしましょう。       | 120  |
| 9  | 感染症 その3        | 小児の主な感染症☑<br>ワクチン☑   | 小児感染症、ワクチンについて予習・復習をしましょう。         | 120  |
| 10 | 青年期と心の病気 その1   | 精神病とは☑<br>統合失調症  | 精神病、統合失調症について予習・復習をしましょう。          | 120  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目           | 授業内容                      | 自学自習                            | 目安時間 |
|----|--------------|---------------------------|---------------------------------|------|
| 11 | 青年期と心の病気 その2 | 双極性障害☒<br>うつ病☒<br>うつ病の諸問題 | 双極性障害、うつ病について予習・復習をしましょう。       | 120  |
| 12 | 青年期と心の病気 その3 | 心因性精神病の諸問題                | 不安障害、強迫障害などについて予習・復習をしましょう。     | 120  |
| 13 | 青年期と心の病気 その4 | 摂食障害☒<br>骨粗鬆症の諸問題☒        | 摂食障害、骨粗鬆症について予習・復習をしましょう。       | 120  |
| 14 | 青年期と心の病気 その5 | アルコールと健康☒<br>薬物依存症☒       | アルコール関連問題、薬物依存症について予習・復習をしましょう。 | 120  |
| 15 | まとめ          | 総合討論                      | 健康維持および健康増進について予習・復習をしましょう。     | 120  |

|         |  |                 |  |  |
|---------|--|-----------------|--|--|
| 科目名     | 衣生活概論  | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択 |  |
| 担当教員    | 瀬谷 真理子   |                 |  |  |
| 開講期     | 後期   |                 |  |  |
| 授業概要    | 人間が生活していく上で必要不可欠な衣生活に関して、快適な衣生活を営んでいくために、ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を人文・社会・自然など相互に関連性を持たせながら総合科学的な視点で幅広く学ぶことにより、豊かな衣生活とはどのようにあるべきか理解するとともに、家庭科教育における衣生活の課題を把握し、指導者としての視点を養う。また、福島県立高等学校での家庭科教員としての勤務経験を活かして、衣生活分野における教科指導に役立てることができるよう、衣生活全般における基礎知識を修得させる。レポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行います。<br>実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、1級衣料管理士取得、教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得☑<br>位置づけ・水準 HL2131<br>☑ |                 |  |  |
| 達成目標    | 1. 被服の持つ機能・役割について理解し、快適な衣生活とはどうあるべきか考えることができた。☑<br>2. 被服材料の性質について理解し、手入れや保管について基礎的知識を習得できた。<br>3. 家庭科教育における衣生活と環境について重要性を理解し、豊かな衣生活を営むためのあり方について深めることができた。<br>単位認定の最低基準は、上記1～3の総合的な評価が達成度7割以上であること。<br>ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考   |                 |  |  |
| 受講資格    | 上記対象学生及び教職履修、介護福祉士履修学生は必修  | 成績評価<br>方法      | ①課題レポート・ノート/授業態度：30点☑<br>②期末レポート：20点<br>③小テスト：50点                                      |  |
| 教科書     | 「消費者の視点からの衣生活概論」菅井清美・諸岡晴美 編著 井上書院  |                 |  |  |
| 参考書     | 「ビジュアル衣生活論」建帛社、「衣生活概論」矢部章彦ほか   |                 |  |  |
| 学生への要望  | 自分および家族の衣生活実態と問題点を考えながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。   |                 |  |  |
| オフィスタイム | 水曜日（11時～12時）：生活科学研究室☑  |                 |  |  |

## -授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目                       | 授業内容  | 自学自習   | 目安時間 |
|---|--------------------------|---|--|------|
| 1 | ガイダンス<br>～被服着用の目的と機能～    | 授業の概要や達成目標、進め方や成績評価方法を説明する授業を受けるにあたり、身近な毎日の衣生活に関心を持つことが大切であり講義内容の理解が深まることなどを解説する。また、家庭科教育への位置づけについて確認する。<br>☑   | 本日の講義内容についてまとめる。また、衣生活について関心のあること等、自分の考えをまとめる。<br>ノート整理、ワークシート作成                             | 30   |
| 2 | 衣服のはじまりと変遷<br>～被服と人間・社会～ | 人間は、なぜ被服を着るのか起源論（着衣の動機）についてとらえながら現代にいたるまでの衣生活について考えるとともに社会的機能としての大きな働きについて理解し、社会的機能としての意味を知り、被服着用目的を再確認する。      | 本日の講義内容についてまとめる。自分自身の考える被服の社会的機能について現状と課題を把握してまとめる。<br>レポート作成                                | 30   |
| 3 | 身のまわりの衣服と素材              | 衣服は、布で作られ、布は糸で作られ、糸は繊維からなる。布、糸、繊維の種類や構造は、衣服の消費性能に大きく関わっていることを理解し、衣服材料の基本的な知識として、布の種類と構造、糸の種類と構造、繊維の種類について学ぶ。    | 本日の講義内容についてまとめる。また、自分自身の衣服についているタグを見て、どのような繊維素材からできているかを調べ、衣服の性質について考えをまとめる。<br>ノート整理、レポート作成 | 60   |
| 4 | 衣服の選択<br>色彩とファッション       | 流行はどのようにして生まれるのか、そのプロセスについて考える。また、ファッション性に影響する色彩やデザインなどの外観との関連性について理解し、衣服に求められる性能と衣服をコーディネートする際に役立つ知識を学ぶ        | 本日の講義内容についてまとめる。錯視を利用したコーディネートを考え、説明できるように整理する。<br>レポート作成                                    | 60   |
| 5 | 衣服の選択<br>装いのコミュニケーション    | 装いは、非言語コミュニケーションの一つと言われる。衣服には象徴的な機能があり、その着装行動には、様々な違いが性別や個性、職業や地位などその人のパーソナリティの情報を伝達することもできることを理解する。            | 本日の講義内容についてまとめる。衣服の象徴性について事例をあげてディスカッションし、まとめるとともに発表できるようにする。<br>レポート作成                      | 60   |
| 6 | 体型と衣服<br>衣服の身体への適合性      | 衣服が体型や動きに合うこと、衣服の適合性は、衣服の外観と着心地を左右する重要な要因である。衣服の選択や購入時に必要な基礎的な知識として、衣服のパターン（型紙）と人体との関わり、さらに既製衣料について学ぶ。          | 本日の講義内容についてまとめる。体型について理解し、立体構成の衣服である洋服の構成についてまとめ、既製服のサイズ表示についてワークシートを完成させる。<br>ワークシート作成      | 60   |
| 7 | アパレル産業と既製服               | 「アパレル」とは本来は「衣服」の意味であるが、現在のわが国では「既製服メーカー」の意味で使われることが多い。アパレル産業や既製服生産システム、サイズ規格の成り立ちについて理解し、消費者としての視点から現状と課題を把握する。 | 配布資料を参考にしながら、本日の講義内容についてまとめる。また、衣服についているサイズ表示について調べまとめるとともに、既製服購入の際の課題を考え、まとめる。<br>ワークシート作成  | 30   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                                   | 授業内容   | 自学自習  | 目安時間 |
|----|--------------------------------------|--|---|------|
| 8  | 被服の着用と安全性<br>～衣服を快適に着用するために～         | 被服は第二の皮膚といわれるように皮膚と直接接触するために、皮膚刺激やアレルギー等の皮膚障害上の安全性問題が存在する。さらに、被服の人体に対する安全性としては、静電気障害・燃焼障害やヒモ等の付属品による事故発生のリスクがあり、これらの発生原因とその対策を学ぶ。<br>☒                 | 本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、被服の安全性に関するニュースや事例について自分の考えをまとめる。<br>レポート作成              | 30   |
| 9  | 被服の心理的機能<br>～装う～                     | 被服の心理的機能には、美しく装いたい、流行の服を着たいという装身の機能が考えられる。一方、服装のシンボルとしての象徴性や風俗・習慣・道徳などの社会的規範による容儀の機能、が存在する。それぞれについて意味を知り、被服着用目的を再確認する。                                 | 本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。<br>また、流行について考えをまとめ、事例をあげながらディスカッションし、レポートにまとめる。<br>レポート作成 | 30   |
| 10 | 被服の品質と管理                             | 健康で快適な衣生活を営む上で、洗濯をはじめとした衣服のメンテナンスは不可欠である。被服に付着する汚れの種類や付着状態、汚れの身体や被服への影響を学ぶ。また、家庭洗濯とドライクリーニング選択の違いを知る。  | 本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。<br>ワークシート整理   | 30   |
| 11 | 汚れ除去と被服の快適性を付与する洗剤の種類と特徴<br>(市場調査)   | 現在市販されている洗剤類、繊維・布・被服の機能を回復し快適性を付与する柔軟剤、糊剤、漂白剤などの種類と特徴、効果的な使い方を知る。<br>また、市場調査で店頭に並べられている洗剤類を見ながら、理解を深める。  | 本日の講義内容を配布資料にしたがって理解を深める。市場調査結果を行い、考察しまとめ、レポートを作成する。<br>レポート作成                          | 120  |
| 12 | 衣生活と環境                               | 環境との関わりについて、現状と課題をとらえ、ライフサイクルアセスメント(LCA)の考え方から考察する。繊維、布や被服の製造と流通、生活者の被服購入、着用、手入れ・洗濯、保管、廃棄・リサイクルという被服のライフサイクル全体における環境との関わりについて学び、現在の自分の衣生活について考察し、まとめる。 | 本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。<br>レポート作成   | 60   |
| 13 | ユニバーサルデザインと装い<br>～省エネ・災害時の対応～        | 衣服を心地よく着るためには、着用者の体型や生理機能の特徴を理解したうえで着用環境に合わせて、どのような衣服が適しているか考える必要がある。衣服とユニバーサルデザインについて学ぶとともに省エネや災害時への対応についても理解を深める。                                    | 本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。<br>レポート作成   | 60   |
| 14 | 衣生活文化と現代の衣生活<br>～衣生活と地球を守る循環型社会に向けて～ | 衣生活文化について理解するとともに現代の衣生活におけるヒト(生活者)と被服、それを取り巻く環境との関係から健康・快適、安全・安心を踏まえながら、豊かな衣生活をデザインするための要点をまとめる。   | 本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。<br>期末レポート対応。  | 90   |
| 15 | 総括                                   | 今後の豊かな衣生活をデザインするための要点を整理・確認し、望ましい衣生活のあり方について考え、まとめる。また、家庭科教育における衣生活分野における指導上の留意点についてもふれる。<br>☒   | これまでの講義内容を配布資料にしたがって復習し、自分自身の望ましい衣生活のあり方を考える。<br>確認小テスト<br>ワークシート整理                     | 30   |

|                |   |                          |  |
|----------------|---|--------------------------|--|
| <b>科目名</b>     | 被服管理学   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択 |
| <b>担当教員</b>    | 田辺 真弓   |                          |  |
| <b>開講期</b>     | 後期  |                          |  |
| <b>授業概要</b>    | 被服の購入から廃棄までのライフサイクル全般において、安全・安心・快適、環境保全をめざした衣生活管理を自然・社会・人文科学の総合科学の視点から幅広く専門的に学び、家庭科教員としての指導力や個人の衣生活管理の向上をめざす。☑<br>また、福島県立高等学校での家庭科教員としての勤務経験を活かし、衣生活分野における学校教育での意味と重要性、指導上の留意点などを踏まえながら理解を図るとともに、ディスカッションや市場調査も取り入れ、主体的な学びとして探究心を養いながら教員養成の一助として資質向上に資する。<br>ワークシート及びレポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行います。<br><br>[実務経歴] 福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。<br>位置づけ・水準 HL2232<br>☑ |                          |  |
| <b>達成目標</b>    | ①被服の役割を理解するとともに快適な衣生活が営める。☑<br>②被服の購入及び手入れ時などの管理時において注意すべき取扱い絵表示、組成表示、その他の表示について理解している。☑<br>③家庭科教育における衣生活分野の学びの重要性を理解し、快適な衣生活のための被服管理の方法について理解している。☑<br>単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度7割以上であること。<br>ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考  |                          |  |
| <b>受講資格</b>    | 教職履修学生は必修   | <b>成績評価<br/>方法</b>       | ①課題レポート/授業への取り組み：30点☑<br>②期末レポート：30点☑<br>③小テスト：40点                                     |
| <b>教科書</b>     | 配布プリント  |                          |  |
| <b>参考書</b>     | 「被服管理学」朝倉書店、「被服整理学」（社）日本衣料管理協会（平成20年）、「衣服管理の科学」片山倫子編（建帛社、平成14年）☑  |                          |  |
| <b>学生への要望</b>  | 日常の衣生活を問題意識をもって見つめるとともに、課題を把握し探究心をもって取り組んでください。☑<br>☑<br>☑  |                          |  |
| <b>オフィスタイム</b> | 水曜日（I、II時限）：生活科学研究室☑  |                          |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目                         | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|---|----------------------------|---|---|------|
| 1 | ガイダンス                      | シラバスにそって、授業の概要や到達目標、進め方や評価方法などを説明する。  | 本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。   | 30   |
| 2 | 人類の歴史にみる衣生活の原点「被服」とは何だろうか  | 人類にとって「衣・食・住」は生命維持のための三大要素であるが、衣生活の始まりとその役割について考察する。  | 本日の講義内容をまとめ、理解を深める。<br>ワークシートの整理  | 30   |
| 3 | 心地よく「着て装う」ために              | なぜ、着るのか、被服を着る目的やTPOに合った着方について考えるとともに、着こなす、個性を生かすとは、どういうことだろうか、考えるとともにディスカッションを行う。   | 本日の講義内容をまとめ、理解を深める。<br>自分の考えをまとめるとともに、ディスカッションの内容についてまとめる。<br>ワークシートの整理 | 30   |
| 4 | 購入方法に関する事例研究               | 被服に関する法規制である「家庭用品品質表示法」、JISや自主規制などについて理解する。各個人の被服購入経験の失敗事例を発表する。事例を問題点別にまとめ、購入時における課題をまとめる。☑料の計画的な購入、購入時のチェックポイント、消費者の義務と権利、消費者苦情の重要性を学ぶ。 | 配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。<br>ワークシートの整理                           | 30   |
| 5 | 安全で健康的な衣生活のために～ユニバーサルデザイン～ | 失敗事例の中から、衣服の安全性の問題について考えるとともに健康的な衣生活のために留意すべき点について、グループごとにまとめ発表する。防止・予防方法を確認する。またユニバーサルデザインについても理解を深める。☑                                  | 配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。<br>ワークシートの整理                           | 30   |
| 6 | 被服の汚れ                      | 着用による被服に付着する汚れの種類と成分、付着のしかたを繊維の性質との関係から学ぶとともに汚れの種類について考え、分類し理解を深め合う。また、汚れが人体と繊維に及ぼす影響を考える。  | 配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。<br>ワークシートの整理                           | 30   |
| 7 | 被服の洗浄～家庭洗濯とドライクリーニング～      | 洗浄によって取り除くために用いられる洗浄剤、特に界面活性剤の働きについて理解を深めるとともに、家庭洗濯とドライクリーニングによる汚れ除去メカニズムの違いを知り、それぞれのメリット・デメリットを確認する。失敗事例から失敗しない洗濯手入れ方法を学ぶ。               | 配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。<br>ワークシートの整理                           | 30   |



-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目  | 授業内容  | 自学自習   | 目安時間 |
|----|---|---|--|------|
| 8  | 洗剤の科学                                     | 洗剤の種類と成分, 界面活性剤の種類と機能, 汚れ除去のメカニズム, 洗剤の歴史の変遷を学ぶ。☑  | 配布資料を参考としながら, 本日の講義内容をまとめ, 理解を深める。<br>ワークシートの整理  | 30   |
| 9  | しみ抜きと漂白                                   | しみは, 衣服に付着すると美観を損なうだけでなく, 長期間放置しておくとも虫害やばい害をこうむり繊維が損傷する。しみ抜きの原理と方法について理解を深める。また黄ばみ, 黒ずみなどの対応としての漂白について理解する。   | 配布資料を参考としながら, 本日の講義内容をまとめ, 理解を深める。<br>ワークシートの整理  | 30   |
| 10 | 被服の手入れ                                    | 洗剤の種類と成分, 界面活性剤の種類と機能, 汚れ除去のメカニズム, 洗剤の歴史の変遷を学ぶ。☑  | 配布資料を参考としながら, 本日の講義内容をまとめ, 理解を深める。自宅に保管されている洗剤など被服の手入れに関する家庭用品について調査する。次回発表する。                 | 60   |
| 11 | 仕上げ剤の種類と特徴<br>(市場調査)                      | 洗濯後, 繊維をおろし立ての状態に保つために様々な商品が市販されている。代表的なものは漂白剤, 柔軟剤, 糊剤等である。これらの製品の成分, 種類, 使用方法を実物を手にしながら学ぶ。☑<br>①漂白剤: 種類と特徴, 漂白のメカニズム, 使用方法, 蛍光増白との違い, しみぬきの原理と方法☑<br>②柔軟剤: 種類と特徴, 効果・機能(柔軟効果, 静電気防止, 香りなど)の変化, 使用方法☑<br>③洗濯糊: 種類と特徴, 使用方法 | 配布資料を参考としながら, 本日の講義内容をまとめ, 理解を深める。<br>市場調査結果についてまとめ, 発表用とする。                                   | 30   |
| 12 | 被服の保管<br>(市場調査)                           | 保管の目的, 保管中の衣料の性能変化の原因, 防虫・防かび, 抗菌のための保管用具, 防虫剤, 乾燥剤などの種類と性能などを学び効果的な保管方法について理解する。さらに, 市場調査により理解を深める。  | 配布資料を参考としながら, 本日の市場調査結果についてまとめ, 次回発表用とする。  | 60   |
| 13 | 自分自身の衣生活を見つめ, 課題を把握し, 快適な被服の管理について考えをまとめる | 自分自身の衣類がどの程度あるのか, 管理方法に課題はなかったか, 計画的購入のあり方と死蔵品の把握とその対応はどうすべきか。また, 日頃の被服の保管方法や手入れ等における課題をあげて望ましい被服管理のあり方についてディスカッションし, 自分の考えをまとめる。期末レポートの課題を提示する。  | 配布資料を参考としながら, 本日の講義内容をまとめ, 理解を深める。また, 自分自身の被服管理の現状について見つめるとともに課題を捉えディスカッションする。期末レポート対応。        | 120  |
| 14 | 被服管理の事例研究                                 | 衣類の望ましい管理について学ぶ。<br>自分の家庭生活における課題を各自が発表し, 問題点や課題, 着用時・手入れ・保管時の問題点を抽出し, 望ましい被服管理についてまとめる。  | 配布資料を参考としながら, 本日の講義内容をまとめ, 理解を深める。前時でまとめた内容を各自が発表し, 課題を共有し合うとともに望ましい被服管理のあり方についてまとめる。期末レポート対応。 | 120  |
| 15 | 総括・まとめ                                    | 本講義のまとめを行う。   | 配布資料を参考としながら, 本日の講義内容をまとめ, 理解を深める。確認テスト  | 30   |

|         |  |                 |  |
|---------|--|-----------------|--|
| 科目名     | 衣生活文化論   | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択                                      |
| 担当教員    | 田辺 真弓  |                 |  |
| 開講期     | 前期   |                 |  |
| 授業概要    | <p>本科目は、人間生活学科の教育目標に沿って設けられている人間生活学科専門科目・生活学系の選択科目である。また、短期大学部専攻科文化学専攻の専門関連科目である。☑</p> <p>衣服は人がそれを装うときに成り立つものであり、衣服の主人公は人間である。衣服にはいろいろな時代背景や社会状況の中で、人間の様々な心情が託されてきた。本講義では、衣服を人間の存在と結び付けて長い間に培われてきた文化のひとつとして捉え、衣服が着る人の心とどのようにかかわっているかを考える。☑</p> <p>衣服の機能、衣服への感情移入、衣服の流行、制度と慣習、日本と西洋との色彩感情の違い等に着目する。さらに服飾研究の進め方について例を挙げて解説し、服飾研究に対する関心を高める。☑</p> <p>最終授業で全体に対するフィードバックを行います。</p> |                 |  |
| 達成目標    | <p>目標は☑</p> <p>①衣生活の専門知識を修得し、それらを活用できる。☑</p> <p>②現代の衣生活をめぐる諸課題を発見分析し、解決する能力を身につけている。☑</p> <p>③自己の専門知識を社会のために活かし、社会的責任を果たすことができる。☑</p> <p>④地域社会における衣生活に関する諸問題に新たな発想で取り組むことができる。☑</p> <p>単位認定の最低基準は内容の7割を理解していること。☑</p>  |                 |  |
| 受講資格    | 家政学部人間生活学科生活総合コース 4年生☑<br>短期大学部専攻科文化学専攻 1・2年生  | 成績評価<br>方法      | 達成目標の到達度合いは課題レポート・期末レポートにより確認と評価を行う。☑<br>①課題レポート 2回 20点☑<br>②期末レポート 80点☑<br>60点以上で合格点とする。☑ |
| 教科書     | 教科書は用いず、資料を配布する。   |                 |  |
| 参考書     | 増田美子編『日本衣服史』吉川弘文館、小池三枝著『服飾文化論』光生館、小池三枝著『服飾の表情』勁草書房、徳井淑子著『服飾の中世』勁草書房、徳井淑子著『ヨーロッパ服飾史』河出書房新社、『衣服の百科事典』丸善出版株式会社・平成27年、一般社団法人日本家政学会編『被服学事典』朝倉書店・平成28年、その他は授業で紹介する。  |                 |  |
| 学生への要望  | 衣生活文化に関心をもつとともに、授業で紹介した参考文献にはできるだけ目を通し、自ら調べようとする姿勢を身につけること。  |                 |  |
| オフィスタイム | 教務部非常勤講師控室 火曜日1時限  |                 |  |

## -授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目                  | 授業内容  | 自学自習                             | 目安時間 |
|---|---------------------|---|----------------------------------|------|
| 1 | 授業計画の提示 日本風俗美術館服飾解説 | 授業計画を提示し、授業目標ならびに授業内容について説明する。☑<br>図書館1階の日本風俗美術館に展示されている風俗人形の服飾、ならびに時代背景についての解説を聴き、日本の服飾についての関心を高めるとともに理解を深める。☑       | 日本風俗美術館見学の感想をまとめる                | 60   |
| 2 | 衣服の機能 表現と感情移入       | 衣服が持つ様々な機能について知る。また、衣服の機能のひとつである社会性について考えとともに、衣服による表現と衣服への感情移入について学ぶ。   | 本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる | 60   |
| 3 | 着心地                 | 着心地には物理的な着心地と、心理的な着心地とがある。ここでは衣服を着るとき心の状態を通して、個人・集団・文化のレベルで着心地について知り、衣服が着る人の心にどのように働きかけているかを考える。                      | 本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる | 60   |
| 4 | 衣服の類型               | 衣服の3つの基本的類型である懸衣・寛衣・窄衣について学び、それらの類型が服装史や民族服にどのように出現しているかを知る。さらに、現在の衣服にもそれらの類型がどのように受け継がれているかを学ぶ。                      | 本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる | 60   |
| 5 | 衣服と流行               | 流行は少数者に始まって多数者に及ぶ好尚の現象であり、おそらく人間の文化とともに古くから現れた現象だと思われる。流行の成立と交替、個性の無視と誇張、流行の起点などについて、西洋や日本の服飾の流行を通して考え、流行の構造とその意義を知る。 | 本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                 | 授業内容  | 自学自習                             | 目安時間 |
|----|--------------------|---|----------------------------------|------|
| 6  | 衣服の美感              | 日本の近世の美感である「だて」と「いき」とはどのようなことを表し、服飾の上にどのように現れているのかを絵画資料、図版資料、文献等を通して知る。また、あわせて西洋の美感である「ダンディズム」について、それが服飾上にどのように現れ、その後の紳士服に及ぼした影響を知るとともに、その精神主義について理解する。 | 本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる | 60   |
| 7  | 制度と慣習              | 日本の律令制における位の色や禁色、江戸時代の服飾に関する禁令、西洋の身分制度と服装等について知るとともに、日本の更衣(ころもがえ)や祝い着などにみられる慣習について学ぶ。また、更衣に連動して日本で伝統的に行われてきた衣料を使い切る衣生活について学ぶ。                           | 本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる | 60   |
| 8  | 色彩                 | ビデオ『ファッションプライム』第4集・色彩編を視聴する。現在では見る機会が少ないコチニールやインディゴ等の天然染料や、近代になって次々と発明された合成染料についての知識を得、また、世界各地で行われている様々な染色技法を知るとともに、色彩に対する感情について理解する。                   | 本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる | 60   |
| 9  | 日本の色と西洋の色          | 日本の色彩が季節感と密接に結びついているのに対して、西洋の色彩は季節感とほとんど結びついていないこと、また、日本と西洋では色彩の意味や用い方等に大きな違いがあることを知り、日本と西洋の色彩感情、色彩感覚が異なっていることを理解する。                                    | 本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる | 60   |
| 10 | 「延喜式」織部司           | 大蔵省の管轄下に設けられていた織部司は天皇・皇后の御衣の材料となる織物を生産していたことで知られている。当時の織物技術と生産、さらに七夕の行事である乞巧奠について文献を手がかりに学ぶ。  | 本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる | 60   |
| 11 | 「むしのたれぎぬ」と苧麻(からむし) | 平安時代から中世において寺社詣の際の旅装として用いられた「むしのたれぎぬ」は文学作品や絵巻物にしばしば登場している。これがどのような意味をもつ衣服であったかを知るとともに、その材料である苧麻について学ぶ。  | 本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる | 60   |
| 12 | 「近世小袖」と町人服飾        | 近世小袖文様の流行と町人文化が開いた元禄期の町人服飾について、雛形本、絵画資料、文学作品等を基に学び、服飾と当時の人々の生活との関わりを知る。   | 本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる | 60   |
| 13 | 近代日本の衣生活 (1)       | 明治維新後の文明開化期は服飾にも大きな変化をもたらした。日本において洋服がどのように用いられるようになっていったかを絵画や写真資料ならびに文献等を基に年代を追って見ていき、当時の人々が衣服についてどのような思いをもち、どのような衣生活をしていたのかを知る。                        | 本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる | 60   |
| 14 | 近代日本の衣生活 (2)       | 近世まで日本の衣生活の中に外套は存在しなかったが、西洋から洋服とともに羊毛織物がもたらされると、男性の「二重廻し」、女性の「東コート」が誕生し、また、はおりものとして「肩掛」や「赤毛布」が流行した。これらが和服に組み合わされて日本の衣生活に急速に浸透していった過程を知る。                | 本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる | 60   |
| 15 | 近代日本の衣生活 (3)       | 日本の伝統的な喪の色の「白」や「浅黄」が西洋の喪の色の「黒」に変わり、黒の喪服が浸透していったこと、洋装の浸透と働く女性、「モボ」・「モガ」の出現、学生服・子供服の洋装化、戦時体制下の衣生活について学ぶ。  | 本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる | 60   |

|         |  |                 |   |
|---------|--|-----------------|---|
| 科目名     | 服飾デザイン論  | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択  |
| 担当教員    | 難波 めぐみ   |                 |   |
| 開講期     | 後期   |                 |   |
| 授業概要    | <p>[授業の目的・ねらい] ☑<br/>今日の服装は多様化し個性化が求められ、広く生活とのかかわりの中で考えられている。デザインには様々な分野があり捉え方が一様ではないが、人間と空間のかかわりの問題すなわち生活空間としてとらえられる。この意味でのデザインは、第一に物と人をつなぐプロダクト・デザイン、第二に社会と人間をつなぐグラフィック・デザイン、第三は社会と物とを総合し、人間生活のために調和させようとする環境デザインである。被服デザインは第二の要素をも含みながら、第一の分野に属している。そうした基礎となるものを系統的に習得し、更に、形態・色彩・柄・材質などの理解を深め、描き、創るという実習も通して、総合的に服飾デザインを学ぶ。☑</p> <p>[授業全体の内容の概要] ☑<br/>デザインとは何か。デザインの世界。色の理解。服装における美など、衣生活におけるデザインについてカラーニュートンや表現の変化を通じ理解を深め総合的に学ぶ。</p> |                 |   |
| 達成目標    | <p>[到達目標] ☑<br/>①デザインの世界を知り、デザインとは何かを理解する。☑<br/>②生活空間特に衣生活のなかでのデザインとは何かを理解する。</p>  |                 |   |
| 受講資格    | 特になし。  | 成績評価<br>方法      | ①授業態度 20点 ②途中課題提出（ファッションカラーニュートン、布の表現変化）30点 ③レポートやテストなど50点 ①～③の総合評価60点以上で合格となる。 |
| 教科書     | プリントを配布。   |                 |   |
| 参考書     | 文化出版局『服装デザイン論』飯塚弘子、万江八重子、香川幸子共著、文化出版局『ファッションコーディネートの世界』林泉著、平凡社『ファッションの歴史』千村典生著文化女子大学服装史研究室『ファッション史 改訂版-西洋服装史概説-』   |                 |   |
| 学生への要望  | 1. 遅刻・欠席をせずに熱心に取り組むこと。2. 作品作りは基礎を踏まえた上で丁寧に心をこめて真剣に作り、提出期日を守ることを。☑  |                 |   |
| オフィスタイム | 水曜日IV、金曜日III 家政学館4F 被服学研究室。不在の場合もありますので、授業終了後確認してください。   |                 |   |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目        | 授業内容  | 自学自習               | 目安時間 |
|---|-----------|---|--------------------|------|
| 1 | オリエンテーション | 1) 半期間を通し被服デザインで何を学ぶのかを説明、準備するものなど説明をする☑<br>2)好きな色と似合う色 色に対する興味を持てるよう、自分のアンダートーン及び、パーソナルシーズンのカラーを調査 自分の好きな色が自分に似合う色なのか考えていく   | シラバスで授業内容を確認する     | 40   |
| 2 | 被服の意味     | 1) 被服デザインの意義 デザインとは何か デザインの語源及び、日本においてデザインの言葉が使われるようになったのはいつかなどを学ぶ ☑<br>2) デザインの世界 広義の意味の工業デザイン、建築デザインとは また、被服デザインとは何かを学ぶ☑<br>3) デザインの基本条件 機能、材料、技術とは何か ☑<br>4) 被服。類語を考える☑<br>5) 日本人デザイナー川久保玲について | デザインの種類と意味を理解し整理する | 40   |
| 3 | 衣服の成り立ち   | 1) 西洋服装史を学ぶ 服装の起源と機能、着装の基本型などを学ぶ  | 西洋服飾史を読む           | 90   |
| 4 | 衣服の成り立ち   | 1) 日本服装史を学ぶ 日本人の服装の起源から現在のファッションを考える  | 日本服装史を読む           | 90   |
| 5 | 色彩の基礎     | 1) 色の基礎 色が見える仕組みを学び、光の色、物体の色などを学ぶ ☑<br>2) 色彩の世界を学ぶ ニュートン、レーマー、ゲーテ、マンセル、オストワルト、CIE, PCCSなど ☑<br>3) 色の3属性とは 色相、明度、彩度とは何か☑<br>4) 配色調和の基本を学ぶ ☑<br>5) トーンの理解   | 色の世界を調べる           | 90   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目               | 授業内容  | 自学自習                     | 目安時間 |
|----|------------------|---|--------------------------|------|
| 6  | 被服の美             | 1) 美について ☑<br>2) 被服における美 衣服の美、人体の美、着装の美、内容美を学ぶ☑<br>3) ファッションイメージの分類について☑<br>クラシック、モダン、マニッシュ、スポーティブ、アバンギャルド、エスニック、フェミニン、エレガントなど ☑<br>4) ファッションコーディネーターとの基本原理 ☑<br>5) ファールルール ①正礼装(男・女) ②準礼装(男・女) | 美について考えをまとめる             | 90   |
| 7  | 美的形式原理 コーディネート実習 | 1) コーディネートの基本原理 ☑<br>2) コーディネートの要素☑<br>3) 基本的コーディネート実習の方法を学ぶ☑<br>a.ハーモニーカラーコーディネート(調和配色)☑<br>b.アクセントカラーコーディネート(強調配色)☑   | カラーージュを制作する              | 120  |
| 8  | 美的形式原理コーディネート実習  | 1) 基本的コーディネーション技術と種類☑<br>c.グラデーションカラーコーディネート(階調配色)☑<br>d.マルチカラーコーディネート(多色配色)☑   | カラーージュを制作する              | 120  |
| 9  | 美的形式原理コーディネート実習  | 1) 基本的コーディネーション技術と種類 ☑<br>e.コントラストカラーコーディネート(対照配色)☑<br>f.セパレートカラーコーディネート(分離配色)3週間かけて6つコーディネートを学ぶ  | カラーージュを制作する              | 120  |
| 10 | 美的形式原理           | 上衣と下衣との関係、コーディネートした全体との関係を見ていく中で、美的形式といわれるものはどのようなものか考察していく☑<br>1) 統一(unity),調和(harmony)、リズム(rhythm)、バランス(balance)☑<br>2) プロポーション モデュロールによる美的プロポーションのための黄金比とは、黄金比、ルート矩形などを通して考えていく☑             | カラーージュ実習以外のコーディネートをとまとめる | 40   |
| 11 | 造形要素・シルエットとディテール | 1) 基本デザインにおける点と線 点と線との錯視について ☑<br>2) 被服デザインにおける点と線 服飾と線と錯視について☑<br>3) シルエット 服型とシルエット 体型の理解と採寸方法を学ぶ  | デザインと錯視について考えをまとめる       | 40   |
| 12 | 素材の効果性           | 1) 材質効果 2) 柄づけの技法 3) 柄の種類☑<br>4) 材質とデザイン 5) 同一素材による表現の変化実習☑   | 素材の効果と表現の変化の課題に取り組む      | 120  |
| 13 | ファッション画実習        | 1) デザインと表現 2) プロポーションとポーズ<br>3) 材料と表現☑<br>4) ファッション画実習  | 材料と表現方法を調べデザイン画の制作をする    | 120  |
| 14 | ファッション画実習        | 1) 彩色実習 様々な、着色・描画方法を学ぶ  | 着色方法を学びデザイン画を制作する        | 120  |
| 15 | ファッション画実習及び評価    | ○作品鑑賞会 ☑<br>※これまでの作品鑑賞・討論会を通して様々なものの捉え方や考え方を学ぶ。   | 作品鑑賞会の感想とレポートの制作をする      | 120  |

|                |  |                          |  |
|----------------|--|--------------------------|--|
| <b>科目名</b>     | 被服学実験  | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択               |
| <b>担当教員</b>    | 大泉 由美  |                          |  |
| <b>開講期</b>     | 前期   |                          |  |
| <b>授業概要</b>    | 衣生活概論、被服管理学、テキスタイル材料学他衣生活関連教科で学び修得した衣生活に係わる理論や知識をグループワークによる実験・実習にて整理・確認することにより、科学的に関連理論や知識の理解を深め、安全・安心・快適な衣生活を営むことができる。☑<br>・レポートを添削・返却し、コメントによるフィードバックをおこないます。☑<br>☑<br>位置づけ・水準 HL 2 3 1 0 ☑  |                          |  |
| <b>達成目標</b>    | 1. 被服の着用による汚れのメカニズムを理解する。☑<br>2. 洗濯時の実際上の配慮ポイント（洗剤の計量、乾燥方法等）を理解する。☑<br>3. 洗濯の失敗事例（毛糸のフェルト化）や染み抜きの方法を理解する。☑<br>4. 漂白剤の種類と特徴を実験的に理解する。☑<br>5. 染色実験を経験することにより、染色の消費性能を理解する。☑<br>・単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。☑<br>・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力 |                          |  |
| <b>受講資格</b>    | 特になし   | <b>成績評価<br/>方法</b>       | ①実技 : 30点☑<br>②レポート : 50点☑<br>③受講態度 : 20点☑ |
| <b>教科書</b>     | プリント配布   |                          |  |
| <b>参考書</b>     | 衣生活概論（小林茂男他、弘学出版）、衣服管理の科学（片山倫子編、建帛社）など   |                          |  |
| <b>学生への要望</b>  | レポート提出は、次回授業前までに提出のこと。   |                          |  |
| <b>オフィスタイト</b> | 月曜日（IV限）：NO3研究室☑<br>水曜日（I限）：NO3研究室☑  |                          |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目     | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|---|--------|---|---|------|
| 1 | ガイダンス  | ①授業の進め方や評価方法を理解する。☑<br>②被服学実験授業で使用するガラス器具など実験器具・用具、実験装置などの種類と使い方、注意点を理解する。  | 本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。                   | 30   |
| 2 | ガイダンス  | ①授業の進め方や評価方法を理解する。☑<br>②被服学実験授業で使用するガラス器具など実験器具・用具、実験装置などの種類と使い方、注意点を理解する。  | 本日の授業内容をまとめ、問題点をピックアップする。                   | 30   |
| 3 | 基礎実験 1 | ①ガラス器具など実験器具・用具、実験装置などの種類、洗浄・管理方法、使い方など実験の基礎を理解する。☑<br>②洗濯に及ぼす水質項目として、洗濯用水の硬度、pH、残留塩素、CODをバックテストで確認する。検査対象の洗濯用水として、家庭の水道水、井戸水に加え、市販の飲料水を比較しながら理解を深める。 | 実験レポートの書き方の説明を参考として、本日の水質検査実験結果をレポートにまとめる。  | 60   |
| 4 | 基礎実験 1 | ①ガラス器具など実験器具・用具、実験装置などの種類、洗浄・管理方法、使い方など実験の基礎を理解する。☑<br>②洗濯に及ぼす水質項目として、洗濯用水の硬度、pH、残留塩素、CODをバックテストで確認する。検査対象の洗濯用水として、家庭の水道水、井戸水に加え、市販の飲料水を比較しながら理解を深める。 | 実験レポートの書き方の説明を参考として、本日の水質検査実験結果をレポートにまとめる。  | 30   |
| 5 | 基礎実験 2 | ①試料の計量方法（重量と容積）、溶液の調製方法を②のシャボン玉液を調製しながら理解する。<br>②割れにくいシャボン玉が作れる溶液の調製：水、界面活性剤（台所用洗剤）、洗濯のり、グリセリンなどを混合して、単手でシャボン玉のお手玉ができるような膜の丈夫なシャボン玉液を調製、確認実験をする。      | レポートの書き方の説明を参考として、本日の実験結果をレポートにまとめ、次回に提出する。 | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                    | 授業内容  | 自学自習   | 目安時間 |
|----|-----------------------|---|--|------|
| 6  | 基礎実験 2                | ①試料の計量方法（重量と容積），溶液の調製方法を②のシャボン玉液を調製しながら理解する。☒<br>②割れにくいシャボン玉が作れる溶液の調製：水，界面活性剤（台所用洗剤），洗濯のり，グリセリンなどを混合して，軍手でシャボン玉のお手玉ができるような膜の丈夫なシャボン玉液を調製，確認実験をする。 | レポートの書き方の説明を参考として，本日の実験結果をレポートにまとめ，次回に提出する。                                    | 60   |
| 7  | 生理用ナプキンの構造と吸収メカニズムの検討 | 市販の生理用ナプキンと現在自分が使用しているナプキンを対象として，その構造と吸収メカニズムを実験的に確認し，生理時におけるナプキンの効果的な選択とその使用方法について理解を深める。  | 生理用ナプキンの吸水性実験結果をレポートにまとめ，次回に提出する。  | 60   |
| 8  | 生理用ナプキンの構造と吸収メカニズムの検討 | 市販の生理用ナプキンと現在自分が使用しているナプキンを対象として，その構造と吸収メカニズムを実験的に確認し，生理時におけるナプキンの効果的な選択とその使用方法について理解を深める。  | 生理用ナプキンの吸水性実験結果をレポートにまとめ，次回に提出する。  | 60   |
| 9  | 洗浄力試験                 | 水溶性汚れ，油性汚れ，無機物汚れ，などの汚れモデルを用いて，家庭洗濯（界面活性剤）とドライクリーニング（溶剤）の汚れ除去の違いを確認する。また，界面活性剤のローリングアップ，表面張力低下作用，プラトーの法則実験を行い，界面活性剤の性質や汚れ除去メカニズムの理解を深める。           | 前回の提出されたレポートのチェック内容を参考として，本日のモデル汚れの種類と家庭洗濯，ドライクリーニング洗濯の汚れ除去結果をレポートにまとめ，次回提出する。 | 60   |
| 10 | 洗浄力試験                 | 水溶性汚れ，油性汚れ，無機物汚れ，などの汚れモデルを用いて，家庭洗濯（界面活性剤）とドライクリーニング（溶剤）の汚れ除去の違いを確認する。また，界面活性剤のローリングアップ，表面張力低下作用，プラトーの法則実験を行い，界面活性剤の性質や汚れ除去メカニズムの理解を深める。           | 前回の提出されたレポートのチェック内容を参考として，本日のモデル汚れの種類と家庭洗濯，ドライクリーニング洗濯の汚れ除去結果をレポートにまとめ，次回提出する。 | 60   |
| 11 | 羊毛繊維のフェルト化            | 羊毛繊維の縮絨性を利用してフェルト制作を行い，羊毛製品の洗濯失敗事例としてのフェルト化現象を理解する。   | 本日の羊毛繊維の縮絨化，フェルト制作実験結果をレポートにまとめ，次回提出する。  | 60   |
| 12 | 羊毛繊維のフェルト化            | 羊毛繊維の縮絨性を利用してフェルト制作を行い，羊毛製品の洗濯失敗事例としてのフェルト化現象を理解する。   | 本日の羊毛繊維の縮絨化，フェルト制作実験結果をレポートにまとめ，次回提出する。  | 60   |
| 13 | 漂白剤の性質確認実験            | 羊毛，絹，綿などの布および白，色柄布に市販の各種漂白剤を作用させて，その変化を観察し，漂白剤の種類と特徴，漂白メカニズム，使い方を理解する。  | 本日の漂白剤の種類による布への影響に関する実験結果をレポートにまとめ，次回提出する。                                     | 60   |
| 14 | 漂白剤の性質確認実験            | 羊毛，絹，綿などの布および白，色柄布に市販の各種漂白剤を作用させて，その変化を観察し，漂白剤の種類と特徴，漂白メカニズム，使い方を理解する。  | 本日の漂白剤の種類による布への影響に関する実験結果をレポートにまとめ，次回提出する。                                     | 60   |
| 15 | しみ抜き実験                | 日常的につけやすいしみを実験的に布に付着させ，各種しみ抜き剤（市販漂白剤）や水，洗剤，溶剤（ドライクリーニング）によるしみ抜きを実験的に実施，効果的なしみ抜き方法を実践的に学ぶ。   | 本日の実験的なしみ抜き実験結果をレポートにまとめ，次回提出する。   | 60   |
| 16 | しみ抜き実験                | 日常的につけやすいしみを実験的に布に付着させ，各種しみ抜き剤（市販漂白剤）や水，洗剤，溶剤（ドライクリーニング）によるしみ抜きを実験的に実施，効果的なしみ抜き方法を実践的に学ぶ。   | 本日の実験的なしみ抜き実験結果をレポートにまとめ，次回提出する。   | 60   |
| 17 | 天然染料による染色実験           | 絹と木綿のハンカチを試験布として，多種多様な染色方法のうち，天然染料による縫い絞り染を行い，染料，染色方法，染色堅牢度など染色に関する知識や技術を体験的に理解する。  | 染色に関する説明資料（染料の種類と歴史）を読んで理解する。  | 30   |
| 18 | 天然染料による染色実験           | 絹と木綿のハンカチを試験布として，多種多様な染色方法のうち，天然染料による縫い絞り染を行い，染料，染色方法，染色堅牢度など染色に関する知識や技術を体験的に理解する。  | 染色に関する説明資料（染料の種類と歴史）を読んで理解する。  | 30   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                    | 授業内容   | 自学自習  | 目安時間 |
|----|-----------------------|--|---|------|
| 19 | 天然染料による染色実験           | 絹と木綿のハンカチを試験布として、多種多様な染色方法のうち、天然染料による縫い絞り染を行い、染料、染色方法、染色堅牢度など染色に関する知識や技術を体験的に理解する。   | 染色実験に関するレポートを作成し、次回提出する。                              | 30   |
| 20 | 天然染料による染色実験           | 絹と木綿のハンカチを試験布として、多種多様な染色方法のうち、天然染料による縫い絞り染を行い、染料、染色方法、染色堅牢度など染色に関する知識や技術を体験的に理解する。   | 染色実験に関するレポートを作成し、次回提出する。                              | 30   |
| 21 | 環境を考えた衣生活             | 衣生活分野においても環境負荷低減を考える5R (Reuse, Recycle, Reduction, Repair, Remake) の実践が必要である。そこで、使用後の衣料から布地を調製し、①貝殻のストラップ、②お手玉を制作し、環境意識の醸成を図る。 | 衣生活と環境に関する配布資料を読み、理解を深める。                             | 30   |
| 22 | 環境を考えた衣生活             | 衣生活分野においても環境負荷低減を考える5R (Reuse, Recycle, Reduction, Repair, Remake) の実践が必要である。そこで、使用後の衣料から布地を調製し、①貝殻のストラップ、②お手玉を制作し、環境意識の醸成を図る。 | 衣生活と環境に関する配布資料を読み、理解を深める。                             | 30   |
| 23 | 環境を考えた衣生活<br>(継続)     | 衣生活分野においても環境負荷低減を考える5R (Reuse, Recycle, Reduction, Repair, Remake) の実践が必要である。そこで、使用後の衣料から布地を調製し、①貝殻のストラップ、②お手玉を制作し、境意識の醸成を図る。  | 環境を考えた衣生活 (ストラップ作り、4種類のお手玉) に関するレポートを作成し、次回提出する。      | 60   |
| 24 | 環境を考えた衣生活<br>(継続)     | 衣生活分野においても環境負荷低減を考える5R (Reuse, Recycle, Reduction, Repair, Remake) の実践が必要である。そこで、使用後の衣料から布地を調製し、①貝殻のストラップ、②お手玉を制作し、境意識の醸成を図る。  | 環境を考えた衣生活 (ストラップ作り、4種類のお手玉) に関するレポートを作成し、次回提出する。      | 60   |
| 25 | 防虫剤の種類と使用方法<br>(市場調査) | 市場調査にて各種防虫剤の成分、表示内容を確認し、その使い方を科学的に理解する。また、生活者視点から防虫剤の表示内容や表示方法 (文字の大きさ、見やすさ、など) を評価し、生活者の立場で商品の表示提案を考える。                       | 衣料用防虫剤に関する配布資料と本日の市場調査の課題にしたがって、調査結果のレポートを作成し、次回提出する。 | 60   |
| 26 | 防虫剤の種類と使用方法<br>(市場調査) | 市場調査にて各種防虫剤の成分、表示内容を確認し、その使い方を科学的に理解する。また、生活者視点から防虫剤の表示内容や表示方法 (文字の大きさ、見やすさ、など) を評価し、生活者の立場で商品の表示提案を考える。                       | 衣料用防虫剤に関する配布資料と本日の市場調査の課題にしたがって、調査結果のレポートを作成し、次回提出する。 | 60   |
| 27 | 汗汚れの検出                | 肌シャツを1~2日間着用し、体内から排泄される汚れのうちタンパク質汚れを検出するニンヒドリンを噴霧し、汚れの付着状態を確認する。   | 人体からの汚れに関する配布資料と本日の実験結果をレポートにまとめ、次回提出する。              | 60   |
| 28 | 汗汚れの検出                | 肌シャツを1~2日間着用し、体内から排泄される汚れのうちタンパク質汚れを検出するニンヒドリンを噴霧し、汚れの付着状態を確認する。   | 人体からの汚れに関する配布資料と本日の実験結果をレポートにまとめ、次回提出する。              | 60   |
| 29 | レポートのフィードバック          | 提出されたレポートの作成方法や実験内容の解釈に関するポイントを指導しながら、全体の総まとめを行う。☒   | 本日のレポート作成に関する講義説明を復習し、提出した自分のレポートの問題点や課題を明らかにする。      | 30   |
| 30 | レポートのフィードバック          | 提出されたレポートの作成方法や実験内容の解釈に関するポイントを指導しながら、全体の総まとめを行う。☒   | 本日のレポート作成に関する講義説明を復習し、提出した自分のレポートの問題点や課題を明らかにする。      | 30   |



|         |   |            |   |                              |
|---------|---|------------|---|------------------------------|
| 科目名     | 衣造形学実習Ⅰ   |            | 対象<br>単位数<br>必選   | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 1単位 選択 |
| 担当教員    | 瀬谷 真理子, 大泉 由美, 難波 めぐみ   |            |   |                              |
| 開講期     | 前期  |            |   |                              |
| 授業概要    | <p>[授業の目的・ねらい] ☑<br/>立体構成（洋裁）学を基に、衣服の成り立ちについての理解を深める。また、原型の製図方法を習得することにより、体型と構成の関連性を理解し、着心地の良い作品を作る。制作実習により衣生活の重要性を学ぶとともに快適な衣生活の提案ができるように知識と技術の修得を目指す。更に、教員養成に向け、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、基礎的技術の習得のために全国高等学校家庭科被服製作技術検定の作品製作（4級：基礎縫い・2級：ブラウス）をとおして実践力や評価方法等の教科指導力の向上に向けて理解を深め、基本から応用までの技術修得を目指す。また、中学校「技術・家庭」家庭分野の被服製作としても活用されるアウターパンツについて、前半での学びの応用として主体的に製作実習する。ワークシート及び☑ポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行います。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ☑<br/>基本的な被服製作実習を通し技術の修得と定着を図るとともに、教員としての資質を育むため選択製作実習を取り入れ主体的に製作できる力を養う。</p> <p>[実務経歴] 福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。<br/>位置づけ・水準 HU2211</p> |            |   |                              |
| 達成目標    | <p>①体の機能や形態を理解するとともに立体構成（洋裁）とは何かを理解できる。☑<br/>②家庭科教育における衣生活分野を学ぶ意味について理解し、製作実習に必要な力を養う。☑<br/>③基本的な洋裁技術を修得するとともに、教科指導上の課題について理解し実践力を養う。<br/>単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度7割以上であること。<br/>ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力</p>  |            |   |                              |
| 受講資格    | 上記対象学生、教職履修学生   | 成績評価<br>方法 | <p>①授業への意欲・態度 20点<br/>②課題：部分作品（パターン、袖、衿等）20点<br/>③完成作品（基礎縫い、ブラウス製作、選択製作）50点<br/>④課題（レポート等）10点</p> |                              |
| 教科書     | 文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座「服飾造形の基礎」文化出版局、プリント配布。   |            |   |                              |
| 参考書     | 文部科学省後援：全国高等学校家庭科被服製作技術検定指導要項、「ファッション造形基礎」「パターン・裁断・縫い方の基礎の基礎」文化出版局、文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座「ブラウス・ワンピース」文化出版局   |            |   |                              |
| 学生への要望  | 1. 主体的・意欲的に取り組むこと。2. 実習用具、材料は指示通り各自用意すること。3. 製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進捗を揃え、完了できるように心掛けること。  |            |   |                              |
| オフィスタイム | 水曜（1、II時限）家政学館4F生活科学研究室。  |            |   |                              |

## -授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目            | 授業内容   | 自学自習                           | 目安時間 |
|---|---------------|--|--------------------------------|------|
| 1 | オリエンテーション     | オリエンテーション<br>1) 被服製作に必要な実習用具について理解する。<br>2) 家庭科教育における衣生活分野の意味を考える。                           | シラバスを確認し演習内容を理解する<br>ワークシートの整理 | 20   |
| 2 | 実習内容と留意事項について | 1) 実習計画の提示☑<br>2) 体型と立体構成について☑<br>3) 被服製作の基本   | シラバスを確認し演習内容を理解する<br>ワークシートの整理 | 30   |
| 3 | 被服製作における基本    | 1) 洋裁の基礎知識☑<br>2) 基本的技術の確認と定着<br>3) 家庭科被服製作技術検定4級の実施と評価                                      | ワークシートの整理                      | 30   |
| 4 | 被服製作における基本    | 1) 洋裁の基礎知識☑<br>2) 基本的技術の確認と定着<br>3) 家庭科被服製作技術検定4級の実施と評価                                      | ワークシートの整理                      | 30   |
| 5 | 原型製図          | 1) 原型とパターンの関連性を理解する<br>2) 原型を縮尺で製図する   | 原型とは何か調べノートに記入する<br>ワークシートの整理  | 30   |
| 6 | 原型製図          | 1) 原型とパターンの関連性を理解する<br>2) 原型を縮尺で製図する   | 原型とは何か調べノートに記入する<br>ワークシートの整理  | 30   |
| 7 | 被服製作          | 1) パターンの記号を学ぶ☑<br>2) パターンの利用の仕方と指導上の留意点を学ぶ   | ワークシートの整理                      | 30   |
| 8 | ブラウスパターン作図    | 1) ブラウスのパターンを選定 ☑<br>2) ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出☑<br>3) 次回使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ | 原型の作成の仕方をノートに記入する<br>ワークシートの整理 | 30   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                        | 授業内容   | 自学自習   | 目安時間 |
|----|---------------------------|--|--|------|
| 9  | ブラウスパターン作図                | 1)ブラウスのパターンを選定 ☑<br>2)ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出☑<br>3)次回使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ  | パターンの展開方法を理解する   | 30   |
| 10 | ブラウス製作①ー基本を学ぶー            | 1)パターン修正 ☑<br>2)裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ☑<br>3)接着芯の取り扱いを学ぶ☑   | パターンの展開方法を理解する<br>裁断前の準備について理解する<br>ワークシートの作成          | 30   |
| 11 | ブラウス製作①ー基本を学ぶー            | 1)パターン修正 ☑<br>2)裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ☑<br>3)接着芯の取り扱いを学ぶ☑   | パターンの展開方法を理解する<br>裁断前の準備について理解する<br>ワークシートの作成          | 30   |
| 12 | ブラウス製作②                   | 1)製作の手順と方法を学ぶ<br>2)製作の基礎を理解する<br>a. 襟糸について b. ぐし縫いについて   | 製作の手順を理解する<br>製作の計画をワークシートに整理する                        | 30   |
| 13 | ブラウス製作②                   | 1)製作の手順と方法を学ぶ<br>2)製作の基礎を理解する<br>a. 襟の仕方 b. 仮縫い c. ミシンの使い方   | 製作の手順を理解する<br>製作の計画をワークシートに整理する                        | 30   |
| 14 | ブラウス製作③                   | 1)本縫い☑<br>2)縫い代始末方法を学ぶ。a. ジグザグミシンの方法。<br>b. ロックミシン c. 端ミシン☑<br>3)袖作り☑<br>4)衿作り(袖、衿に名札を付けて提出)   | 製作の手順を理解する<br>製作の計画をワークシートに整理する<br>袖、衿について提出できるように準備する | 30   |
| 15 | ブラウス製作③                   | 1)本縫い準備。a. 仮縫いした糸を解き、綺麗にアイロンをかける☑<br>2)縫い代始末方法を学ぶ。a. ジグザグミシンの方法。<br>b. ロックミシン c. 端ミシン☑<br>3)袖作り☑<br>4)衿作り(袖、衿に名札を付けて提出)                | 製作の手順を理解する<br>製作の計画をワークシートに整理する<br>袖、衿について提出できるように準備する | 30   |
| 16 | ブラウス製作③                   | 1)本縫い準備。a. 仮縫いした糸を解き、綺麗にアイロンをかける☑<br>2)縫い代始末方法を学ぶ。a. ジグザグミシンの方法。<br>b. ロックミシン c. 端ミシン☑<br>3)袖作り☑<br>4)衿作り(袖、衿に名札を付けて提出)                | 製作の手順を理解する<br>製作の計画をワークシートに整理する<br>袖、衿について提出できるように準備する | 30   |
| 17 | ブラウス製作④ー身頃縫い・ダーツの縫製方法を学ぶー | 1)身頃本縫い まち針の打ち方、襟のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。☑<br>a. 前身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ b. 脇縫い<br>C. 肩縫い d. 見返しの扱い方を学ぶ e. 衿付け 衿付け始末の方法を学ぶ f. 裾上げ                  | ダーツの意味と利用による形の違いを調べワークシートに整理する                         | 30   |
| 18 | ブラウス製作④ー身頃縫い・ダーツの縫製方法を学ぶー | 1)身頃本縫い まち針の打ち方、襟のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。☑<br>a. 身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ b. 脇縫い<br>C. 肩縫い d. 見返しの扱い方を学ぶ e. 衿付け 衿付け始末の方法を学ぶ f. 裾上げ                   | ダーツの意味と利用による形の違いを調べワークシートに整理する                         | 30   |
| 19 | ブラウス製作⑤ー袖付け・ボタン           | 1)袖付け 袖付けの方法を学ぶことにより、ブラウスの成り立ちを学び、更に始末の方法も修得する。☑<br>2)ボタン ☑<br>a. 手縫いによるボタンホールの手法を学ぶ。本授業ではミシンによるボタン穴の制作をし、ボタン穴の開け方を学ぶ。 b. ボタンのつけ方を学ぶ。☑ | 袖付け理解と、ボタン付けの方法を理解し練習する                                | 30   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目               | 授業内容   | 自学自習                    | 目安時間 |
|----|------------------|--|-------------------------|------|
| 20 | ブラウス製作⑤ー袖付け・ボタンー | 1) 袖付け 袖付けの方法を学ぶことにより、ブラウスの成り立ちを学び、更に始末の方法も修得する。☒<br>2) ボタン☒<br>a、手縫いによるボタンホールの手法を学ぶ。本授業ではミシンによるボタン穴の制作をし、ボタン穴の開け方を学ぶ。b、ボタンのつけ方を学ぶ。☒ | 袖付け理解と、ボタン付けの方法を理解し練習する | 30   |
| 21 | ブラウス製作⑥ー相互評価ー    | 1) 仕上げ<br>2) 着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する<br>3) 評価。レポートと共に名札を付け提出   | レポートの作成                 | 30   |
| 22 | 選択製作ーアウターパンツ     | 1) 製作計画の作成<br>2) デザイン、型紙作成<br>3) 裁断  | レポートの作成                 | 30   |
| 23 | 選択製作ーアウターパンツ     | 1) 縫い代始末、しるしつけ☒<br>2) 仮縫い、補正<br>3) 本縫い ポケット  | レポートの作成                 | 30   |
| 24 | 選択製作ーアウターパンツ     | 脇縫い、また下縫い、また上縫い  | レポートの作成                 | 30   |
| 25 | 選択製作ーアウターパンツ     | ウエストの始末、裾の始末   | レポートの作成                 | 30   |
| 26 | 選択製作ーアウターパンツ     | 仕上げ、相互評価   | レポートの作成                 | 30   |
| 27 | 選択製作ーアウターパンツ     | ウエストの始末、裾の始末   | レポートの作成                 | 30   |
| 28 | 選択製作ーアウターパンツ     | 仕上げ、相互評価   | レポートの作成                 | 30   |
| 29 | 総合評価             | 作品提出と共に、レポート課題の提出☒<br>※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。教員採用試験に向けた実技試験の概要について過去問から要点を理解する。   | レポートの作成                 | 60   |
| 30 | 総合評価             | 作品提出と共に、レポート課題の提出☒<br>※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。教員採用試験に向けた実技試験の概要について過去問から要点を理解する。   | レポートの作成                 | 60   |

|         |  |                 |   |
|---------|--|-----------------|---|
| 科目名     | 衣造形学実習Ⅱ  | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 1単位 選択  |
| 担当教員    | 田辺 真弓, 難波 めぐみ  |                 |   |
| 開講期     | 前期   |                 |   |
| 授業概要    | <p>本実習では、スカート製作を通して、技術力を向上させ、応用展開する力を養う。スカート製作を通して、デザイン、人体計測法、パターン製図、縫製用具の使用法、縫製方法、着装等を学ぶ。授業内容の概要は次の通りである。☑</p> <p>①機能性と美しさを兼ね備えた被服を製作するための基礎的な人体計測法を学ぶ。☑</p> <p>②パターン製図法ならびにデザイン展開方法を学ぶ。☑</p> <p>③被服材料の種類と扱い方を学ぶ。☑</p> <p>④仮縫いと補正方法について学ぶ。☑</p> <p>⑤縫製用具の使用法、各部分に適した合理的な縫製方法を学ぶ。☑</p> <p>⑥着装について学ぶ。☑</p> <p>⑦最終授業で全体に対するフィードバックを行います。</p> |                 |   |
| 達成目標    | <p>目標は☑</p> <p>①衣造形の実習を通して地域社会に貢献できる力を身につけている。☑</p> <p>②柔軟で応用力のある創造的思考力を身につけている。☑</p> <p>③現代の衣生活における多様な課題を発見し、分析・解決する能力を身につけている。☑</p> <p>④衣造形に関する専門的知識を基に論理的に課題を探索し、他者と協調しつつ、主体的に問題を解決していく能力を身につけている。☑</p> <p>単位認定の最低基準は内容の8割を理解していること。</p>  |                 |   |
| 受講資格    | 人間生活学科生活総合コース4年生   | 成績評価<br>方法      | <p>達成目標の到達度合いの確認は次の①～③により評価する。☑</p> <p>①実習への取り組みの姿勢 20点 ②課題レポート 20点☑</p> <p>③完成作品 60点 ①～③の総合的評価60点以上を合格とする。</p> |
| 教科書     | 教科書は使用せず、『スカート製作ノート』を配付する。   |                 |   |
| 参考書     | 文化ファッション大系・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』（文化出版局）、文化ファッション大系・服飾造形講座②『スカート・パンツ』（文化出版局）   |                 |   |
| 学生への要望  | <p>①遅刻・欠席をせず、実習に熱心に取り組み、授業中に規定の範囲まで進め、授業最終回までに完成させること。☑</p> <p>②実習用具・材料は指示通りに用意し、授業に持参すること。☑</p> <p>③完成させた作品を着装し、指導者に確認を受けた上でノートとともに提出すること。</p>  |                 |   |
| オフィスタイム | 教務部非常勤講師控室 火曜日1時限  |                 |   |

## -授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目                              | 授業内容   | 自学自習                             | 目安時間 |
|---|---------------------------------|--|----------------------------------|------|
| 1 | 授業計画の提示                         | 授業計画を提示し、授業目標ならびに授業内容について説明する。   | シラバスを確認し、授業目標ならびに授業内容について理解する。   | 20   |
| 2 | スカート製作についての説明                   | 『スカート製作ノート』を配付し、スカート製作実習の進め方について説明する。  | 『スカート製作ノート』に目を通し、実習の進め方について確認する。 | 20   |
| 3 | スカート製作のための採寸☑<br>スカートパターンの製図    | パターン作成に必要な人体部位の採寸方法を知り、採寸する。タイトスカート、セミタイトスカートの製図方法を解説する。説明にしたがい、縮尺を用いてタイトスカート、セミタイトスカートの縮尺1/4の大きさの製図を行う。 | タイトスカート、セミタイトスカートの製図方法を確認する。     | 20   |
| 4 | スカートパターンのデザイン展開☑<br>実物大パターンの利用法 | スカートデザインによるパターン展開方法を学ぶ。☑<br>市販の実物大パターンの利用法と留意する点について学ぶ。  | 市販の実物大型紙を利用する場合の注意点を確認する。        | 20   |
| 5 | スカート・パターン作成                     | 実物大のスカートパターンを作成し、正しく作成されているか点検する。  | 作成したスカートパターンを見直す。                | 20   |
| 6 | スカート材料の説明                       | スカート生地（表地・裏地）の材質と用尺、ならびに付属品（ベルト芯・ファスナー・かぎホック・スナップ）、ミン糸・手縫い糸について、見本を提示して説明する。これらを次回の授業時に持参する。             | どのような材料を用いるかを考え、用尺について確認する。      | 20   |
| 7 | 表スカート生地の地直し                     | 表スカート生地の素材にあった地直しの方法を学び、地直しをする。  | 地直しの方法を確認する。                     | 20   |
| 8 | 表スカートの裁断                        | 材質・織り・柄に適応した正しい裁断方法、柄合わせする上での注意点を学ぶ。パターンを生地の上に配置し、縫い代を付けて裁断する。   | 裁断方法、柄合わせする上での注意点を確認する。          | 20   |
| 9 | 表スカートの印付け①                      | 印付けにはどのような方法があり、生地に応じてどの方法を選択するかを学ぶ。チャコペーパーを用いた印付けの方法を確認するとともに、切りじつけの方法を学ぶ。                              | 切りじつけの方法を確認する。                   | 20   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                | 授業内容  | 自学自習                                    | 目安時間 |
|----|-------------------|---|---|------|
| 10 | 表スカートの印付け②        | 生地の種類により、切りじつけまたはチャコペーパーで印付けをする。  | 切りじつけを完了する。                             | 20   |
| 11 | 表スカートの仮縫い①        | しるもを用いた仮縫いの方法を学ぶ。縫製順序は①ダーツ⇒②脇縫い⇒③裾の置きじつけ  | 仮縫いの方法を確認する。                            | 20   |
| 12 | 表スカートの仮縫い②        | ④ベルト芯付け（仮縫いの際はベルト芯は生地で包まずにそのまま縫い付ける）  | 仮縫いを完了する。                               | 20   |
| 13 | スカートの試着・補正        | 仮縫いしたスカートを試着して、観察し、ゆとり量は適当か、体型に合わない時に現れるしわがないか、スカート丈は丁度よいか、裾線は水平になっているか、などを観察する。補正が必要な場合はその部分を縫い直す。     | 補正の方法についてノートにまとめる。                      | 20   |
| 14 | スカート・パターンの修正      | 補正を行った箇所についてパターンも修正し、どのように修正したかをパターンに書き込んでおく。☒  | 補正が正しく行われたか、また補正に伴い、パターンを正しく修正したかを確認する。 | 20   |
| 15 | ダーツ・脇の本縫い         | ミシンの上糸・下糸の掛け方ならびに糸調子の調整方法について確認し、スカート裁断時の残り布を用いて、試し縫いをする。本縫いを開始し、ダーツ、脇をミシンで本縫いし、アイロンで縫い目と縫い代を整える。       | ミシンの取り扱い方法を復習する。                        | 20   |
| 16 | 脇縫い代端、裾へムの裁ち目かかり  | ロックミシンで脇縫い代端と裾へムの裁ち目かかりをする。   | 裁ち目かかりの方法にはどのようなものがあるかを調べてノートにまとめる。     | 20   |
| 17 | ファスナー付け           | ファスナーの合理的な付け方を学び、ファスナーを付ける。   | ファスナーの合理的な付け方を確認する。                     | 20   |
| 18 | 裾の始末              | 表に響かず、美しく、かつ丈夫な裾のまつり方について学び、裾を奥まつりする。   | まつり方にはどのような種類があるかを調べてノートにまとめる。          | 20   |
| 19 | 裏スカートの裁断          | 裏地の役割を理解し、裏地の性質と裏地の扱い方を知り、裏スカートの裁断方法と縫製上の注意点を学ぶ。  | 裏地にはどのような種類があるかを調べ、ノートにまとめる。            | 20   |
| 20 | 裏スカートの縫製          | 裏スカートを縫製する。縫製順序は①ダーツ⇒②脇⇒③裾。ミシン縫い後、脇縫い代にロックミシンをかけ、裾縫い代を2cm幅の三つ折りにする。タイトスカートの場合は後ろ中心をあき止まりまで縫い、スリット部分を縫う。 | 裏スカートの縫製方法についてノートにまとめる。                 | 20   |
| 21 | 脇の中綴じ、ファスナーまわりの始末 | 表スカート・裏スカートの脇縫い代をしるも2本どりで中綴じし、ファスナーまわりの始末（たてまつり）をする。  | たてまつりを完了させる。                            | 20   |
| 22 | ファスナーまわりの星止め      | ファスナーまわりに星止めすることの意味を知り、正しい方法で星止めをする。  | 星止めを完了させる。                              | 20   |
| 23 | ベルト作り             | 正確なウエスト寸法に仕上げるための注意点とベルト作りの方法を学ぶ。ベルト布にベルト芯を正しく配置し、縫い付ける。  | ベルト作りの方法をノートにまとめる。                      | 20   |
| 24 | ベルト付け             | 美しく合理的なベルト付けの方法を学ぶ。ベルト布をスカート本体に縫い付け、縫い代の始末をする。  | ベルト付けの方法をノートにまとめる。                      | 20   |
| 25 | スカートの仕上げ          | 仕上げ（糸ループ、かぎホック・スナップ付け、アイロンがけなど）を行う。   | アイロンがけの注意点をまとめる。                        | 20   |
| 26 | スカートの完成           | 糸の始末が的確に行われているか、切りじつけをすべて取り除いているか、寸法は正しいか、縫製に誤りはないか、アイロンが美しくかけられているかなど、スカート全体をチェックし、完成を確認する。            | 完成を確認し、問題点があれば直す。                       | 20   |
| 27 | スカートの着装           | スカートを試着して授業担当者に見せ、着装写真を撮影する。  | これまでの実習を振り返り、自己評価する。                    | 20   |
| 28 | 作品とノートの提出         | 『スカート製作ノート』の「スカート製作を終えて」の頁をもれなく記入し、作品とノートを提出する。☒  | スカート製作過程で理解不足の点や疑問点があればまとめておく。          | 20   |
| 29 | スカート製作のまとめ        | スカート製作についてのまとめを行う。  | 疑問点について解決を試みる。                          | 20   |
| 30 | 授業のまとめ            | 「衣造形学実習Ⅱ」で学んだ内容について振り返り、習得した技術を実生活にどのように生かしていくかについて考える。   | 今後この実習で学んだ知識と技術を今後どのように生かしていくか計画する。     | 20   |

|                |   |                          |   |
|----------------|---|--------------------------|---|
| <b>科目名</b>     | 食生活概論   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択 |
| <b>担当教員</b>    | 鎌野 信子   |                          |   |
| <b>開講期</b>     | 前期  |                          |   |
| <b>授業概要</b>    | 望ましい食生活とは、食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などの複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って、「健康」かつ「安全」で「満足」できるような食生活の質の向上を構築することが重要である。本授業では「食」に関わる周辺を包括して学ぶ。<br>【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、フィードバックの時間を設定し連絡します。<br>【位置づけ・水準】 HL2134   |                          |   |
| <b>達成目標</b>    | 「食生活」の重要性を認識するとともに、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことで、実生活で役立つ理論と実践の素養を身につけること、および、【履修カルテの評価項目】を達成することを目標とする。☑<br>☑<br>【履修カルテの評価項目】☑<br>①「食生活」が、さまざまな物と人との相互作用によって構築されていることを、どの程度理解できたか。☑<br>②食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を、どの程度養うことができたか。☑<br>③国が定めた「健康」や「表示」に関する制度を、どの程度理解できたか。<br>【単位認定方法の最低基準】 授業内容の80%を理解していること。<br>【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】 ①知識・理解 ②倫理観・社会的責任<br>☑ |                          |   |
| <b>受講資格</b>    | ☑<br>家政学部 人間生活学科 1年 ☑<br>☑  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | ①ノートまとめ20%☑<br>②課題30%☑<br>③期末試験50%  |
| <b>教科書</b>     | ①指定の資料を各自コピーして持参する。☑<br>②指示したホームページをダウンロードして、各自印刷して持参する。  |                          |   |
| <b>参考書</b>     | 必要に応じて、授業内で案内する。  |                          |   |
| <b>学生への要望</b>  | 1. 私語を慎み、意欲的に取り組んで下さい。☑<br>2. 各省庁のホームページを検索する場合があります。パソコンを持参してください。☑<br>3. ノートをしっかりとして下さい。☑<br>4. 体調不良などで、授業に出席できなかった場合は、その日の授業内容について、友人や担当者に確認するなどして、不足分は自分で補って下さい。☑<br>5. 食生活を取り巻く周辺は多岐にわたっています。日常生活の各場面において、常に食との関わり方に興味を示してください。☑   |                          |   |
| <b>オフィスタイム</b> | 月曜日3時限および火曜日3時限目のNo1食品学研究室  |                          |   |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目          | 授業内容  | 自学自習   | 目安時間 |
|---|-------------|---|--|------|
| 1 | 授業の目的       | 「食生活概論」は、「食」に関わる周辺や、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことが目的であることを理解する。併せて、授業の導入として、食品の定義について説明し、「食品」とは何かを理解する。                                 | 復習：1回目の授業内容についてノート整理をしてください。   | 30   |
| 2 | 食品表示と法的位置づけ | 食品表示は、食品の履歴書・保証書であることから、「食品表示」の情報を正確に読み取ることが安心・安全な食品を選択するために重要である。ここでは食品表示は消費者庁が一元化して把握していることを理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。 | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☑<br>復習：2回目の授業内容についてノート整理をしてください。☑<br>課題：課題①に取り組んでください。 | 60   |
| 3 | 品質等選択に役立つ表示 | JAS法に基づく食品表示は品質の表示基準であるとともに、遺伝子組み換え食品の表示、加工食品の原料原産地表示、期限表示などがあり、その表示法について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。                      | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☑<br>復習：3回目の授業内容についてノート整理をしてください。☑<br>課題：課題②に取り組んでください。 | 60   |
| 4 | 安全や衛生に関する表示 | 食品衛生法による食品表示の法体系と表示内容、および食物アレルギーの表示制度について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。  | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☑<br>復習：4回目の授業内容についてノート整理をしてください。☑<br>課題：課題③に取り組んでください。 | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目               | 授業内容   | 自学自習  | 目安時間 |
|----|------------------|--|---|------|
| 5  | 健康や栄養に関する表示      | 特定保健用食品制度の概要および許可の条件、特別用途食品制度の概要および新設の総合栄養食品、栄養表示基準制度の概要および表示の種類について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。                                  | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒<br>復習：5回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒<br>課題：課題④に取り組んでください。  | 60   |
| 6  | 食の安全について         | 食の安全性の考え方について説明し、食品の安全確保には、食品の加工および保存技術の発展が重要であること、および、食の安全については客観的な判断が必要であることを理解する。   | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒<br>復習：6回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒<br>課題：課題⑤に取り組んでください。  | 60   |
| 7  | おいしさの基本理念        | 「食べ物のおいしさ」には、外観、香り、味、テクスチャー、音などの五感によってとらえられる生理的なおいしさがある。また、価格や商品名などの情報は、心理的においしさに影響を及ぼすことについて学習し、理解する。   | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒<br>復習：7回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒<br>課題：課題⑥に取り組んでください。  | 60   |
| 8  | 食嗜好の形成           | 食物の認知や好き嫌いは、脳の第2次味覚野で統合されて判断される。おいしい、まずいは慣れへの依存であり、幼児期に刷り込まれた味が強固となって食嗜好が形成されることを理解する。   | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒<br>復習：8回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒<br>課題：課題⑦に取り組んでください。  | 60   |
| 9  | 食生活と健康           | 我が国において、食生活と健康維持・管理に係る取り組みとして2013年度から開始している「第4次国民健康づくり対策：健康日本21（第2次）」について解説し、生活の質の向上と社会環境の質の向上について理解する。  | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒<br>復習：9回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒<br>課題：課題⑧に取り組んでください。  | 60   |
| 10 | 日本人の食事摂取基準（2020） | 日本人の食事摂取基準は、健康な個人並びに集団を対象として、国民の健康の保持・増進、生活習慣病の予防のために2020年4月より実施する「日本人の食事摂取基準（2020）」について、その概要と改正のポイントについて理解する。                                   | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒<br>復習：10回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒<br>課題：課題⑨に取り組んでください。 | 60   |
| 11 | 食料と環境問題          | 「快適な環境」、「魅力ある環境」を目指すために、フード・マイレージの低減、食料自給率、地産地消、食べ残しや食品廃棄の低減への取り組み方について理解する。   | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒<br>復習：11回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒<br>課題：課題⑩に取り組んでください。 | 60   |
| 12 | 照射食品の安全性とその利用    | 我が国では、ジャガイモの芽止めのみ、放射線照射が許可されている。放射線照射食品との関連から、放射性物質による食品への移行と健康への影響について考え方を理解する。   | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒<br>復習：12回目の授業内容についてノート整理をしてください。                       | 60   |
| 13 | 食空間の基礎           | 食空間は、人間・時間・空間の3要素を相互作用させて創造しなければならない。色は食空間のイメージを決定づけたり、色の持つ力を意識的に使って料理をおいしく見せたり、食卓を楽しく演出することが出来る。ここでは、色の基本、色と料理のおいしさの関係、色とテーブル・コーディネートについて、理解する。 | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒<br>復習：13回目の授業内容についてノート整理をしてください。                       | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目              | 授業内容   | 自学自習  | 目安時間 |
|----|-----------------|--|---|------|
| 14 | 店舗、飲食店、キッチンの食空間 | 食空間は、食物を売るデパート・スーパーマーケット・街の洋菓子店など小売店の売場と、食物を食べる家庭の食卓や飲食店の客席などの食事空間と、調理するキッチンに区別できる。ここでは、いかに分かりやすく楽しく買物できるか、いかに満足し心地よく食事できるか、いかに効率よく環境衛生に即して調理できるかを念頭においた食空間について理解する。 | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☑<br>復習：14回目の授業内容についてノート整理をしてください。 | 60   |
| 15 | 授業の総括：確認と授業評価   | 本授業のまとめとして、ここでは、授業内容に関わる身近な話題を取り上げて解説する。さらに、「アメニティ」と「ホスピタリティ」の精神が、「安全」かつ「健康」で「満足」できるような食生活の質の向上の構築につながることを再確認し、理解する。あわせて、本授業に対し、学生より評価を得る。                           | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☑<br>復習：15回目の授業内容についてノート整理をしてください。 | 60   |



|                |   |                          |                                    |
|----------------|---|--------------------------|------------------------------------|
| <b>科目名</b>     | 食生活文化論  | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択       |
| <b>担当教員</b>    | 鎌野 信子   |                          |                                    |
| <b>開講期</b>     | 前期  |                          |                                    |
| <b>授業概要</b>    | 日本の伝統的な食文化である「和食」は、縄文人の食べる知恵を原点に、歴史や風土に根ざした「地産地消」や「身土不二」の精神が蓄積されて、現代まで受け継がれてきたものである。この授業では、食の欧米化、ファストフードの進化や、ライフスタイルの変化による食の乱れが広がる一方で、長寿国の日本人は、何をどのように食べてきたのか、併せて外国の飲酒文化についても学ぶ。☑<br>【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、フィードバックの時間を設定し連絡します。<br>【位置づけ・水準】 HU2413☑                   |                          |                                    |
| <b>達成目標</b>    | 日本の伝統的な食文化および外国の飲酒文化について、社会的背景との関わり方を理解することを目標とすることを目標とする。【単位認定方法の最低基準】 授業内容の80%を理解していること。<br>【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】 ①知識・理解 ②総合的な学習経験、創造的思考   |                          |                                    |
| <b>受講資格</b>    | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年   | <b>成績評価<br/>方法</b>       | ①ノートまとめ20%☑<br>②課題30%☑<br>③期末試験50% |
| <b>教科書</b>     | 「食べもの文化史」 永山久夫監修  |                          |                                    |
| <b>参考書</b>     | 必要に応じて、授業内で適宜紹介する。  |                          |                                    |
| <b>学生への要望</b>  | 1. 私語を慎み、意欲的に取り組んで下さい。☑<br>2. 教科書は、日本語/ENGLISHの対応です。日本の食文化を外国人にも伝えられるように、積極的に活用して下さい。☑<br>3. 毎時間、英文の読み合わせを行います。自学自習をしっかり行ってください。☑<br>4. 体調不良などで、授業に出席できなかった場合は、その日の授業内容について、友人や担当者に確認するなどして、不足分は自分で補って下さい。☑<br>4. 食生活を取り巻く周辺は多岐にわたっています。日常生活の各場面において、常に食との関わり方に興味を示して下さい。 |                          |                                    |
| <b>オフィスタイム</b> | 月曜日3時限および火曜日3時限目のNo.1食品学研究室 ☑<br>☑  |                          |                                    |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目             | 授業内容  | 自学自習   | 目安時間 |
|---|----------------|---|--|------|
| 1 | 授業の目標および導入     | 本授業の目標と授業の進め方を解説する。さらに、導入として、2012年、日本政府が「日本食文化」をユネスコ無形文化遺産に登録申請した経緯を解説し、日本の食文化を守り未来へ伝承することの必要性を理解する。            | 復習：1回目の授業内容についてノート整理をしてください。   | 30   |
| 2 | 縄文時代：豊富な素材     | この時代は、豊かな山の幸・海の幸に彩られており、野生の動植物を狩猟採集していた。春夏秋冬による1年に1度の「旬」の味を記憶し、五感に頼ることで食材の安全性を判断していたことを理解する。                    | 予習：2回目の授業内容について、テキストに目を通してきてください。☑<br>復習：2回目の授業内容についてノート整理をしてください。☑<br>課題：課題①に取り組んでください。 | 75   |
| 3 | 弥生・古墳・飛鳥時代：長寿食 | この時代は、水田稲作が本格的に始まったが、稲作度合いによって貧富の差が生じるようになった。「魏志倭人伝」、「後漢書倭伝」、「日本書紀」に記されている古代の長寿食とは何かを理解する。                      | 予習：3回目の授業内容について、テキストに目を通してきてください。☑<br>復習：3回目の授業内容についてノート整理をしてください。☑                      | 60   |
| 4 | 奈良時代：日本食の基礎    | この時代は、仏教思想に基づく肉食禁止令により、米と豆、野菜および魚介類中心の日本食の基礎ができた。また、保存食が市場で販売されたり、地方の産物や食料品が平城京のマーケットで販売されていたことを理解する。           | 予習：4回目の授業内容について、テキストに目を通してきてください。☑<br>復習：4回目の授業内容についてノート整理をしてください。☑<br>課題：課題②に取り組んでください。 | 75   |
| 5 | 平安時代：多種多様な味わい  | この時代は、飯の周りに4種の調味料を置き、自分の好みの味付けをしたり、一回の食事の中に、“走り、旬、名残り”を盛り込み、食材の美味しさを五感で味わっていた。紫式部や小野小町の食事や、「枕草子」に見る平安の食文化を理解する。 | 予習：5回目の授業内容について、テキストに目を通してきてください。☑<br>復習：5回目の授業内容についてノート整理をしてください。☑                      | 60   |
| 6 | 鎌倉時代：武士膳       | この時代、武士の食事は玄米・梅干・一汁一菜であった。これらが戦場でのパワーの源となった意味を理解するとともに栄西が「喫茶養生記」に記した茶葉の自然治癒力の効果についても理解する。                       | 予習：6回目の授業内容について、テキストに目を通してきてください。☑<br>復習：6回目の授業内容についてノート整理をしてください。☑<br>課題：課題③に取り組んでください。 | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                  | 授業内容  | 自学自習   | 目安時間 |
|----|---------------------|---|--|------|
| 7  | 室町・安土桃山時代：兵糧食       | この時代、寺家が創り上げた精進料理や武家の本膳料理が、日本料理の原型を確立した。また、戦国時代では、湯漬飯、焼きみそ、陣屋みそなどが、兵糧食として用いられた。戦いに向かう出陣式では、「三献の儀式」の料理で栄養補給を行っていたことを理解する。                                    | 予習：7回目の授業内容について、テキストに目を通してきてください。☒<br>復習：7回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒                        | 60   |
| 8  | 江戸時代：バラエティーに富んだ食文化  | 町人の食生活は階層によって落差が激しく、“分限に応じた”食を楽しむ文化が成立した。食を楽しむ文化には、荷売屋、屋台、居酒屋、棒振りなどの飲食店が始まり、「料理物語」や「豆腐百珍」などの料理本も出現したことを理解する。  | 予習：8回目の授業内容について、テキストに目を通してきてください。☒<br>復習：8回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒<br>課題：課題④に取り組んでください。   | 75   |
| 9  | 明治・大正時代：牛肉と西洋料理     | 文明開化とともに、明治新政府は積極的に肉食を推進し、牛鍋屋や洋食屋が登場し外食化が進んできた。西洋料理は洋食とよばれ家庭に普及し、さらに「和洋折衷料理」も登場した。また、富国強兵の軍隊食として「集団給食」の食事様式が出現したことも理解する。                                    | 予習：9回目の授業内容について、テキストに目を通してきてください。☒<br>復習：9回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒                        | 60   |
| 10 | 昭和時代から現代へ：原点復帰・一汁三菜 | 高度成長に伴い、家庭には電化製品が普及するとともに、家事における調理の簡便化が求められ、インスタント食品の開発も盛んになった。それに伴い、現代人の食文化や健康に、ひずみをもたらし続けていることから、古来の食事が見直されるようになってきていることを理解する。                            | 予習：10回目の授業内容について、テキストに目を通してきてください。☒<br>復習：10回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒<br>課題：課題⑤に取り組んでください。 | 75   |
| 11 | 福島の甘酒文化             | 福島県の中通地方のいくつかの地区には、甘酒と密接な関わりを持った生活習慣が見られた。担当者の研究により、甘酒が人々の生活に果たしてきた役割および食生活上の位置づけについて解説し、理解する。  | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、目を通してきてください。☒<br>復習：11回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒                         | 60   |
| 12 | ワインと人間生活との関わり       | 日本以外の国々において、ワインが果たしてきた役割としては、嗜好飲料的役割とは比較にならないほど、宗教的・政治的色合いが濃く、また、健康への効果・効能への役割も見られた。担当者の研究により、ワインが人々の生活に果たしてきた役割および食生活上の位置づけについて解説し、ワインの文化を理解する。            | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、目を通してきてください。☒<br>復習：12回目の授業内容についてノート整理をしてください。                          | 60   |
| 13 | ベルギーの文化とベルギービール     | ベルギーといえば、日本人にとってはチョコレートやワッフルくらいしか馴染みがないようであるが、ベルギーには古くからの伝統的な手法をかたくなに守って製造されているベルギービールがある。そこで、ベルギービールについて、歴史的・文化的背景を踏まえながら解説し、ベルギーの文化を理解する。                 | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、目を通してきてください。☒<br>復習：13回目の授業内容についてノート整理をしてください。                          | 60   |
| 14 | メキシコの文化とテキーラ        | メキシコといえばサボテンというイメージがあるためか、メキシコを代表とする酒のテキーラはサボテンから造られると誤解されがちである。しかし、テキーラの原料は竜舌蘭であり、先住民族の伝統とヨーロッパ技術の融合により誕生した。そこで、テキーラについて、歴史的・文化的背景を踏まえながら解説し、メキシコの文化を理解する。 | 予習：mocaに指示した資料を印刷し、目を通してきてください。☒<br>復習：14回目の授業内容についてノート整理をしてください。                          | 60   |
| 15 | 授業の総括               | 授業のまとめとして、ここでは、授業内容に関わる身近な話題を取り上げて解説する。さらに、外国の食文化を尊重しながら、日本の食文化を守り未来へ伝承することの必要性を再確認し、理解する。  | 復習：15回目の授業内容についてノート整理をしてください。  | 30   |

|                |   |                          |  |  |
|----------------|---|--------------------------|--|--|
| <b>科目名</b>     | 食品栄養学   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択 |  |
| <b>担当教員</b>    | 郡司 尚子   |                          |  |  |
| <b>開講期</b>     | 前期  |                          |  |  |
| <b>授業概要</b>    | 〔授業の目的、ねらい〕 ☑<br>ヒトが身体を維持して生命活動を営んでいくために必要とされる栄養素(糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル)の基礎を学び、日常生活を送るうえで気を付けるべきことを知ることを目的とする。☑<br>〔授業全体の内容の概要〕 ☑<br>栄養素の基本的知識と共に、栄養摂取時の過剰症、欠乏症などについても学ぶ。食物の代謝(体内での分解・合成)や各栄養素を豊富に含む食品などについても学ぶ。☑<br>〔課題(試験やレポート等のフィードバック)〕 ☑<br>レポートの提出後、コメントしてフィードバックを行います。☑<br>〔位置づけ・水準〕 ☑<br>HL2235 |                          |  |  |
| <b>達成目標</b>    | 〔達成目標〕 ☑<br>食品に関わる「栄養」「栄養の欠乏症、過剰症」「食物の代謝」などを理解することで、食品や食材を購入する際や献立作成、調理時に、用途に合わせた食品を用いることができる技術を養えることを達成目標とする。☑<br>〔単位認定の最低基準〕 ☑<br>内容の6割を理解していること。☑<br>〔ディプロマ・ポリシーとの関係〕 ☑<br>1)知識・理解 2)問題解決力   |                          |  |  |
| <b>受講資格</b>    | 家政学部 人間生活学科   | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 定期試験の結果(60%)☑<br>発表・レポート(40%)  |  |
| <b>教科書</b>     | 栄養の基本がわかる図解事典 成美堂出版 監修：中村丁次 1,540円 (2020.4.1発行)   |                          |  |  |
| <b>参考書</b>     | 日本食品標準成分表2018年版(七訂)：(女子栄養大学出版社)   |                          |  |  |
| <b>学生への要望</b>  | 食品や栄養に関する書籍や記事にも興味を持って目を通すようにしてください。  |                          |  |  |
| <b>オフィスタイト</b> | 水曜日の4コマ(No.3食品学研究室)☑<br>木曜日の2コマ(No.3食品学研究室)   |                          |  |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                    | 授業内容   | 自学自習                         | 目安時間 |
|----|-----------------------|--|------------------------------|------|
| 1  | 健康・栄養の新事情             | シラバスで本授業のガイダンスを行う。<br>最新データから見る、健康・栄養の現状について説明する。<br>また、授業最終日の課題発表について説明を行う。 | 講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 | 60   |
| 2  | 栄養の概念                 | 栄養素・栄養について、栄養素の種類と働き、食事摂取基準、バランス献立の基本型、栄養と病気のかかわりなどについて説明する。                 | 講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 | 60   |
| 3  | 活動と栄養<br>～身体活動とエネルギー～ | エネルギー出納、基礎代謝、摂取エネルギー、スポーツと栄養について説明する。  | 講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 | 60   |
| 4  | 栄養素の基礎知識<br>【炭水化物】    | 炭水化物の特徴・生理作用・過剰・炭水化物を多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。                                    | 講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 | 60   |
| 5  | 栄養素の基礎知識<br>【脂質】      | 脂質の特徴・生理作用・過剰、不足・脂質を多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。また、脂肪酸の種類についても学ぶ。                    | 講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 | 60   |
| 6  | 栄養素の基礎知識<br>【たんぱく質】   | たんぱく質の特徴・種類・生理作用・過剰、不足・たんぱく質を多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。また、アミノ酸についても学ぶ。             | 講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 | 60   |
| 7  | 栄養素の基礎知識<br>【ビタミン①】   | 脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンの違い、脂溶性ビタミンの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・脂溶性ビタミンを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。     | 講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 | 60   |
| 8  | 栄養素の基礎知識<br>【ビタミン②】   | 水溶性ビタミンの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・水溶性ビタミンを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。                        | 講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 | 60   |
| 9  | 栄養素の基礎知識<br>【ミネラル①】   | 多量元素ミネラルと微量元素ミネラルの違い、多量元素ミネラルの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・多量元素ミネラルを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。 | 講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 | 60   |
| 10 | 栄養素の基礎知識<br>【ミネラル②】   | 微量元素ミネラルの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・微量元素ミネラルを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。                      | 講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目        | 授業内容  | 自学自習                                      | 目安時間 |
|----|-----------|---|---|------|
| 11 | 機能性成分について | 食品が持つ機能性について、保健機能食品について説明後、健康を守る注目の成分(フラボノイド、ポリフェノール、オリゴ糖、乳酸菌など)について学ぶ。   | 講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。              | 60   |
| 12 | 代謝のしくみ    | 食欲の仕組みを理解し、食物が体内でどのように消化、吸収、代謝、排せつされていくかを学ぶ。                              | 講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。<br>発表課題のまとめ。 | 60   |
| 13 | 病状別の栄養①   | 食べる食品の種類、食べ方などによって引き起こされる疾病(肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、骨粗鬆症、サルコペニアなど)について学ぶ。 | 講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。<br>発表課題のまとめ。 | 60   |
| 14 | 病状別の栄養②   | 食べる食品の種類、食べ方などによって引き起こされる疾病(肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、骨粗鬆症、サルコペニアなど)について学ぶ。 | 講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。<br>発表課題のまとめ。 | 60   |
| 15 | まとめ       | 本授業で学んだものの中から、特に自分で興味を持ったことについて、一人5分程度でパワーポイントを使用して発表する。発表原稿は提出する。        | 講義内容の振り返りとテスト内容の確認を行う。                    | 60   |

|         |  |                 |  |
|---------|--|-----------------|--|
| 科目名     | 食品衛生学  | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修 |
| 担当教員    | 影山 志保  |                 |  |
| 開講期     | 前期   |                 |  |
| 授業概要    | 食品衛生が目的とする食生活の安全確保は人の健康の保持・増進のために重要な要件である。食品の原料となる食物は旬の時期があり、穀類などでは次の旬まで保存しながら利用する場合がある。また、食品として加工保存する場合もある。長期保存や輸送過程において、酸化分解や微生物腐敗による毒成分の発生なども知られている。一方、食品加工過程で用いられる食品添加物に関する諸問題もある。また、BSEや環境ホルモン、食品の残留農薬や食品の放射能汚染などの問題についても触れていく。[課題に対するフィードバック方法]レポート、課題発表に対しては紙面あるいは口頭によるコメント等のフィードバックを行います。[位置づけ・水準]HU2214 |                 |  |
| 達成目標    | 食品衛生学ではこれらの問題点を明らかにし、食品が原因となる病気が発生しないようにする考え方や技術を学ぶことを達成目標としており、内容の8割を理解していること。<br>[ディプロマポリシーとの関連] 知識・理解力、問題解決能力   |                 |  |
| 受講資格    | なし   | 成績評価<br>方法      | 期末試験100点   |
| 教科書     | ①食べ物と健康 食品衛生学(光生館) ☑<br>②印刷資料  |                 |  |
| 参考書     | 食安全の科学-食生活を脅かす化学物質の生体作用-菅家佑輔(三共出版)   |                 |  |
| 学生への要望  | 食品衛生学の中核となる概念はHACCPである。食品の危害分析と食品加工における重要管理点監視方式を理解できるようになる。   |                 |  |
| オフィスタイム | 月曜日、火曜日、水曜日の5コマ目☑<br>食品衛生学研究室  |                 |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目            | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|---|---------------|---|---|------|
| 1 | 食品衛生学の概要      | 食品 = 栄養素 + 毒素 (環境汚染物質、食品腐敗微生物生産毒素、残留農薬、食品添加物、天然毒素、食品成分分解物) ☑<br>健康生活のための栄養素と毒素の接種の仕方が良好な健康生活に与えることから、毒素と栄養素の関係について学ぶ。栄養素は運動エネルギーとして異化作用をうけて、同時に体を維持するために同化作用にも必要である。栄養素を適量を摂取した場合に、その摂取物に含まれる毒素が中毒量に達することがあれば、体が障害をこうむることになる。また毒素を解毒・排泄するためにエネルギーと栄養素を消耗する。 | 食品衛生学を学ぶ目的、食品を摂取した場合にどのような病気が起きているのかを調べる。               | 60   |
| 2 | 食品衛生学の歴史      | 日本における食品衛生学の歴史は戦後の食糧事情の改善を目的として法が制定された経緯がある。食品衛生法が制定された戦後から現在にかけての食品衛生上の事件事故について説明し、現在の食品衛生学の意義について考察する。  | 過去の食品衛生上の事件事故について調べてくる。                                 | 60   |
| 3 | HACCP1        | 食品の危害分析と食品加工時の重要管理点方式に関する考え方を学ぶ。特にHACCPは対象となるヒトの評価と食品の安全性の組み合わせによって構成されている面を知る。   | HACCPの概念がどうして生まれたのか、食品衛生上の問題を防止するための考え方を考える。            | 60   |
| 4 | HACCP2        | 実際のHACCP管理方式のケーススタディから、家庭で実践できる食中毒予防についてHACCP的アプローチから考える。   | HACCPの概念を導入したさまざまな食品でどのような点に留意するのか、また、家庭でのHACCPについて考える。 | 60   |
| 5 | 細菌性食中毒1       | 黄色ブドウ球菌、サルモネラ菌、腸炎ビブリオ、病原性大腸菌、ボツリヌス菌、ウエルシュ菌、セレウス菌、エルニシア、エンテロコリチカ、カンピロバクター、ナグビブリオについて説明する。  | 日本での食中毒の発生状況とどの食中毒が問題なのか調べる。                            | 60   |
| 6 | 細菌性食中毒2       | 食品管理における細菌性食中毒対策について考える。  | 食中毒と食中毒が起きやすい食品、食中毒の防止対策について考える。                        | 60   |
| 7 | 天然有害物質と化学的食中毒 | 食中毒事件は少ないが死者が多い天然毒(ふぐ毒、貝毒、きのこ毒等)について資料を基に考える。本来、植物性の食物には毒性物質が多く存在し、ヒトが主食として改良した植物には苦みや渋みがない。例えば、野生の山菜やキノコ、豆やフグなどには毒性成分が多く存在する。また、植物の病原菌に対する防御機構の中で、感染した後新たに植物体内で生合成される殺菌物質ファイトアレキシンを含有する場合がある。  | 天然毒と化学的食中毒にどのようなものが含まれるのか調べる。                           | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目        | 授業内容   | 自学自習                                  | 目安時間 |
|----|-----------|--|---------------------------------------|------|
| 8  | カビ毒1      | カビが生産する人畜毒性物質であるマイコトキシンの特徴と問題点について考える。マイコトキシンによる食中毒は食品の微生物汚染が原因となる食中毒ではあるが、細菌性食中毒とは異なる。カビ毒は私たちの主食となる穀類汚染で多く、60°Cから100°C程度の加熱では菌は死滅しても毒素は分解変性しないばかりか、変異原性や発がん性を及ぼす。 | カビが生産する毒素にはどのようなものがあるのか調べる。           | 60   |
| 9  | カビ毒2      | カビが生産する人畜毒性物質であるマイコトキシンの特徴と問題点について考える。マイコトキシンによる食中毒は食品の微生物汚染が原因となる食中毒ではあるが、細菌性食中毒とは異なる。カビ毒は私たちの主食となる穀類汚染で多く、60°Cから100°C程度の加熱では菌は死滅しても毒素は分解変性しないばかりか、変異原性や発がん性を及ぼす。 | カビ毒の特徴、病原性について調べる。                    | 60   |
| 10 | 食品残留性農薬1  | 食品残留性農薬、農薬の食品への移行・濃縮、ポストハーベスト農薬、無登録農薬、ポジティブ検査などについても学び、一日許容摂取量（ADI）についても知る。  | ポストハーベスト農薬について、農薬の食品への移行、国の基準について調べる。 | 60   |
| 11 | 食品残留性農薬2  | 食品残留性農薬、農薬の食品への移行・濃縮、ポストハーベスト農薬、無登録農薬、ポジティブ検査などについても学び、一日許容摂取量（ADI）についても知る。  | 農薬の生体影響について考え、農薬の摂取量を最小限にする方策について考える。 | 60   |
| 12 | 食品添加物1    | 食品添加物の概要、食品保存に関する添加物（保存料・殺菌料・殺虫剤）と食品保存に重要な食品添加物について学ぶ。ADIやマーケットバスケット方式による食品添加物摂取量について考える。  | 農薬の概要、添加物の種類について考える。                  | 60   |
| 13 | 食品添加物2    | 食品加工に関する添加物（着色料・発色剤・漂白剤・甘味料）、食品の栄養価値を強化する添加物について学ぶ。これらの添加物は食品の劣化防止とは異なった観点から用いられている添加物ではあるが、毒物・発がん性の疑いがある物質が含まれている。  | 食品添加物の使用の問題点について考える。                  | 60   |
| 14 | 牛海綿状脳症    | 疾病罹患畜肉として食生活に不安をもたらす牛海綿状脳症について、背景、原理、現状を説明し、これらの食品の安全性について考察する。  | 牛海綿状脳症の背景、原理、現状を考える。                  | 60   |
| 15 | 遺伝子組み換え食品 | 細菌による殺虫タンパク質のDNAを作物の遺伝子組み込んだ遺伝子操作作物について、これらの原理と人体毒性に関する問題点と対策法、遺伝子操作作物使用の表示義務について説明する。   | 遺伝子組み換え作物の原理と人体毒性について考える。             | 60   |

|                |  |                          |                                 |
|----------------|--|--------------------------|---------------------------------|
| <b>科目名</b>     | 加工食品学  | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択    |
| <b>担当教員</b>    | 郡司 尚子  |                          |                                 |
| <b>開講期</b>     | 前期   |                          |                                 |
| <b>授業概要</b>    | 〔授業の目的、ねらい〕 ☑<br>現代の食生活は加工食品の占める割合が高く、加工食品抜きには成り立たないといっても過言ではない。豊かな食生活を送るためには、個人の価値観に合った加工食品を利用することが大切となる。そのため、加工食品学では、食品の加工・利用方法・特徴などについて学ぶことを目的とする。☑<br>〔授業全体の内容の概要〕 ☑<br>食品の保存方法について学び、植物性、動物性などの食品の種類、加工品について学ぶ。さらに、食品の表示や特別用途食品、保健機能食品について学ぶ。☑<br>〔課題(試験やレポート等)のフィードバック〕 ☑<br>レポートの提出後、コメントしてフィードバックを行います。☑<br>☑<br>〔位置づけ・水準〕 ☑<br>HU2315 |                          |                                 |
| <b>達成目標</b>    | 〔達成目標〕 ☑<br>食品の加工に関わる「食品と微生物」「食品の保存法」「各食品の加工品」「機能性食品」などを理解することで、食品や食材を購入する際に、用途に合わせた食品を用いることができる技術を養えることを達成目標とする。☑<br>〔単位認定の最低基準〕 ☑<br>内容の6割で単位を認定するが、授業理解度は8割以上を求めます。☑<br>〔ディプロマ・ポリシーとの関係〕 ☑<br>1)知識・理解 2)問題解決力 3)総合的な学習経験、創造的思考力   |                          |                                 |
| <b>受講資格</b>    | 特になし。  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 課題レポート(30%)☑<br>定期試験(70%)で評価する。 |
| <b>教科書</b>     | 特になし。(必要に応じてプリントを配布する)   |                          |                                 |
| <b>参考書</b>     | 食品加工と栄養(三共出版)  |                          |                                 |
| <b>学生への要望</b>  | 食品に興味を持ってもらい、買い物時にも表示内容などをよく見ておくことが望ましい。わからないことは積極的に質問すること。  |                          |                                 |
| <b>オフィスタイム</b> | 水曜日の4コマ(No.3食品学研究室)☑<br>木曜日の2コマ(No.3食品学研究室)  |                          |                                 |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目        | 授業内容  | 自学自習   | 目安時間 |
|---|-----------|---|--|------|
| 1 | ガイダンス     | 授業の進め方、受講上の注意点、教科書、評価方法などについて理解する。また加工食品学で取り上げる授業内容について説明する。さらに加工食品とはどのようなものがあるか紹介する。 | 実際に店頭などで、授業で説明のあった加工食品について、確認をしてみる。                                    | 30   |
| 2 | 食品加工の目的   | 食生活において、食品を加工する目的・役割について学び、加工食品の特性を理解する。  | 実際に店頭などで、授業で説明のあった加工食品について、確認をしてみる。                                    | 30   |
| 3 | 食品の保存方法Ⅰ  | 食品の保存に大きく影響する微生物とのかかわりについて学び、食品の保存が環境により影響を受けることを理解する。                                | 授業で学んだことについて考え、実際自分の周囲で食品がどのように保存されているか、その方法が正しいのかどうか考え、気づいたことをまとめておく。 | 30   |
| 4 | 食品の保存方法Ⅱ  | 水分活性について学び、水分活性のコントロールと微生物の繁殖への影響を理解する。   | 授業で学んだことについて考え、実際自分の周囲で食品がどのように保存されているか、その方法が正しいのかどうか考え、気づいたことをまとめておく。 | 30   |
| 5 | 植物性食品の加工Ⅰ | 穀類、いも類の特徴並びに加工特性について学ぶ。また、これらの代表的な加工食品の特徴について理解する。                                    | 実際に店頭などで、授業で説明のあった加工食品や次週学ぶ加工品について、表示等を含め、確認をしてみる。                     | 30   |
| 6 | 植物性食品の加工Ⅱ | 豆類、種実類、野菜類の特徴並びに加工特性について学ぶ。また、これらの代表的な加工食品の特徴について理解する。                                | 実際に店頭などで、授業で説明のあった加工食品や次週学ぶ加工品について、表示等を含め、確認をしてみる。                     | 30   |
| 7 | 植物性食品の加工Ⅲ | 野菜類、果実類、きのこ類、藻類の特徴並びに加工特性について学ぶ。また、これらの代表的な加工食品の特徴について理解する。                           | 実際に店頭などで、授業で説明のあった加工食品や次週学ぶ加工品について、表示等を含め、確認をしてみる。                     | 30   |
| 8 | 動物性食品の加工Ⅰ | 食肉の特徴並びに加工特性について学ぶ。またこれらの代表的な加工食品の特徴について理解する。   | 実際に店頭などで、授業で説明のあった加工食品や次週学ぶ加工品について、表示等を含め、確認をしてみる。                     | 30   |
| 9 | 動物性食品の加工Ⅱ | 乳製品の特徴並びに加工特性について学ぶ。またこれらの代表的な加工食品の特徴について理解する。  | 実際に店頭などで、授業で説明のあった加工食品や次週学ぶ加工品について、表示等を含め、確認をしてみる。                     | 30   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目             | 授業内容   | 自学自習  | 目安時間 |
|----|----------------|--|---|------|
| 10 | 動物性食品の加工Ⅲ      | 卵類の特徴並びに加工特性について学ぶ。またこれらの代表的な加工食品の特徴について理解する。  | 実際に店頭などで、授業で説明のあった加工食品や次週学ぶ加工品について、表示等を含め、確認をしてみる。              | 30   |
| 11 | 畜産食品の加工Ⅳ       | 魚介類の特徴並びに加工特性について学ぶ。またこれらの代表的な加工食品の特徴について理解する。   | 実際に店頭などで、授業で説明のあった加工食品や次週学ぶ加工品について、表示等を含め、確認をしてみる。              | 30   |
| 12 | 食品の表示について      | 食品の表示に関する問題、法令、規格基準について理解する。<br>これまでの授業のポイントを確認した後、定期試験の出題範囲を説明する。                         | 食品の表示についてのレポートをまとめてくる。<br>定期試験の出題範囲について、ノートにまとめておく。             | 0    |
| 13 | 特別用途食品・保健機能食品Ⅰ | 特別用途食品と保健機能食品の概念、法令、分類、代表する食品例などについて理解する。  | 実際に家庭や店頭などで、授業で説明のあった特別用途食品、保健機能食品について、どのようなものがあるか用途を含め、確認してみる。 | 30   |
| 14 | 特別用途食品・保健機能食品Ⅱ | 特別用途食品と保健機能食品の概念、法令、分類、代表する食品例などについて理解する。<br>食品表示についてのレポートを各人発表後提出する。                      | 実際に家庭や店頭などで、授業で説明のあった特別用途食品、保健機能食品について、どのようなものがあるか用途を含め、確認してみる。 | 30   |
| 15 | 特別用途食品・保健機能食品Ⅲ | 特別用途食品と保健機能食品の概念、法令、分類、代表する食品例などについて理解する。<br>試験内容について再度確認する。<br>前週集めた課題レポートにコメントしたものを返却する。 | 実際に家庭や店頭などで、授業で説明のあった特別用途食品、保健機能食品について、どのようなものがあるか用途を含め、確認してみる。 | 30   |



|                |   |                          |                                    |
|----------------|---|--------------------------|------------------------------------|
| <b>科目名</b>     | 食品・栄養学実験  | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択       |
| <b>担当教員</b>    | 郡司 尚子   |                          |                                    |
| <b>開講期</b>     | 後期  |                          |                                    |
| <b>授業概要</b>    | 〔授業の目的、ねらい〕 ☑<br>ヒトは従属生物であり、食物を摂取することによって成長し、生命活動を維持することができる。そこで、食品に含まれる栄養素の化学的性質について実験を行い、栄養学・食品学の知識を深め、健康な食生活を送るための基礎知識を身につける。☑<br>〔授業全体の内容の概要〕 ☑<br>一般成分の性質を知り、さらには成分や食品の分析方法を学ぶ。また、油脂の劣化度を求める方法を知る。☑<br>〔課題(試験やレポート等)のフィードバック〕 ☑<br>レポートの提出後、コメントしてフィードバックを行います。☑<br>☑<br>〔位置づけ・水準〕 ☑<br>HU2316 |                          |                                    |
| <b>達成目標</b>    | 〔達成目標〕 ☑<br>日本食品標準成分表に記載されている成分を求める方法を理解することで、成分表の意味を知ることができる。また、油脂の劣化度の判定方法を学ぶことにより、普段使用している油の扱いなどを理解する。☑<br>〔単位認定の最低基準〕 ☑<br>6割以上で単位認定をするが、授業理解度は8割以上を求めます。☑<br>〔ディプロマ・ポリシーとの関係〕 ☑<br>1)知識・理解☑  |                          |                                    |
| <b>受講資格</b>    | 特になし。   | <b>成績評価<br/>方法</b>       | ①実験記録(レポート) 60点☑<br>②実験結果、考察発表 40点 |
| <b>教科書</b>     | 資料を配布するので、特定の教科書は使用しない。☑  |                          |                                    |
| <b>参考書</b>     | 食品学実験(中川延二 菊崎 泰枝 編:光生館) ☑<br>日本食品標準成分表2015年版(七訂) ☑  |                          |                                    |
| <b>学生への要望</b>  | 実験では、劇薬、引火性有機溶剤を使用するので、安全に十分気をつけること。☑<br>1. 服装・・・白衣を着用すること。くつは動きやすいもの。☑<br>2. 遅刻しないこと・・・毎回、実験の初めに実験の内容を説明し、どのような危険が予測されるかを説明するため。☑<br>3. 実験ノートの記録☑<br>実験ノートは、大切な記録であるので、毎回実験終了後ただちにまとめる。☑   |                          |                                    |
| <b>オフィスタイム</b> | 水曜日4コマ(No.3食品学研究室)☑<br>木曜日3コマ(No.3食品学研究室)   |                          |                                    |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目                        | 授業内容  | 自学自習   | 目安時間 |
|---|---------------------------|---|--|------|
| 1 | 授業内容の説明と実験を行う心構え<br>ガラス細工 | 実験の概要および実験を行うに当たっての心構えについて説明する。とくに、本実験では引火性の高い有機溶剤や、酸塩基をはじめとする劇薬を使用するので、安全に行うための配慮、実験器具の取扱い方法、実験ノートの作成方法等について、詳細に説明する。<br>実験室でよく使用するガラスの攪拌棒や毛細管などを作りながら、ガラス管やガラス棒を切る、曲げる、伸ばすという簡単な技術を学ぶ。次週行う炭水化物について復習し、実験の説明を行う。 | 実験の授業を受講する際の注意事項を確認しておく。<br>授業で行った実験内容について、ノートにまとめておくこと。           | 30   |
| 2 | 授業内容の説明と実験を行う心構え<br>ガラス細工 | 実験の概要および実験を行うに当たっての心構えについて説明する。とくに、本実験では引火性の高い有機溶剤や、酸塩基をはじめとする劇薬を使用するので、安全に行うための配慮、実験器具の取扱い方法、実験ノートの作成方法等について、詳細に説明する。<br>実験室でよく使用するガラスの攪拌棒や毛細管などを作りながら、ガラス管やガラス棒を切る、曲げる、伸ばすという簡単な技術を学ぶ。次週行う炭水化物について復習し、実験の説明を行う。 | 実験の授業を受講する際の注意事項を確認しておく。<br>授業で行った実験内容について、ノートにまとめておくこと。           | 30   |
| 3 | 炭水化物の検出①                  | 単糖類・二糖類・多糖類の定性的な検出法(モーリッシュ反応・フェーリング反応・セリワノフ反応・パフォード反応・銀鏡反応など)について学び、糖類全般の化学的性質について理解する。   | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、ノートにまとめておくこと。 | 30   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目          | 授業内容   | 自学自習   | 目安時間 |
|----|-------------|--|--|------|
| 4  | 炭水化物の検出①    | 単糖類・二糖類・多糖類の定性的な検出法(モーリッシュ反応・フェーリング反応・セリワノフ反応・バフォード反応・銀鏡反応など)について学び、糖類全般の化学的性質について理解する。  | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、ノートにまとめておくこと。                 | 30   |
| 5  | 炭水化物の検出②    | 炭水化物に関する実験：前週に学んだ糖の検出方法を使って、未知糖の検出を行うことで、糖類全般の化学的性質についてまとめを行う。各自が用いた検出方法について発表を行う。   | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、ノートにまとめておくこと。                 | 30   |
| 6  | 炭水化物の検出②    | 炭水化物に関する実験：前週に学んだ糖の検出方法を使って、未知糖の検出を行うことで、糖類全般の化学的性質についてまとめを行う。各自が用いた検出方法について発表を行う。   | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、ノートにまとめておくこと。                 | 30   |
| 7  | 炭水化物の検出③    | 食品中の主要な糖質であるデンプンの存在をヨウ素反応により確認し、食品中のデンプンの分離と加水分解、デンプン粒子の顕微鏡観察を行い、デンプンの性質を調べる。  | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、ノートにまとめておくこと。                 | 30   |
| 8  | 炭水化物の検出③    | 食品中の主要な糖質であるデンプンの存在をヨウ素反応により確認し、食品中のデンプンの分離と加水分解、デンプン粒子の顕微鏡観察を行い、デンプンの性質を調べる。  | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、ノートにまとめておくこと。                 | 30   |
| 9  | たんぱく質の検出①   | たんぱく質の基本的性質を知るために、組成元素の検出、呈色反応、凝固沈殿反応(ビウレット反応、ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、アダムキーウイツ反応、硫化鉛反応)などを行う。   | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、ノートにまとめておくこと。                 | 30   |
| 10 | たんぱく質の検出①   | たんぱく質の基本的性質を知るために、組成元素の検出、呈色反応、凝固沈殿反応(ビウレット反応、ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、アダムキーウイツ反応、硫化鉛反応)などを行う。   | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、ノートにまとめておくこと。                 | 30   |
| 11 | たんぱく質の検出②   | たんぱく質の基本的性質を知るために、組成元素の検出、呈色反応、凝固沈殿反応(ビウレット反応、ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、アダムキーウイツ反応、硫化鉛反応)などを行う。   | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、ノートにまとめておくこと。                 | 30   |
| 12 | たんぱく質の検出②   | たんぱく質の基本的性質を知るために、組成元素の検出、呈色反応、凝固沈殿反応(ビウレット反応、ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、アダムキーウイツ反応、硫化鉛反応)などを行う。   | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、ノートにまとめておくこと。                 | 30   |
| 13 | 食品の成分分析①    | 【食品の分析方法の説明と予備実験の開始】食品の分析方法について学んだ後、実際に食品成分分析を行う。分析試料には凍豆腐を用い、水分、タンパク質、脂質、灰分の分析を行い、炭水化物は差し引き計算で求める。これらの実験を通じて、秤量の概念などを学ぶ。          | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、その都度メモを取って、ノートにまとめ、計算もしておくこと。 | 30   |
| 14 | 食品の成分分析①    | 【食品の分析方法の説明と予備実験の開始】食品の分析方法について学んだ後、実際に食品成分分析を行う。分析試料には凍豆腐を用い、水分、タンパク質、脂質、灰分の分析を行い、炭水化物は差し引き計算で求める。これらの実験を通じて、秤量の概念などを学ぶ。          | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、その都度メモを取って、ノートにまとめ、計算もしておくこと。 | 30   |
| 15 | 食品の一般成分の分析② | ①水分の定量(105℃の常圧加熱乾燥法を利用し、凍豆腐の水分を定量する)☒<br>②脂質の定量(ソックスレーのエーテル抽出法により、凍豆腐の脂質を定量する)☒<br>③たんぱく質の定量(セミマイクロケルダール法により、凍豆腐のタンパク質を定量する)☒<br>☒ | 授業内容について、プリントをよく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、その都度メモを取って、ノートにまとめ、計算もしておくこと。            | 30   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                    | 授業内容  | 自学自習   | 目安時間 |
|----|-----------------------|---|--|------|
| 16 | 食品の一般成分の分析②           | ①水分の定量(105°Cの常圧加熱乾燥法を利用し、凍豆腐の水分を定量する)☒<br>②脂質の定量(ソックスレーのエーテル抽出法により、凍豆腐の脂質を定量する)☒<br>③たんぱく質の定量(セミマイクロケルダール法により、凍豆腐のタンパク質を定量する)☒<br>☒   | 授業内容について、プリントをよく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、その都度メモを取って、ノートにまとめ、計算もしておくこと。            | 30   |
| 17 | 食品の成分分析③              | ③たんぱく質の定量(セミマイクロケルダール法により、凍豆腐のタンパク質を定量する)<br>④灰分の定量(550°C直接灰化法により、凍豆腐の灰分量を測定する)☒<br>⑤炭水化物量を求める(差し引き計算法により凍豆腐の炭水化物量を求める)。☒<br>日本食品標準成分表について説明を行い、実際に今回求めた凍豆腐結果を、日本食品標準成分表の値と比較し、なぜ同じ値にならないかなど、成分表の用い方について解説を行う。☒ | 授業内容について、プリントをよく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、その都度メモを取って、ノートにまとめ、計算もしておくこと。            | 30   |
| 18 | 食品の成分分析③              | ③たんぱく質の定量(セミマイクロケルダール法により、凍豆腐のタンパク質を定量する)<br>④灰分の定量(550°C直接灰化法により、凍豆腐の灰分量を測定する)☒<br>⑤炭水化物量を求める(差し引き計算法により凍豆腐の炭水化物量を求める)。☒<br>日本食品標準成分表について説明を行い、実際に今回求めた凍豆腐結果を、日本食品標準成分表の値と比較し、なぜ同じ値にならないかなど、成分表の用い方について解説を行う。☒ | 授業内容について、プリントをよく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、その都度メモを取って、ノートにまとめ、計算もしておくこと。            | 30   |
| 19 | 食品の成分分析④              | ⑥灰分で得た試料から、ミネラル分析を行う。   | 授業内容について、プリントをよく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、その都度メモを取って、ノートにまとめ、計算もしておくこと。            | 30   |
| 20 | 食品の成分分析④              | ⑥灰分で得た試料から、ミネラル分析を行う。   | 授業内容について、プリントをよく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、その都度メモを取って、ノートにまとめ、計算もしておくこと。            | 30   |
| 21 | 食塩の定量                 | 市販されているみそ、しょう油または手作りのみそを持参してもらい、原子吸光法により、ナトリウム量から塩分量を調べる。また、各家庭の味噌汁を持参してもらい、簡易塩分測定器にて、食塩濃度を調べる。最後に各班の実験結果をまとめ、比較し考察する。  | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、その都度メモを取って、ノートにまとめ、計算もしておくこと。 | 30   |
| 22 | 食塩の定量                 | 市販されているみそ、しょう油または手作りのみそを持参してもらい、原子吸光法により、ナトリウム量から塩分量を調べる。また、各家庭の味噌汁を持参してもらい、簡易塩分測定器にて、食塩濃度を調べる。最後に各班の実験結果をまとめ、比較し考察する。  | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、その都度メモを取って、ノートにまとめ、計算もしておくこと。 | 30   |
| 23 | 油脂の劣化と実験の説明<br>油脂の実験① | 油脂の劣化について説明した後、次週より行う油脂の実験方法について説明を行う。<br>家庭やお店などで使用された揚げ油を各班で持参してもらい、油脂の劣化度を比較検討する。<br><br>①脂肪酸組成の分析(各班で持参した油脂の脂肪酸組成を分析する)<br>②アキシジン価の分析   | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、ノートにまとめ、計算もしておくこと。            | 30   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                    | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|----|-----------------------|---|---|------|
| 24 | 油脂の劣化と実験の説明<br>油脂の実験① | 油脂の劣化について説明した後、次週より行う油脂の実験方法について説明を行う。<br>家庭やお店などで使用された揚げ油を各班で持参してもらい、油脂の劣化度を比較検討する。<br><br>①脂肪酸組成の分析(各班で持参した油脂の脂肪酸組成を分析する)<br>②アミン値の分析 | 授業内容についてあらかじめプリントを配布するので、よく見ておくこと。<br>授業で行った実験内容について、その都度メモを取って、ノートにまとめ、計算もしておくこと。  | 30   |
| 25 | 油脂の実験②                | ③酸価の分析☑<br>④過酸化物質の分析☑<br>前週の結果と今週の結果を各班でまとめ、各班で持参した油脂の劣化状況について考察し、発表する。   | 実験結果から自分の班の持参した油の性状について考える。<br>全ての実験結果をもとに考えて、持参した油の性状についてノートにまとめ、教員のコメントについても記載する。 | 30   |
| 26 | 油脂の実験②                | ③酸価の分析☑<br>④過酸化物質の分析☑<br>前週の結果と今週の結果を各班でまとめ、各班で持参した油脂の劣化状況について考察し、発表する。   | 実験結果から自分の班の持参した油の性状について考える。<br>全ての実験結果をもとに考えて、持参した油の性状についてノートにまとめ、教員のコメントについても記載する。 | 30   |
| 27 | 食塩の定量                 | 【食塩の定量】☑<br>市販されている味噌、しょう油又は手作りの味噌などを持参してもらい、原子吸光法により、塩分濃度を調べる。また、各家庭の味噌汁を持参してもらい、簡易塩分測定器にて、食塩濃度を調べる。☑<br>最後に各班の実験結果をまとめ、比較し考察する。☑      | 前週にプリントを配布するので、実験内容、持参する物について確認しておく。<br>実験終了後は、実験内容についてノートにまとめる。                    | 30   |
| 28 | 食塩の定量                 | 【食塩の定量】☑<br>市販されている味噌、しょう油又は手作りの味噌などを持参してもらい、原子吸光法により、塩分濃度を調べる。また、各家庭の味噌汁を持参してもらい、簡易塩分測定器にて、食塩濃度を調べる。☑<br>最後に各班の実験結果をまとめ、比較し考察する。☑      | 前週にプリントを配布するので、実験内容、持参する物について確認しておく。<br>実験終了後は、実験内容についてノートにまとめる。                    | 30   |
| 29 | 天然色素の実験               | 植物性食品の代表的色である、クロロフィル、カロテノイド、フラボノイド、アントシアン色素を分離確認し、それぞれの色素の特徴を理解する。  | 前週にプリントを配布するので、実験内容、持参する物について確認しておく。<br>実験終了後は、実験内容についてノートにまとめる。                    | 30   |
| 30 | 天然色素の実験               | 植物性食品の代表的色である、クロロフィル、カロテノイド、フラボノイド、アントシアン色素を分離確認し、それぞれの色素の特徴を理解する。  | 前週にプリントを配布するので、実験内容、持参する物について確認しておく。<br>実験終了後は、実験内容についてノートにまとめる。                    | 30   |

|         |   |                 |  |
|---------|---|-----------------|--|
| 科目名     | 調理学   | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修 |
| 担当教員    | 菊池 節子   |                 |  |
| 開講期     | 後期  |                 |  |
| 授業概要    | <p>【授業の目的・ねらい】☑</p> <p>①おいしさの要因について理解を深める。☑</p> <p>②調理操作、食品の調理特性について理解を深める。☑</p> <p>③献立作成方法の基礎を修得する。☑</p> <p>【授業全体の内容の概要】☑</p> <p>食品に様々な調理操作を加えると、食品はおいしくなり、安全になり、消化しやすい食物になる。そのために、各調理法の特徴、食品の調理特性を理解することが大切になってくる。これらを踏まえて本講義では、合理的に再現性よく食品を調理する能力が備わるよう、調理学の基礎を学ぶ。☑</p> <p>あわせて、文化的な側面についても学ぶ。☑</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック（評価の伝達）方法】☑</p> <p>課題返却時等に、コメント等によるフィードバックを行います。☑</p> <p>☑</p> <p>【教育課程内の位置づけや水準（ナンバリング）】☑</p> <p>HL2217☑</p> |                 |  |
| 達成目標    | <p>【授業終了時の達成課題（達成目標）】☑</p> <p>①おいしさの要因について理解できたか。☑</p> <p>②調理操作、食品の調理特性について理解できたか。☑</p> <p>③献立作成方法の基礎を理解できたか。☑</p> <p>【単位認定の最低基準】：「内容の6割を理解していること」☑</p> <p>【ディプロマポリシーとの関係】：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考☑</p> <p>☑</p>   |                 |  |
| 受講資格    | 家政学部 人間生活学科学生   | 成績評価<br>方法      | レポート50%、期末試験50%                                    |
| 教科書     | フードデザイン 教育図書☑   |                 |  |
| 参考書     | イラスト調理BOOK☑<br>-基本・応用・理論- 実教出版  |                 |  |
| 学生への要望  | 常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。  |                 |  |
| オフィスタイト | 火曜V限（16：10～17：40）☑<br>水曜II限（10：30～12：00）☑<br>場所：No.1調理学研究室☑<br>そのほかの時間帯の希望を含め、事前にskikuchi@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。   |                 |  |

## -授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                      | 授業内容  | 自学自習                              | 目安時間 |
|----|-------------------------|---|-----------------------------------|------|
| 1  | オリエンテーション<br>調理の基本      | ①授業の目的、進め方を説明する。<br>②調理の基本として、調理の目的、食べ物のおいしさ、調理操作（非加熱操作）について学び、理解する。☑ | 参考書のp.86～90を読み、要点をまとめる。           | 60   |
| 2  | 調理の基本                   | 調理の基本として、調理操作（加熱操作）について学び、理解する。☑                                      | 参考書のp.91～100を読み、要点をまとめる。          | 60   |
| 3  | 献立作成                    | 伝統的な日本料理の献立には一汁三菜がある。本時は献立作成について学び、理解する。                              | 参考書のp.108～113を読み、要点をまとめる。         | 60   |
| 4  | 様式別の献立と調理・食卓作法<br>(1)   | 日本料理の特徴、献立、食卓構成と作法について学び、理解する。  | 参考書のp.114～115、121～122を読み、要点をまとめる。 | 60   |
| 5  | 様式別の献立と調理・食卓作法<br>(2)   | 西洋料理の特徴、献立、食卓構成と作法について学び、理解する。  | 参考書のp.116～117、123～124を読み、要点をまとめる。 | 60   |
| 6  | 様式別の献立と調理・食卓作法<br>(3)   | 中国料理の特徴、献立、食卓構成と作法について学び、理解する。  | 参考書のp.118～120、125を読み、要点をまとめる。     | 60   |
| 7  | 食文化を見つめる<br>テーブルコーディネイト | 食と生活のかかわり、テーブルコーディネートについて学び、理解する。                                     | 参考書のp.127～142を読み、要点をまとめる。         | 60   |
| 8  | 動物性食品の調理（1）             | 牛乳・乳製品、卵の特徴と調理性について学び、理解する。   | 参考書のp.42～45を読み、要点をまとめる。           | 60   |
| 9  | 動物性食品の調理（2）             | 魚介類、肉類の特徴と調理性について学び、理解する。   | 参考書のp.46～48を読み、要点をまとめる。           | 60   |
| 10 | 植物性食品の調理（1）             | 豆類、野菜類の特徴と調理性について学び、理解する。   | 参考書のp.49～54を読み、要点をまとめる。           | 60   |
| 11 | 植物性食品の調理（2）             | 果物類、いも類・でんぷんの特徴と調理性について学び、理解する。                                       | 参考書のp.54～56を読み、要点をまとめる。           | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目           | 授業内容                            | 自学自習                    | 目安時間 |
|----|--------------|---------------------------------|-------------------------|------|
| 12 | 植物性食品の調理 (3) | 穀類の特徴と調理性について学び、理解する。           | 参考書のp.57～59を読み、要点をまとめる。 | 60   |
| 13 | その他食品の調理 (1) | 油脂類、寒天・ゼラチンの特徴と調理性について学び、理解する。  | 参考書のp.60～61を読み、要点をまとめる。 | 60   |
| 14 | その他食品の調理 (2) | 調味料・香辛料、嗜好食品の特徴と調理性について学び、理解する。 | 参考書のp.62～65を読み、要点をまとめる。 | 60   |
| 15 | 授業のまとめ       | 半期を振り返り、調理学で学んだ内容のより一層の定着を図る。   | 調理学で学んだ内容を振り返り、復習する。    | 60   |

|                |  |                          |  |
|----------------|--|--------------------------|--|
| <b>科目名</b>     | 調理学演習  | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択 |
| <b>担当教員</b>    | 瀬谷 真理子,大泉 由美   |                          |  |
| <b>開講期</b>     | 前期   |                          |  |
| <b>授業概要</b>    | <p>調理の基本的な知識と技術を修得するために、高校家庭科教科書で採用されている料理レシピやスローフード視点から選択した代表的な料理をグループワークで演習する。15回の演習を通じて、調理学の基本的な知識と技術の修得と共に食材の栄養価や色・形・味などの調理による変化とその理由を五感で理解する。さらに、レポートを作成することにより、演習・実習の観察力と科学的レポート作成の基本を身につけるとともに、自宅での実践で応用力を身につける。☑ポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行います。</p> <p>また、高等学校の家庭科において実施している家庭科技術検定における実技と評価について実践的、主体的に学ぶことにより家庭科教員としての資質を身につける。さらに福島県高等学校の家庭科教員としての実務経験を生かしながら実践的な教科指導に向けた応用力を養う。</p> <p>実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。</p> <p>位置づけ・水準 HL2336☑</p> <p>☑</p> <p>☑</p> <p>☑</p> |                          |  |
| <b>達成目標</b>    | <p>中学・高校の家庭科教師としての指導力や家庭での調理を実践するための基本的な知識や技術を修得することを目標とする。☑</p> <p>①野菜・果物、魚・肉などの食材に対する調理技術を修得し、指導することができる。☑</p> <p>②和洋中華料理の基本を修得し指導することができるとともに、調理上必須となる食品衛生、環境負荷削減の知識を修得し、行動できる。☑</p> <p>③日常的な献立から行事食までの調理について献立作成ができ、基礎的な知識技術を習得し、実践できる。</p> <p>単位認定の最低基準は、上記の①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力☑</p> <p>☑</p>   |                          |  |
| <b>受講資格</b>    | 教職履修者は必修   | <b>成績評価<br/>方法</b>       | ①授業態度：30点☑<br>②実技：30点☑<br>③レポート：40点  |
| <b>教科書</b>     | 基礎から学ぶ調理実習、フードデザイン ☑<br>プリント配布   |                          |  |
| <b>参考書</b>     | 家庭科教育振興会 全国高等学校家庭科技術検定実施要項   |                          |  |
| <b>学生への要望</b>  | 準備から後片付けまでが調理学演習の一環と考え、積極的に取り組むこと。☑<br>また、豊かな食生活は家族団欒を営む基礎となることを理解し、実習後は自宅での実践（復習）を必ず実施し、家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する。  |                          |  |
| <b>オフィスタイト</b> | 水曜日（Ⅰ、Ⅱ時限）：生活科学研究室（家政学館4階）   |                          |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目  | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|---|---|---|---|------|
| 1 | ガイダンス（1）<br>授業の進め方や評価方法/食材の下ごしらえ・切り方など（ビデオ学習） | ①シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅での実践の必要性を認識する。☑<br>②調理の基本として野菜・魚介類の下ごしらえ、テーブルマナー（和洋中華・パーティ料理）をビデオにて学ぶ☑ | 本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格など)を確認する。                              | 30   |
| 2 | ガイダンス（1）<br>授業の進め方や評価方法/食材の下ごしらえ・切り方など（ビデオ学習） | ①シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅での実践の必要性を認識する。☑<br>②調理の基本として野菜・魚介類の下ごしらえ、テーブルマナー（和洋中華・パーティ料理）をビデオにて学ぶ☑ | 本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格など)を確認する。                              | 30   |
| 3 | ガイダンス（2）<br>実習室・調理器具・文化鍋の使い方/春野菜を使ったメニュー      | ①調理実習室の使い方、調理器具の使い方や洗浄方法の基本を理解する。☑<br>②文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリーのつくり方を学ぶ。☑  | 説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅実践する。 | 60   |
| 4 | ガイダンス（2）<br>実習室・調理器具・文化鍋の使い方/春野菜を使ったメニュー      | ①調理実習室の使い方、調理器具の使い方や洗浄方法の基本を理解する。☑<br>②文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリーのつくり方を学ぶ。☑  | 説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。                 | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                    | 授業内容  | 自学自習   | 目安時間 |
|----|-----------------------|---|--|------|
| 5  | 日本料理<br>丼物と澄まし汁, 和え物  | 三色丼, 菊花豆腐とえのきたけの澄まし汁, 青菜のゴマ和えの和食料理を学ぶ, ☑<br>①丼ものの種類とつくり方, 米の種類と調理上の性質, 無洗米☑<br>②和風煮出し汁の種類と取りかた, 汁の分類☑<br>③野菜の色の発色方法とゆで方☑<br>④和え物料理の種類と特徴☑                   | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。   | 60   |
| 6  | 日本料理<br>丼物と澄まし汁, 和え物  | 三色丼, 菊花豆腐とえのきたけの澄まし汁, 青菜のゴマ和えの和食料理を学ぶ, ☑<br>①丼ものの種類とつくり方, 米の種類と調理上の性質, 無洗米☑<br>②和風煮出し汁の種類と取りかた, 汁の分類☑<br>③野菜の色の発色方法とゆで方☑<br>④和え物料理の種類と特徴☑                   | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格, など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 7  | 西洋料理<br>西洋料理の基本       | コンソメジュリアン, グラタン, グリーンサラダ, カップケーキ, レモンティーの代表的な西洋料理の基本を学ぶ,<br>①ブイヨンの取り方<br>②ホワイトソースのつくり方<br>③紅茶の入れ方とサーブ方法<br>④西洋料理のテーブルセッティング                                 | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格, など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 8  | 西洋料理<br>西洋料理の基本       | コンソメジュリアン, グラタン, グリーンサラダ, カップケーキ, レモンティーの代表的な西洋料理の基本を学ぶ,<br>①ブイヨンの取り方<br>②ホワイトソースのつくり方<br>③紅茶の入れ方とサーブ方法<br>④西洋料理のテーブルセッティング                                 | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格, など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 9  | 日本料理<br>旬の素材であるたけのこ料理 | たけのこ飯, たけのことわかめのみそ汁, たけのこの味付き天ぷらという代表的なたけのこ料理のつくり方を学ぶ,<br>①たけのこの下ごしらえと部位別料理用<br>②味付け飯の種類とつくり方<br>③煮干し出しのとり方, みその種類とみそ汁の具の取り合わせ<br>④天ぷらの材料と下ごしらえ, 衣のつくり方と揚げ方 | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格, など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 10 | 日本料理<br>旬の素材であるたけのこ料理 | たけのこ飯, たけのことわかめのみそ汁, たけのこの味付き天ぷらという代表的なたけのこ料理のつくり方を学ぶ,<br>①たけのこの下ごしらえと部位別料理用<br>②味付け飯の種類とつくり方<br>③煮干し出しのとり方, みその種類とみそ汁の具の取り合わせ<br>④天ぷらの材料と下ごしらえ, 衣のつくり方と揚げ方 | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格, など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 11 | 中国料理<br>代表的な中国料理      | ピーマンと牛肉の炒め物, 白菜丸子湯, 杏仁豆腐, ジャスマン茶の代表的な中国料理のつくり方を学ぶ, ☑<br>①中国料理の基本と特徴☑<br>②寒天の扱い方☑<br>③中国茶の種類と入れ方☑<br>④中国料理の配膳のしかた☑   | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格, など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |



-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                  | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|----|---------------------|---|---|------|
| 12 | 中国料理<br>代表的な中国料理    | ピーマンと牛肉の炒め物、白菜丸子湯、杏仁豆腐、ジャスマン茶の代表的な中国料理のつくり方を学ぶ、☑<br>①中国料理の基本と特徴☑<br>②寒天の扱い方☑<br>③中国茶の種類と入れ方☑<br>④中国料理の配膳のしかた☑ | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。                        | 60   |
| 13 | 家庭科技術検定実技演習         | 調理技術の基本を学び、実技の定着を図る   | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる   | 60   |
| 14 | 家庭科技術検定実技演習         | 調理技術の基本を学び、実技の定着を図る   | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。  | 60   |
| 15 | 家庭科技術検定献立作成         | 家庭科技術検定食物調理の指定献立の作成を行う  | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。  | 60   |
| 16 | 家庭科技術検定献立作成         | 家庭科技術検定食物調理の指定献立の作成を行う  | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。  | 60   |
| 17 | 家庭科技術検定実技演習         | 指定献立の作成した内容に沿って実技を行い、評価する。  | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。  | 60   |
| 18 | 家庭科技術検定実技演習         | 指定献立の作成した内容に沿って実技を行い、評価する。  | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。  | 60   |
| 19 | 日本料理<br>代表的な家庭料理    | 五目飯、海老しんじょ汁、蕪のそぼろあんかけ、蕪の即席漬けのつくり方を学ぶ、☑<br>①味付け飯(五目飯)のつくり方☑<br>②しんじょのつくり方☑<br>③そぼろあんのつくり方☑                     | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。                        | 60   |
| 20 | 日本料理<br>代表的な家庭料理    | 五目飯、海老しんじょ汁、蕪のそぼろあんかけ、蕪の即席漬けのつくり方を学ぶ、☑<br>①味付け飯(五目飯)のつくり方☑<br>②しんじょのつくり方☑<br>③そぼろあんのつくり方☑                     | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。                        | 60   |
| 21 | 中国料理<br>日本で好まれる中国料理 | 八宝菜、春巻、粟米湯、という日本で親しまれている代表的な中国料理のつくり方を学ぶ、☑<br>①八宝菜を例として、中国料理の炒め煮の基本☑<br>②イカの下ごしらえ☑<br>③とろみのあるスープのつくり方☑        | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。                        | 60   |
| 22 | 中国料理<br>日本で好まれる中国料理 | 八宝菜、春巻、粟米湯、という日本で親しまれている代表的な中国料理のつくり方を学ぶ、☑<br>①八宝菜を例として、中国料理の炒め煮の基本☑<br>②イカの下ごしらえ☑<br>③とろみのあるスープのつくり方☑        | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。                        | 60   |
| 23 | 日本料理                | 肉じゃが、つみれ汁、菜飯のつくり方を学ぶ、☑<br>①いわしの料理方法☑<br>②大根の葉の扱い方☑<br>③基本的な煮物の作り方   | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。                        | 60   |
| 24 | 日本料理                | 肉じゃが、つみれ汁、菜飯のつくり方を学ぶ、<br>①いわしの料理方法<br>②大根の葉の扱い方<br>③基本的な煮物の作り方  | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。                        | 60   |
| 25 | 子どもが喜ぶ洋風献立          | チキンピラフ、じゃがいものクリーム煮、トマトカップサラダ<br>①ピラフの作り方<br>②クリーム煮の作り方  | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。次回の自由課題に対して、グループでレシピの作成から食材の買い出しなどの準備を行う。 | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目           | 授業内容   | 自学自習  | 目安時間 |
|----|--------------|--|---|------|
| 26 | 子どもが喜ぶ洋風献立   | チキンピラフ、じゃがいものクリーム煮、トマトカップサラダ<br>① ピラフの作り方<br>② クリーム煮の作り方   | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。次回の自由課題に対して、グループでレシピの作成から食材の買い出しなどの準備を行う。 | 60   |
| 27 | 自由課題 (ひき肉料理) | ひき肉料理をテーマとした夕食献立を実践する。<br>予算(350円/人)内で献立を作成から材料の購入、調理までをグループで実施、実践力を身につける。                               | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。                        | 60   |
| 28 | 自由課題 (ひき肉料理) | ひき肉料理をテーマとした夕食献立を実践する。<br>予算(350円/人)内で献立を作成から材料の購入、調理までをグループで実施、実践力を身につける。                               | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。                        | 60   |
| 29 | 成人向けの夏の献立    | 冷やしそうめん(付け合せ:野菜かき揚げ、酒蒸し鶏、薬味)のつくり方を経験する。☑<br>①うどん、そうめん類の種類と基本調理☑<br>②野菜の天ぷら(かきあげ)のつくり方☑<br>③和菓子(ずんだ)のつくり方 | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。                        | 60   |
| 30 | 成人向けの夏の献立    | 冷やしそうめん(付け合せ:野菜かき揚げ、酒蒸し鶏、薬味)のつくり方を経験する。☑<br>①うどん、そうめん類の種類と基本調理☑<br>②野菜の天ぷら(かきあげ)のつくり方☑<br>③和菓子(ずんだ)のつくり方 | 本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する                         | 60   |

|                |   |                          |                                      |
|----------------|---|--------------------------|--------------------------------------|
| <b>科目名</b>     | 調理学実習   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択         |
| <b>担当教員</b>    | 瀬谷 真理子  |                          |                                      |
| <b>開講期</b>     | 後期  |                          |                                      |
| <b>授業概要</b>    | <p>前期に引き続き、スローフードやエコ視点から代表的な料理レシピを実習し、調理に関する基本的な知識や技術をより一層深める。さらに、前期に引き続き、レポートを作成することにより、観察力とレポートの書き方を学ぶ。また、前期で学んだ知識や習得した技術を生かして主体的に実践できる力を養う。レポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行います。</p> <p>さらに福島県立高等学校での家庭科教員としての実務経験を生かしながら実践的な教科指導に向けた応用力を養う。</p> <p>実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。</p> <p>位置づけ・水準 HU2318</p> |                          |                                      |
| <b>達成目標</b>    | <p>①食材の栄養価、色・形・味と調理の関係、盛付方法を配慮できる。☑</p> <p>②グループワークによる実習を通じてお互いを理解・尊重でき、協力して実践することができる。☑</p> <p>③個人の主体的な実践力と段取り力で計画を立て、実践することができる。</p> <p>④科学的視点でのレポートを作成できる。</p> <p>単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的な評価が達成度7割以上であること。</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考☑</p> <p>☑</p>   |                          |                                      |
| <b>受講資格</b>    | 特になし  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | ①授業態度：30点☑<br>②実技：30点☑<br>③レポート：40点☑ |
| <b>教科書</b>     | 印刷物配布、「基礎から学ぶ調理実習」オーム社、「フードデザイン」  | ☑                        |                                      |
| <b>参考書</b>     | 調理学各種教科書や料理に関する書籍   |                          |                                      |
| <b>学生への要望</b>  | 準備から後片付けまでが調理学実習の一環と考え、積極的に取り組むこと。☑<br>☑<br>☑   |                          |                                      |
| <b>オフィスタイム</b> | 水曜（Ⅰ、Ⅱ時限）家政学館4F生活科学研究室  |                          |                                      |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目                        | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|---|---------------------------|---|---|------|
| 1 | ガイダンス/ランチの楽しみ方を学ぶ         | 1. 前期実習内容の反省、後期の授業内容と取組姿勢（授業の取組、調理技術、清潔・衛生・安全）☑について説明する。<br>2. 今回の実習テーマ：ランチを楽しむ。<br>①パンケーキ<br>②ヘルシー蒸し料理 | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 2 | ガイダンス/ランチの楽しみ方を学ぶ         | 1. 前期実習内容の反省、後期の授業内容と取組姿勢（授業の取組、調理技術、清潔・衛生・安全）について説明する。<br>2. 今回の実習テーマ：ランチを楽しむ。<br>①パンケーキ<br>②ヘルシー蒸し料理  | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 3 | 日本料理<br>季節の素材を使った料理       | 鶏の照り焼き、胡麻和え、なめこと豆腐の赤だし、大学イモ<br>①鍋照り焼きの作り方<br>②和え物の作り方<br>③八丁みその使い方とだしの取り方☑<br>④揚げ物の基本を学ぶ                | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 4 | 日本料理<br>季節の素材を使った料理       | 鶏の照り焼き、胡麻和え、なめこと豆腐の赤だし、大学イモ<br>①鍋照り焼きの作り方<br>②和え物の作り方<br>③八丁みその使い方とだしの取り方☑<br>④揚げ物の基本を学ぶ                | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 5 | 中国料理<br>中国の地域性と料理の違いを理解する | 北京酢豚、ナスの味噌炒め煮、ほうれんそうと肉団子のスープ<br>①通常食する酢豚と異なる北京酢豚☑<br>②中国料理の調味料の使い方と料理法☑<br>③手作り肉団子の作り方と春雨入り代表的な中国のスープ ☑ | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                                | 授業内容  | 自学自習   | 目安時間 |
|----|-----------------------------------|---|--|------|
| 6  | 中国料理<br>中国の地域性と料理の違いを理解する         | 北京酢豚, ナスの味噌炒め煮, ほうれんそうと肉団子のスープ<br>①通常食する酢豚と異なる北京酢豚☑<br>②中国料理の調味料の使い方と料理法☑<br>③手作り肉団子のつくり方と春雨入り代表的な中国のスープ ☑<br>☑ | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 7  | 日本料理<br>旬の素材(栗, 菊花, 銀杏)を活かす代表的な料理 | くり炊きこわ飯, 茶わん蒸し, 小松菜・しめじ・菊はなのゆず浸し, けんちん汁<br>①旬の素材(栗, 銀杏, 菊花, しめじ)の活用方法<br>②こわ飯の炊き方<br>③茶わん蒸しの基本☑                 | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 8  | 日本料理<br>旬の素材(栗, 菊花, 銀杏)を活かす代表的な料理 | くり炊きこわ飯, 茶わん蒸し, 小松菜・しめじ・菊はなのゆず浸し, けんちん汁<br>①旬の素材(栗, 銀杏, 菊花, しめじ)の活用方法<br>②こわ飯の炊き方<br>③茶わん蒸しの基本☑                 | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 9  | 日常食・洋風料理                          | ミネストローネ, 魚のグラタン、リヨネーズポテト<br>①野菜の扱い方<br>②ホワイトソースのつくり方<br>③オープン料理の方法☑<br>☑  | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 10 | 日常食・洋風料理                          | ミネストローネ, 魚のグラタン、リヨネーズポテト<br>①野菜の扱い方<br>②ホワイトソースのつくり方<br>③オープン料理の方法  | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 11 | 日常食・中国料理                          | 芙蓉蟹、乾焼明蝦、清湯水蓮<br>①エビの扱い方<br>②とろみあんの作り方<br>③澄んだスープの作り方   | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 12 | 日常食・中国料理                          | 芙蓉蟹、乾焼明蝦、清湯水蓮<br>①エビの扱い方<br>②とろみあんの作り方<br>③澄んだスープの作り方   | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 13 | 日本料理<br>季節の素材(鯖)料理                | さばの味噌煮, 白和え<br>①鯖のおろし方と代表的な煮物<br>②代表的な日本料理(白和え)のつくり方<br>☑   | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 14 | 日本料理<br>季節の素材(鯖)料理                | さばの味噌煮, 白和え<br>①鯖のおろし方と代表的な煮物<br>②代表的な日本料理(白和え)のつくり方  | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |
| 15 | 指定献立調理                            | 指定した材料を活用し、家族の記念日の献立を考える<br>①メインメニューに沿って献立を立てる<br>②盛り合わせの工夫を考える<br>③記念日のメッセージ性を持たせる                             | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。 | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目     | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|----|--------|---|---|------|
| 16 | 指定献立調理 | 指定した材料を活用し、家族の記念日の献立を考える<br>①メインメニューに沿って献立を考える<br>②盛り合わせの工夫を考える<br>③記念日のメッセージ性を持たせる   | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。                | 60   |
| 17 | 指定献立調理 | 献立に従って調理する  | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。次回の自由課題(家族の記念日)をグループで考え, 食材の準備をする。 | 90   |
| 18 | 指定献立調理 | 献立に従って調理する  | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。次回の自由課題(家族の記念日)をグループで考え, 食材の準備をする。 | 90   |
| 19 | 菓子     | 日本料理、中国料理、西洋料理の中から選択して実習する。   | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。                | 60   |
| 20 | 菓子     | 日本料理、中国料理、西洋料理の中から選択して実習する。   | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。                | 60   |
| 21 | 行事食    | クリスマスの献立の作成   | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。                | 60   |
| 22 | 行事食    | クリスマスの献立の作成   | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。                | 60   |
| 23 | 行事食    | クリスマスの調理  | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。                | 60   |
| 24 | 行事食    | クリスマスの調理  | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。                | 60   |
| 25 | 行事食    | おせち料理<br>一の重(祝い肴: 田作り, 数の子, 黒豆)<br>二の重(栗きんとん, 松風のしどり, ゆず釜)<br>三の重(煮物: いりどり), スイーツとしてリンゴ寒<br>①おせち料理の起源や料理の意味, 正月のしきたり等も理解を深める<br>②代表的なおせち料理のつくり方<br>③盛り付け方 | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる。次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類, 鮮度, 価格など)を確認する。さらに, 学んだ料理を自宅で実践する。                | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目       | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|----|----------|---|---|------|
| 26 | 行事食      | おせち料理<br>一の重（祝い肴：田作り，数の子，黒豆）<br>二の重（栗きんとん，松風のしどり，ゆず釜）<br>三の重（煮物：いりどり），スイーツとしてリンゴ寒<br>①おせち料理の起源や料理の意味，正月のしきたり等も理解を深める<br>②代表的なおせち料理のつくり方<br>③盛り付け方 | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる．次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類，鮮度，価格など)を確認する．さらに，学んだ料理を自宅で実践する． | 60   |
| 27 | 食文化と伝統料理 | 雑煮の起源や地域の雑煮の特徴を知り，スローフードや料理と家族の絆を考える．<br>調理上のねらい：東日本，西日本の雑煮を学び，日本の伝統食，食の多様性を理解する．   | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる．次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類，鮮度，価格など)を確認する．さらに，学んだ料理を自宅で実践する． | 60   |
| 28 | 食文化と伝統料理 | 雑煮の起源や地域の雑煮の特徴を知り，スローフードや料理と家族の絆を考える．<br>調理上のねらい：東日本，西日本の雑煮を学び，日本の伝統食，食の多様性を理解する．   | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる．次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類，鮮度，価格など)を確認する．さらに，学んだ料理を自宅で実践する． | 60   |
| 29 | 行事食      | ひなまつりの献立<br>①はまぐりの潮汁<br>②太巻きずし<br>③菜の花のからし和え<br>④桜もち  | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる．次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類，鮮度，価格など)を確認する．さらに，学んだ料理を自宅で実践する． | 60   |
| 30 | 行事食      | ひなまつりの献立<br>①はまぐりの潮汁<br>②太巻きずし<br>③菜の花のからし和え<br>④桜もち  | 本日の実習内容結果をレポートにまとめる．次回の実習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類，鮮度，価格など)を確認する．さらに，学んだ料理を自宅で実践する． | 60   |

|          |  |                 |   |
|----------|--|-----------------|---|
| 科目名      | 住生活概論  | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択 |
| 担当教員     | 阿部 恵利子   |                 |   |
| 開講期      | 前期   |                 |   |
| 授業概要     | 住まいに求められる機能は、多様化する現代社会においてきわめて複雑である。しかし、住まいにおける「社会の原点」「安らぎの場」という役割は普遍的でなければならない。本授業では、これからの住まいがどうあるべきかの答えを導き出すために、住まいに関する成り立ちや住まい方計画、構造、環境問題、福祉住宅にまで視野を広げて講義する。また、後半にはこれらの理論を応用して設計製図の基礎を学ぶ。課題に対する発表及びレポート提出後、コメント等によるフィードバックを行う。HL2137  |                 |   |
| 達成目標     | <p>広い視野で物事を捉え、住生活に関わる基礎的知識を総合的に理解する。さらに社会及び家庭生活における諸問題について考察し、学んだ知識や技術を活用して問題解決を図ることができる。単位認定の最低基準は以下の①～④について7割達成していること。☑</p> <p>①わが国の住宅におけるMD及び気候風土との関連について理解する。☑</p> <p>②家族と間取りとの関連について考察する。☑</p> <p>③UD住宅の在り方について理解する。☑</p> <p>④簡単な住宅設計製図の内容を読み取る。☑</p> <p>知識・理解、論理的思考力、問題解決力、倫理観社会的責任☑</p> |                 |   |
| 受講資格     | 人間生活学科   | 成績評価<br>方法      | ①定期試験 70%☑<br>②提出図面 30%   |
| 教科書      | 豊かな住生活を考える一住居学(彰国社)☑<br>小澤紀美子編☑<br>小澤紀美子・荒川千恵子・川島平七郎・渡辺彩子著☑  |                 |   |
| 参考書      | 「住宅の計画学入門」鹿島出版会☑<br>「ダ イニング キッチン は こうして 誕生 した」 技報堂出版   |                 |   |
| 学生への要望   | 現代における住まいの問題点を把握するために、新聞等に目を通す習慣を身に付けること。  |                 |   |
| オフィスタイトム | No.1住居学研究室☑<br>月曜日 1・11時限 (8:50~12:00) ☑<br>木曜日 1時限 (8:50~10:20)   |                 |   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目            | 授業内容   | 自学自習                                  | 目安時間 |
|----|---------------|--|---------------------------------------|------|
| 1  | 授業ガイダンス       | これからの授業内容や進め方、目的を説明する。また、私たちの住生活をとりまく問題について考える。  | 新聞等に目を通し、日頃から住生活における問題に目を向ける。         | 60   |
| 2  | 住生活と諸問題       | 多様化する住生活について理解し、様々な住生活の諸問題について考える。   | 住生活の諸問題を取りあげ、自分の考えをまとめておく。            | 60   |
| 3  | 住生活と住まいの変遷    | 日本の風土の特徴を踏まえながら、気候風土と住まいの形態及び地域性と住まいについて確認する。  | 日本の気候風土、地域性についてまとめる。                  | 60   |
| 4  | 家族と住まいの変遷     | 現在の住まいの構造や形式は非常に多様であるが、住まいの変遷を辿ると各時代の家族観がその平面構成に反映されていることを確認する。  | 住まいの変遷と平面構成の変化を確認する。                  | 60   |
| 5  | 高齢者と住環境       | 高齢者の身体的特徴を踏まえながら、住居内での事故を防止するための手すりや段差解消の方法について学ぶ。また、現代社会における基礎的問題として、介護保険制度について理解し、高齢者の自立促進及び介護者の負担軽減を目的とした居住環境整備について考える。 | 介護保険制度を踏まえながら、住居内の事故防止のための方策についてまとめる。 | 60   |
| 6  | 間取りの重要性 1     | 本来最も安心して過ごすべき住まいが子供の犯罪行為の場となった事例から、住まいにおける子供空間の位置付けについて考察する。   | 子どもの自立と子ども部屋の関係について調べる。               | 60   |
| 7  | 間取りの重要性 2     | 間取り(空間構成)と家族問題とを関連付けながら、心(ソフト)と住まい(ハード)との関係が皆無ではないこと、さらには両面から人間を守護しなければならないことを確認する。  | 家族の問題と間取りの重要性について考えをまとめる。             | 60   |
| 8  | 住宅と衛生         | 換気と結露(表面結露・内部結露)との関連について理解し、結露を発生させない住まい方を考える。   | 住まいの衛生について考え、住まい方を考察する。               | 60   |
| 9  | 住宅設計製図の基礎     | 模範住宅の図面から、設計に用いる開口部などの記号について説明します。次に、設計製図における線の引き方の基礎を学びます。☑   | 設計製図における線の引き方を練習する。                   | 60   |
| 10 | 線の引き方、製図文字の練習 | 前授業に引き続き、線の引き方と、製図文字を練習する。次にダイヤモンドリング作成について説明する。   | 線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。           | 180  |
| 11 | ダイヤモンドリングの作成  | 線の練習を目的に、ダイヤモンドリングを作成する。太さや濃さに注意を払って慎重に作成する。   | 線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。           | 180  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目           | 授業内容   | 自学自習                        | 目安時間 |
|----|--------------|--|-----------------------------|------|
| 12 | ダイヤモンドリングの作成 | 線の練習を目的に、引き続きダイヤモンドリングを作成する。太さや濃さに注意を払って慎重に作成した後、住宅図面トレースについて説明する。 | 線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。 | 60   |
| 13 | 住宅図面のトレース1   | 模範住宅の図面をトレースすることにより、設計図の描き方の基礎を学ぶ。本授業では、平面・配置図を完成させることを目的とする。      | 平面図・配置図をトレースする。             | 180  |
| 14 | 住宅図面のトレース2   | 前授業に引き続き、2階平面図、立面図を完成させる。  | 2階平面図と立面図のトレースを完成させる。       | 180  |
| 15 | 住宅図面のトレース3   | 前授業に引き続き、トレースを完成させることにより、図面を読む基礎的知識を習得する。                          | 製図記号等の基礎的知識を理解し、トレースを完成させる。 | 180  |



|         |   |                 |   |  |
|---------|---|-----------------|---|--|
| 科目名     | 福祉住環境   | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザイン<br>コース 2年 2単位 選択 |  |
| 担当教員    | 阿部 恵利子  |                 |   |  |
| 開講期     | 前期  |                 |   |  |
| 授業概要    | 現代社会における高齢者および障がい者の生活や住まいの問題、社会制度、福祉用具等について理解し、さまざまな側面から社会生活について考察する。医療や福祉、建築について体系的で幅広い知識と専門能力を身に付け、高齢者や障がい者に対して住みやすい住環境を提案する能力を養う。課題に対する発表及びレポート提出後、コメント等によるフィードバックを行う。HL2238   |                 |   |  |
| 達成目標    | クライアントに適切な住宅改修プランを提示する能力と福祉用具や諸施策情報等についても助言できるような知識を身に付ける。単位認定の最低基準は下記①～④の7割達成していること。☑<br>①高齢者及び障がい者の住まいにおける問題を発見する。☑<br>②介護福祉制度について理解する。☑<br>③さまざまな福祉用具の特徴を理解し活用することができる。☑<br>④住宅改修に関わる知識や技術を理解する。☑<br>知識・理解、論理的思考力・問題解決力、倫理観社会的責任 |                 |   |  |
| 受講資格    | 人間生活学科 生活総合コース・建築デザインコース  | 成績評価<br>方法      | ①期末試験80%☑<br>②確認テスト20%  |  |
| 教科書     | 福祉住環境コーディネーター新版公式テキスト   |                 |   |  |
| 参考書     | その都度、提示する。  |                 |   |  |
| 学生への要望  | 予習・復習をして授業に臨むこと。  |                 |   |  |
| オフィスタイム | No.1住居学研究室☑<br>月曜Ⅰ・Ⅱ時限(8:50~12:00)☑<br>木曜Ⅰ時限(8:50~10:20)☑   |                 |   |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                    | 授業内容  | 自学自習                                | 目安時間 |
|----|-----------------------|---|-------------------------------------|------|
| 1  | ガイダンス                 | 授業内容の説明。☑<br>福祉住環境コーディネーターの役割について。☑<br>住環境整備の留意点。   | 住環境整備の留意点を整理する。                     | 60   |
| 2  | 高齢者・障がい者を取り巻く環境1      | 総人口や世帯数、高齢化率の推移等を把握する。また、改正介護保険制度に関する内容を改正点も踏まえつつ具体的なサービスの種類などについて学ぶ。さらに住宅施策の変遷や具体的な住宅施策についても世代別に名称や内容を理解する。            | 介護保険制度について理解を深める。                   | 60   |
| 3  | 高齢者・障がい者を取り巻く環境2      | 障がい別の障がい者数や在宅・施設の割合、身体障がい者のバリアフリー化の状況について把握する。また、障がい者自立支援法にもとづくサービスの概要について理解し、障がい者向け住宅施策の変遷の概要と建設行政と福祉行政のおおまかな流れについて学ぶ。 | 高齢者・障がい者を取り巻く環境を理解する。               | 60   |
| 4  | 障がいの定義・捉え方と自立支援1      | 障がいの捉え方・リハビリテーションと自立支援について学ぶ。特に、リハビリテーションのあり方をはじめ、地域ケア、地域リハビリテーションの必要性について理解する。   | 地域ケア、地域リハビリテーションの重要性を理解する。          | 60   |
| 5  | 障がいの定義・捉え方と自立支援2      | 高齢者や障がい者の身体的、精神的特性、心理的特性について理解する。   | 高齢者および障がい者の特性について理解する。              | 60   |
| 6  | 疾患別・障がい別にみた不自由と住環境整備1 | 運動機能や記憶力、知能などが加齢とともにどのように変化するかを理解する。  | 疾患別に見た住環境について理解を深める。                | 60   |
| 7  | 疾患別・障がい別にみた不自由と住環境整備2 | 高齢者の疾患について学ぶ。☑<br>また、要介護状態の要因といわれる脳血管障害や廃用症候群、認知症などについて、よく理解する。   | 高齢者の疾患と住環境について理解を深める。               | 60   |
| 8  | 疾患別・障がい別にみた不自由と住環境整備3 | 肢体不自由の脊椎損傷、内部障害、視覚障害、聴覚言語障害について学び、各障がい別の不便・不自由を理解することで、住環境整備の留意点を理解する。  | 疾患別・障がい別に見た住環境整備について理解を深める。         | 60   |
| 9  | 在宅での福祉用具の活用           | 福祉用具の定義をはじめ、福祉用具の選択や適応における基本姿勢について学ぶ。また、各用具の目的、構造、種類を学び、住宅改修と福祉用具を併用することでより快適な住環境を実現できることを理解する。                         | 福祉用具の種類や選択について理解し、住環境整備との併用について考える。 | 60   |
| 10 | 相談援助と福祉住環境整備          | 相談援助の基本的な考え方を踏まえ、より実践的な福祉住環境整備相談の進め方について学ぶ。   | 住環境整備を実践につなげるための基本的考え方について理解を深める。   | 60   |
| 11 | 福祉住環境整備の技術と実践1        | 福祉用具を活用しながら体験学習を行い、住環境整備を実現するための知識を養う。  | 福祉用具を活用し、体験学習した内容についてレポートにまとめる。     | 90   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目              | 授業内容  | 自学自習                       | 目安時間 |
|----|-----------------|---|----------------------------|------|
| 12 | 福祉住環境整備の技術と実践 2 | 段差解消の手法や建具や把手の種類、スペースの配慮など、住環境整備の基本技術を理解する。                                 | 住環境整備の基本技術と方策について理解する。     | 60   |
| 13 | 福祉住環境整備の技術と実践 3 | 外出から就寝までに関わる住環境整備について学ぶ。動作別にどのような配慮が必要となるのか、住環境整備の視点から考察する。                 | 動作別に住環境整備の配慮点について整理する。     | 60   |
| 14 | 福祉住環境整備の技術と実践 4 | 排泄や入浴動作などに関連する水回りの住環境整備について学ぶ。  | 水回りの住環境整備についてその配慮点を整理する。   | 60   |
| 15 | 現代社会に望まれる住環境とは  | これまでに学んだことを通して、住環境整備とその必要性についてディスカッション・説明を行った後、ペーパーテストを行う。また、ペーパーテストの解説も行う。 | 社会的問題と福祉住環境整備の必要性について考察する。 | 90   |

|         |   |                 |   |
|---------|---|-----------------|---|
| 科目名     | インテリアデザイン   | 対象<br>単位数<br>必修 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザイン<br>コース 1年 2単位 必修 |
| 担当教員    | 阿部 恵利子  |                 |   |
| 開講期     | 後期  |                 |   |
| 授業概要    | インテリアデザインに必要な専門知識及びその関連知識として「インテリアデザイン史・論」「インテリア計画・インテリアデザイン基礎」「インテリア材料・構造生産」「インテリア装飾・装飾」の4領域について学ぶ。また、学んだ知識を活かしてインテリアをデザインし、CGで表現する技術と創造力を養う。課題・プレゼンテーション後、コメント等によるフィードバックを行います。HL2139   |                 |   |
| 達成目標    | <p>インテリアデザイナーの役割や求められる資質について理解し、インテリアデザインに必要な専門知識や技術、プレゼンテーション能力を養う。単位認定の最低基準は、下記①～⑤の7割達成していること。☑</p> <p>①日本及び西洋のデザイン史について理解し、主要な家具・調度品、様式の特徴を把握する。☑</p> <p>②インテリアエレメントの種類や特徴を理解する。☑</p> <p>③インテリアの材料及び構造について理解し、それらの特徴を把握する。☑</p> <p>④人体の寸法、物の大きさ等、スケール感を身に付ける。☑</p> <p>⑤インテリアの表現技法を習得する。☑</p> <p>知識・理解、倫理観社会的責任、総合的な学習経験、創造的思考力</p> |                 |   |
| 受講資格    | 人間生活学科☑<br>生活総合コース☑<br>建築デザインコース  | 成績評価<br>方法      | ①提出作品30%☑<br>②レポート・小テスト20%☑<br>③期末試験50%                         |
| 教科書     | 日本インテリア設計士協会テキスト☑<br>インテリア産業協会テキスト  |                 |   |
| 参考書     | インテリア関連書籍をその都度提示する。   |                 |   |
| 学生への要望  | 授業目標を理解し、授業に臨むこと。   |                 |   |
| オフィスタイム | 住居学研究室☑<br>月曜日 I 時限 (8:50~12:00) ☑<br>木曜日 I 時限 (8:50~10:20) ☑   |                 |   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目          | 授業内容   | 自学自習                           | 目安時間 |
|----|-------------|--|--------------------------------|------|
| 1  | ガイダンス       | これからの授業の進め方やインテリアデザインに必要な専門知識や技術について説明する。                        | インテリアデザインに必要な専門知識や技術について理解する。  | 40   |
| 2  | インテリアデザイン史Ⅰ | 西洋のインテリアと家具の歴史を学ぶ。   | 西洋のインテリアの歴史と家具の変遷について整理して理解する。 | 40   |
| 3  | インテリアデザイン史Ⅱ | 日本の住宅とインテリア、家具の歴史を学ぶ。  | 日本の住宅の変遷と家具の歴史について整理して理解する。    | 40   |
| 4  | インテリアデザイン基礎 | 形と空間構成・色彩・インテリアの表現技法を学ぶ。   | インテリアデザインの基礎として表現技法について理解する。   | 40   |
| 5  | インテリア計画     | 人間の生理や心理をふまえた視点から計画するための知識を養う。                                   | インテリア計画の知識について理解を深める。          | 40   |
| 6  | インテリア材料     | 材料の持つ特質を知り、快適で安らぎのある空間について考察する。                                  | インテリアの材料の特質を整理する。              | 40   |
| 7  | インテリア構造・生産  | インテリアの構法、室内構造と各部の名称等について学ぶ。                                      | インテリアの室内構造について理解を深める。          | 40   |
| 8  | 室内装飾・装飾Ⅰ    | カーペット・壁と天井の仕上げ・ウインドウトリートメントについて学ぶ。                               | 室内装飾・装飾について事例をもとに理解を深める。       | 40   |
| 9  | 室内装飾・装飾Ⅱ    | 台所・洗面・浴室等の設備機器等について学ぶ。   | 室内の設備機器について理解する。               | 40   |
| 10 | 室内パースⅠ      | インテリア関連の各資格に対応したパースの書き方を理解する。与条件を十分に理解し、課題の主旨に応じた室内パースを描く。       | 室内パースの書き方を理解しパースを製作する。         | 90   |
| 11 | 室内パースⅡ      | 前授業に引き続き、室内パースを製作する。描き方のプロセス・テクニックを十分に理解し、室内パースを制作する。            | 室内パースの書き方を理解しパースを製作する。         | 90   |
| 12 | 室内パースⅢ      | 前授業に引き続き、室内パースを製作する。描き方のプロセス・テクニックを十分理解し、室内パースを完成させる。            | 室内パースの書き方を理解しパースを製作する。         | 90   |
| 13 | インテリアデザイン   | 室内空間をCADを使用して3Dで表現する。イメージスケールをもとに、理想の空間を3Dで表現する技術を習得する。          | CADを使用した表現技術を習得する。             | 90   |
| 14 | インテリアデザイン   | 前授業に引き続き、室内空間をCADを使用して3Dで表現する。イメージスケールをもとに、理想の空間を3Dで表現する技術を習得する。 | 理想の室内空間を表現する。                  | 90   |
| 15 | プレゼンテーション   | 製作した作品のプレゼンテーションを行う。☑<br>学生間でそれぞれ評価し合い、ディスカッションを行う。              | ディスカッションを通して、作品を評価する。          | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目 | 授業内容 | 自学自習 | 目安時間 |
|---|----|------|------|------|
|---|----|------|------|------|

|                |   |                          |  |
|----------------|---|--------------------------|--|
| <b>科目名</b>     | 家庭電気・機械   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択   |
| <b>担当教員</b>    | 石原 正道   |                          |  |
| <b>開講期</b>     | 後期  |                          |  |
| <b>授業概要</b>    | 日常では様々な機器を利用することで、日々の生活を快適に過ごすことができている。しかし、これらの機器は利便性を与えるだけでなく、時には危険性も与える。そこで機器を有効かつ安全に利用でき、機器の維持管理を行えるよう、日常生活で利用している機器について動作原理および構造を学ぶ。<br><input checked="" type="checkbox"/> フィードバックとして理解度確認ペーパーの返却・課題内容の説明等を行う。<br><input checked="" type="checkbox"/> 位置づけ・水準 HL2340 |                          |  |
| <b>達成目標</b>    | 本講義では機器の原理および構造を理解するために、(1)基本的な物理法則の理解すること、(2)機械の動作原理の理解すること、(3)家電製品の動作原理の理解すること、を目標とする。<br><input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること<br>ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解  |                          |  |
| <b>受講資格</b>    | なし。   | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 課題(理解度の確認) 2回・理解度確認ペーパーの提出による。配点割合は課題が各 40%、理解度確認ペーパーの提出を 20% とする。なお課題は得点分布などを加味し、平均点などの調整を行うことがある。課題実施時の持ち込みは、自筆記入による A4 用紙 1 枚 (表裏記入可) のみに限る。成績評価の観点から、1) 基本的な物理法則の理解、2) 機械の扱い方や構造や原理の理解、3) 家電製品の動作原理の理解、である。科目の特性から、とくに 2) と 3) に重点を置く。 |
| <b>教科書</b>     | 適宜プリントを配布する。  |                          |  |
| <b>参考書</b>     | ・池本 洋一, 吉田 章, 家庭機械・電気・電子, 理工学社 (1996)<br>・小暮 陽三, 物理で読みとく フシギの世界, 日本実業出版社 (2002)<br>・横田 俊昭, ぶつり学, 共立出版 (1993)  |                          |  |
| <b>学生への要望</b>  | 基本的な物理を理解していることが望ましい (科目「生活物理学」を履修していることが望ましい)。   |                          |  |
| <b>オフィスタイム</b> | 水曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室<br>金曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室<br>他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。<br>アポイントメント用連絡先 m_isihar@koryiyama-kgc.ac.jp  |                          |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目             | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|---|----------------|---|---|------|
| 1 | イントロダクション      | 講義の目的と内容・成績評価の方法などの説明を行う。次回以降の準備として、数学の基礎事項(比率・指数・接頭辞・比例と反比例)を復習する。   | 本時の復習として冪乗の計算および比例・反比例の変数間の関係を確認すること。   | 15   |
| 2 | 基礎物理           | 機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原則を学ぶ。状態の記述に必要な位置・速度・加速度の概念を復習したのち、運動の記述に必要な力や、保存則と関係する運動量・角運動量の基礎事項を学ぶ。   | 本時の予習として冪乗の計算および比例・反比例の変数間の関係を確認しておくこと。また本時の復習として力・運動量・角運動量の定義を調べておくこと。<br>※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。 | 30   |
| 3 | 基礎物理および機械の構成要素 | 機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原則を学ぶ。モーメント・仕事・仕事率・エネルギー・エネルギー保存則の基礎事項を学ぶ。これらの基礎事項を学んだのちに、機械の構成要素(道具やリンク機構)を学ぶ。本時では様々な道具を実際に触ることで道具への理解を深めることとする。またノギスやマイクロメーターを用いて様々な物体の長さ・厚さ・深さを測り、道具の使用方法を学ぶ。 | 本時の予習として力・運動量・角運動量の定義を確認しておくこと。本時の復習として各保存則とリンク機構について確認しておくこと。<br>※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。          | 60   |
| 4 | 機械の構成要素        | 機械の構成要素としてベルト・チェーン・歯車・軸などを学ぶ。また回転とモーメントの関係や仕事の原理とシーソーやギアなどの機構の関係を学ぶ。  | 本時の復習として、配布されている資料と授業内容をもとに機械の構成要素について整理すること。<br>※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。                           | 30   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目             | 授業内容   | 自学自習   | 目安時間 |
|----|----------------|--|--|------|
| 5  | 熱力学基礎          | 人間は有限温度中で生活し、実生活では熱を扱う機会が多い。そのため機器でも熱を扱うものが多い。ここでは熱や温度とは何かを復習し、動作原理を理解するための基礎となる理想気体の状態方程式を理解することとする。また熱に関する基本的な法則である熱力学第一法則・第二法則についても概略を学ぶ。   | 本時の復習として熱力学の第一法則および第二法則の内容を確認すること。また日常現象に熱力学の法則がどのように関連しているか確認すること。<br>※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。                  | 60   |
| 6  | 熱を利用した機器       | 燃焼に関係する器具や機関について学ぶ。バーナーやヒーターといった気体や液体燃料を利用する燃焼器具、内燃機関と外燃機関の違い、内燃機関であるエンジンの基本動作などについて学ぶ。  | 本時の復習として、本時で扱った器具や機関の仕組みを整理すること。<br>※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。   | 30   |
| 7  | ヒートポンプ         | 実生活では温度を適切に調整することが必要な場合がある。ここでは熱力学の観点からヒートポンプの原理を理解し、ヒートポンプの特徴を学ぶ。とくに効率の観点からヒートポンプの優位性を理解し、ヒートポンプの利用例を知ることとする。   | 本時の復習として、ヒートポンプのサイクルにおける各過程での熱の出入り及び温度の高低を再確認すること。またヒートポンプの特徴を再確認すること。<br>※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。               | 45   |
| 8  | 冷蔵庫            | 現代の家庭では、冷蔵庫は必須の電気機器である。冷蔵庫はヒートポンプを応用した冷蔵庫のほか、様々なタイプの冷蔵庫があることを学ぶ。また、それぞれの冷蔵庫の冷却原理について学び、どのような特徴があり、どのような場所で使用されているのか学ぶ。   | 復習として、冷却方法を整理すること。また電気冷蔵庫の冷却方法とヒートポンプのサイクルにおける過程を対応をまとめてみる。<br>※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。                          | 30   |
| 9  | 課題 1           | これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。  | 本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。  | 120  |
| 10 | 電磁気の基礎         | 日常機器の殆どは電気を利用して動作する。このため日常機器の動作を理解するには電磁気の基本的な性質を理解しておく必要がある。ここでは電気・磁気・電磁波などの電磁気の基礎的な概念や性質を学ぶ。   | 本時の復習として、電気と磁気の関係や電磁気学における各種法則について整理すること。<br>※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。  | 60   |
| 11 | 電力生成           | 電気エネルギーは便利なエネルギー形態である。しかし現在の技術では、多くの電気によるエネルギーを蓄えておくことは容易でない。このため、必要に応じて他のエネルギーを電気エネルギー(電力)に変換する必要がある。電力は発電所で作られていると考えがちであるが、家庭でも電力を生成することがある。電気を利用した機器を理解するため、ここでは電力の生成方法について学ぶ。                            | 本時の予習として、本授業の前半で学んだエネルギー保存則を確認しておくこと。本時の復習として、電力生成を電磁気学の基本法則で説明できるよう、電力生成の原理を確認すること。<br>※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。 | 45   |
| 12 | 電磁気を利用した調理システム | 家庭における電磁気を利用した器具に調理器がある。ここでは電気あるいは磁気を利用した調理器である、電磁調理器 (IH) ・電気炊飯器・電子レンジの動作原理を学ぶ。動作原理を知ること、これらの機器の危険な面も理解することとする。   | 本時の復習として、誘導加熱と誘電加熱の原理を確認すること。また両加熱方法の違いを確認すること。<br>※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。                                      | 30   |
| 13 | 電気を利用した発光システム  | 現代社会において灯りは必須のものである。ここでは光を供給する電球・蛍光灯および近年使用されることの多い、Light Emitting Diode (LED) の仕組みを学ぶ。それぞれの製品の特徴を掴み、適切な使用ができるよう理解をはかる。本時では圧電素子や電子レンジを利用して蛍光灯を光らせる簡易実験を行い、蛍光灯の発光原理を理解する。また本簡易実験により、前回の授業で学んだ電子レンジの加熱原理を確認する。 | 本時の復習として、発光原理とエネルギーの利用効率について整理すること。<br>※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。  | 20   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目       | 授業内容   | 自学自習  | 目安時間 |
|----|----------|--|---|------|
| 14 | 液晶と情報の記録 | 液晶が実用化されたことで、ディスプレイなどの厚さは極めて薄くなり取り扱いが簡単になった。ここでは広く用いられている液晶の原理を学び、液晶がどのような機器に用いられているか学ぶ。また、これまで情報を記録するには紙媒体が使用されてきたが、コンピュータの普及に伴い、情報を電子媒体に記録されることが増えてきている。ここでは情報の記録方法について、機械と磁気の観点から学ぶことにする。 | 本時の復習として、本時で説明したデータ保存用の機器の実物を、Webなどで確認すること。またその際に示されている接頭辞を確認すること（接頭辞は本授業当初の説明事項である）。<br>※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。 | 30   |
| 15 | 課題2      | これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。  | 本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。   | 120  |

|          |   |                 |   |  |
|----------|---|-----------------|---|--|
| 科目名      | 人間環境学   | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択 |  |
| 担当教員     | 影山 志保   |                 |   |  |
| 開講期      | 後期  |                 |   |  |
| 授業概要     | 生命の維持には空気・水・食品の摂取が必須であることから、健康生活のためにはこれらの質が良好であることが重要である。具体的な環境汚染例としては、ダイオキシン等の有機塩素系化合物や、水俣病の原因物質であるメチル水銀、そして発がん性マイコトキシンであるアフラトキシン、催奇形性でよく知られた医薬品のサリドマイドを事例として、毒性物質の作用機序について、栄養素の代謝などと比較して、学んでいく。[課題に対するフィードバック方法]レポート、課題発表に対しては紙面あるいは口頭によるコメント等のフィードバックを行います。[位置づけ・水準]HL2341 |                 |   |  |
| 達成目標     | この講義では生活環境である空気・水・土壌に着目し、生活環境を汚染している環境汚染物質が、食品や飲料水を介して、人間の健康にどのような問題を起こすのかについて実生活にあてはめ考えていくことを目標としており、内容の8割を理解していること。<br>[ディプロマポリシーとの関連] 知識・理解力、問題解決能力  |                 |   |  |
| 受講資格     | 特になし  | 成績評価<br>方法      | ①期末試験100点☑  |  |
| 教科書      | 印刷資料提供  |                 |   |  |
| 参考書      | 薬理学関係の書物  |                 |   |  |
| 学生への要望   | 健康生活に必須である生活環境と食品の問題点について学び、実生活中に生かしてもらいたい。   |                 |   |  |
| オフィスタイトム | 月曜日、火曜日、水曜日の5コマ目<br>食品衛生学研究室  |                 |   |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目             | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|----|----------------|---|---|------|
| 1  | 金属元素           | 食品汚染が問題となった公害として、水俣病・新潟水俣病（メチル水銀）、イタイイタイ病（カドミウム）、ヒ素ミルク事件（ヒ素）がある。環境問題の原点である水俣病の記録映像をまじえて、公害問題について学ぶ。             | 日本の公害問題にどのようなものがあるのか調べる。                                      | 60   |
| 2  | 食品と金属元素        | 栄養金属元素（K,Na,P,Cl）、毒性金属元素（Hg,As,Cd,pb）、重金属の生体内挙動、食品に含まれる金属とその量、TDI（耐用一日摂取量について学ぶ。                                | 特に日本の環境問題の原点である水俣病と、特に毒性金属元素と人体影響について調べる。                     | 60   |
| 3  | 有機塩素系芳香族化合物    | 農薬の人体傷害である殺虫剤（DDT,BHC）、除草剤（PCP,2,4,5-T,CNP）、殺菌剤（クロルフェノール）とPCB、ダイオキシンで知られている有機塩素系芳香族化合物による人体傷害について学び、問題点について考える。 | 農薬の中の有機塩素系芳香族化合物と人体障害性や問題点について調べる。                            | 60   |
| 4  | 食品と有機塩素系芳香族化合物 | 化学物質の特徴、塩素化による化学変化、有機塩素系芳香族化合物の生体内挙動、多様な毒性、食品中に含有する有機塩素系化学物質とその量について学ぶ。☑  | 有機塩素系芳香族化合物の塩素化による化学変化、生体内挙動、毒性、食品中に含有する有機塩素系芳香族化合物の量について調べる。 | 60   |
| 5  | 大量使用による化合物汚染   | 人間生活で大量に使用されている化学物質の環境と人体への影響について、大気・水質・土壌汚染の具体的な事例から問題点を学ぶ。  | 生活の中で多用されている化学物質と環境影響について調べる。                                 | 60   |
| 6  | 免疫機構と食物アレルギー   | 免疫機構（免疫組織、T細胞、体液性免疫、細胞性免疫、樹状細胞）と食物アレルギーについて学ぶ。  | 食物アレルギーとヒトの免疫機構について調べる。                                       | 60   |
| 7  | 食品への健康影響       | 食品の空気酸化（果物の褐変、魚肉の黒ずみ、高度不飽和脂肪酸の過酸化、小麦の酸化と食品添加物の酸化防止剤）と野菜と土壌肥料（野菜栽培上の要素欠乏と過剰）について学ぶ。                              | 食品の空気酸化について調べる。   | 60   |
| 8  | 水と調理1          | 上水道の役割と問題点、原水浄化法、塩素消毒による発ガン性化合物トリハロメタンについて学ぶ。   | 自分たちが日常使用している上水道の水源と水源とその地域の産業の問題、原水を塩素処理する時の問題点について調べる。      | 60   |
| 9  | 水と調理2          | 水道水の製造、トリハロメタンの発生機構と除去方法、生活排水と下水処理について学ぶ。   | 水道水の製造時に発生する発がん性化合物のトリハロメタンについて調べる。                           | 60   |
| 10 | サリドマイド1        | サリドマイドベビーに関するスウェーデンの記録映像から、催奇形とその発現機構について詳細に学ぶ。   | 催奇形について調べる。   | 60   |
| 11 | サリドマイド2        | 胎盤血管閉門に関する知識を身につけ、各種化学物質の催奇形性に関する資料を参考に妊娠と医薬品について考える。   | 妊娠期と医薬品について、投薬時の留意点やどんな問題があるのか調べる。                            | 60   |



-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目            | 授業内容  | 自学自習                                     | 目安時間 |
|----|---------------|---|--|------|
| 12 | 内分泌攪乱化学物質     | ペプチドホルモンと低分子ホルモン（甲状腺ホルモン・ステロイドホルモン）、それらのホルモンの情報伝達方法、低分子ホルモンの類似物質である内分泌攪乱化学物質について学ぶ。 | ホルモンの働き、内分泌かく乱がなぜ起こるのか調べる。               | 60   |
| 13 | 遺伝子操作作物と狂牛病   | 遺伝子操作作物（GMO）の実態と食品表示、GMOが生産したタンパク質が問題となる理由について学ぶ。また、狂牛病の病原物質である病原物質プリオンについて学ぶ。      | 遺伝子組み換え作物の現状、食品表示のルールを調べる。また、狂牛病について調べる。 | 60   |
| 14 | 生体と化学物質1（毒素）  | 毒素の作用機構、受容体での結合、毒素の吸収・分布・代謝・排泄、停止する生命連鎖について学ぶ。                                      | 毒素がどのように体で吸収し、作用するのか調べる。                 | 60   |
| 15 | 生体と化学物質2（栄養素） | 栄養素の作用機構、受容体での結合、栄養素の吸収・分布・代謝・排泄、停止する生命連鎖について学ぶ。                                    | 栄養素がどのように体で吸収し、作用するのか調べる。                | 60   |

|         |   |                 |   |
|---------|---|-----------------|---|
| 科目名     | 人間環境学実験   | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザイン<br>コース 4年 1単位 選択 |
| 担当教員    | 影山 志保   |                 |   |
| 開講期     | 前期  |                 |   |
| 授業概要    | 人間の生命の維持には空気・食品・水の摂取が必須であり、健康生活のためにはこれらの質が良好であることが重要である。この実験では生活環境の測定と評価、水の分析、体に付着している微生物、放射線の問題および食品腐敗微生物といった様々なテーマから人間環境を相対的に考えていく。[課題に対するフィードバック方法]レポート、課題発表に対しては紙面あるいは口頭によるコメント等のフィードバックを行います。[位置づけ・水準]HL2342 |                 |   |
| 達成目標    | この実験では私たちが私たちを取り巻く環境を実際に測定し、対象に対する理解を深め、問題点を明らかにし、解決法を考え提案することを目標としている。内容の8割を理解していること。<br>[ディプロマポリシーとの関連] 知識・理解力、問題解決能力、総合的な学習経験、創造的思考  |                 |   |
| 受講資格    | なし  | 成績評価<br>方法      | ①レポート20点☑<br>②プレゼンテーション80点                                      |
| 教科書     | 印刷資料配布  |                 |   |
| 参考書     | ①水の分析 日本分析化学会北海道支部編（化学同人）☑<br>②環境微生物の測定と評価 山崎省二編（オーム社）☑<br>③カラーアトラス環境微生物 山崎省二編（オーム社）  |                 |   |
| 学生への要望  | 分析機器類、薬品やガス、環境中の微生物や毒性物質を取り扱うため、白衣を着用し機敏な行動をしてもらいたい。なお、実習にはPCを持参すること。実習室内には実習に使用しない物品などは持ち込まない。実習室での飲食は禁止する。実習終了後は実習室の清掃をお願いしたい。  |                 |   |
| オフィスタイム | 月曜日、火曜日、水曜日の5コマ目☑<br>食品衛生学研究室☑  |                 |   |

## -授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目                                     | 授業内容  | 自学自習                                       | 目安時間 |
|---|--|---|--|------|
| 1 | ガイダンス                                  | 人間環境学実験では生活環境である空気・水・土壌、食品と人に注目し、生活環境を汚染している環境汚染物質や食品が人間の健康にどのような問題を起こすのかについて、実際の測定を通して考えていく。ガイダンスでは授業内容の説明、実験方法の説明、機器使用方法の説明、成績評価方法についての説明を行う。☑  | 生活環境を汚染している環境汚染物質について調べ、まとめる。              | 30   |
| 2 | 生活環境の測定と評価-1（空中・土中微生物採取と培養、粉塵測定、放射線測定） | 環境中には細菌、真菌、ウイルスなどの多種多様の微生物が存在しており、空気中浮遊粉じんの吸入では肺の病気や細菌感染症、ぜんそくや気管支炎、花粉症が生じることがあることから、私たちの生活環境中の粉塵の測定と、どんな微生物が生息しているかについて調べる。併せて放射線量についても測定する。まずこの時間は空中・土中微生物の採取の培養を行う。採取した土壌は風乾し、放射線測定の試料とする。測定項目についてその測定意義と分析値についてはその都度説明する。 | 細菌、真菌、ウイルスなどの微生物が原因として発症する感染症を調べ、まとめる。     | 30   |
| 3 | 生活環境の測定と評価-2（空中・土中微生物採取と培養、粉塵測定、放射線測定） | 前回採取した粉塵や土壌の放射線量の測定を行う。まず、風乾土壌を0.5μmの篩でふるい、ゲルマニウム半導体検出器で放射線測定を行う。測定項目についてその測定意義と分析値についてはその都度説明する。   | 生活環境周辺の土壌にはどんな種類のものがあるのか、調べながら採取する。        | 30   |
| 4 | 生活環境の測定と評価-3（空中・土中微生物の観察）              | 前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。   | 生活環境中にある細菌、真菌、ウイルスの名前を調べ、まとめる。             | 30   |
| 5 | 生活環境の測定と評価-4（空中・土中微生物の観察）              | 前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。   | 細菌、真菌、ウイルスなどの名前を調べる方法をまとめる。                | 30   |
| 6 | 生活環境の測定と評価-5（空中や土壌中の粉塵・微生物・放射線の評価）     | 空中や土壌中の粉塵・微生物・放射線の結果を解析し、その関連性について考える。  | 細菌、真菌、ウイルスはどこに存在しているのか、病気と関連づけながら調べ、まとめる。  | 30   |
| 7 | 発表会の準備                                 | 発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う。  | 生活環境中の微生物についてまとめる。                         | 30   |
| 8 | 発表会                                    | 空中や土壌中の粉塵・微生物・放射線の結果を中心にプレゼンテーションを行う。   | 生活環境とそこに生存する微生物についてまとめ、自分の住んでいる環境について評価する。 | 30   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                         | 授業内容   | 自学自習  | 目安時間 |
|----|----------------------------|--|---|------|
| 9  | 水-1 (水の分析)                 | 水は我々の生活に欠かせない物質であり、生活用水、工業用水、農業および漁業などの多方面にわたって利用されている。我々が利用する水は循環しており、その中には天然水、排水および下水も含まれることから、私たちは水質について十分に知っておく必要がある。身近な水を採取し、物理的性質 (pH、水温、透視度、濁度、電気伝導率、溶存酸素、塩分濃度)、化学的性質 (COD、アンモニア窒素、亜硝酸イオン、硝酸イオン、リン酸イオン)、一般細菌および大腸菌数の計測について行う。 | 生活の中で水はどのような場面で利用されているのかについて調べ、まとめる。                  | 30   |
| 10 | 水-2 (水の分析)                 | 引き続き採取した水の物理的性質 (pH、水温、透視度、濁度、電気伝導率、溶存酸素、塩分濃度)、化学的性質 (COD、アンモニア窒素、亜硝酸イオン、硝酸イオン、リン酸イオン)、一般細菌および大腸菌数の計測について行う。   | 水の汚染を調べるときに、どのような項目を分析しているか、またその項目を分析する意味について調べ、まとめる。 | 30   |
| 11 | 水-3 (水中微生物の観察)             | 前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。  | 飲料水の水質基準について調べ、まとめる。                                  | 30   |
| 12 | 水-4 (水虫微生物の観察)             | 微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。   | 水に生息する微生物で病気を起こすものについて調べ、まとめる。                        | 30   |
| 13 | 水-5 (水の評価)                 | 水分析の結果と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。  | 水が起因となる病気の実例について調べ、まとめる。                              | 30   |
| 14 | 発表会の準備                     | 発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う  | 水質分析結果についてまとめる。                                       | 30   |
| 15 | 発表会                        | 水と水中微生物の結果を中心にプレゼンテーションを行う。  | 水と水に生存する微生物についてまとめ、自分の利用している水について評価する。                | 30   |
| 16 | 人体付着微生物-1 (付着微生物の採取と培養)    | 人体や衣類に付着している微生物 (細菌・かび) を培養するにあたり、トリプチケースソイブロスを作成する。ここでは器具や培地を無菌的に作るために、無菌操作や滅菌の手法について学ぶ。また、人体や衣類に付着している微生物 (細菌・かび) をスタンプ法により採取し培養する。  | 微生物を培養する培地と無菌操作について調べ、まとめる。                           | 30   |
| 17 | 人体付着微生物-2 (付着微生物の採取と培養)    | 人体や衣類に付着している微生物 (細菌・かび) をスタンプ法により採取し培養する。  | 培地を用いた微生物を採取する方法について調べ、まとめる。                          | 30   |
| 18 | 人体付着微生物-3 (付着微生物の観察)       | 前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。  | 人体や衣類に付着している微生物について、文献を調べ、まとめる。                       | 30   |
| 19 | 人体付着微生物-2 (付着微生物の観察)       | 前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。  | 衣類の微生物数から洗濯の頻度について考え、まとめる。                            | 30   |
| 20 | 人体付着微生物-3 (付着微生物の評価)       | 人体付着微生物数と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。  | 衣類の衛生管理について考え、まとめる。                                   | 30   |
| 21 | 発表会の準備                     | 発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う  | 衣類の微生物についてまとめる。                                       | 30   |
| 22 | 発表会                        | 人体付着微生物の結果を中心にプレゼンテーションを行う。  | 衣類に生存する微生物についてまとめ、よりよい衛生管理の方法や頻度をまとめよう。               | 30   |
| 23 | 食品腐敗微生物-1 (食品中の微生物の培養)     | 食品中の生菌数は食中毒と品質劣化 (腐敗) の重要な指標となる。食中毒は、微生物が食品中で増殖または毒素を生産した食品を人が摂食することで起こるが、汚染され病原微生物の中には、少ない菌数で食中毒を引き起こす食中毒菌もいる。この実験授業では、腐敗した食品を0.9%滅菌生理食塩水中に懸濁したあと、懸濁液1mlをトリプトソーヤ寒天培地中に混釈し、37°C48時間培養後、食品中の生菌数を計測する。                                 | 食品中の品質劣化の原因と食中毒事件を起こす生菌数について調べ、まとめよう。                 | 30   |
| 24 | 食品腐敗微生物-2 (食品中の微生物の培養)     | 腐敗した食品を0.9%滅菌生理食塩水中に懸濁したあと、懸濁液1mlをトリプトソーヤ寒天培地中に混釈し、37°C48時間培養する。   | 食品の微生物検査の手法について調べ、まとめる。                               | 30   |
| 25 | 食品腐敗微生物-3 (食品腐敗微生物数の計測と観察) | 前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。  | 食中毒を起こす細菌の種類について調べ、まとめる。                              | 30   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                     | 授業内容                                      | 自学自習                                  | 目安時間 |
|----|------------------------|---|---------------------------------------|------|
| 26 | 食品腐敗微生物-4 (食品腐敗微生物の観察) | 前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。 | 食中毒を起こす細菌の生育環境と温度条件、特性について調べ、まとめる。    | 30   |
| 27 | 食品腐敗微生物-5 (食品腐敗微生物の評価) | 食品中の微生物数と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。       | 食品の微生物数と結果について過去の事例を文献により調べ、まとめる。     | 30   |
| 28 | 食品腐敗微生物-6 (食品腐敗微生物の評価) | 食品中の微生物数と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。       | 食品と食品の品質劣化について調べ、まとめる。                | 30   |
| 29 | 発表会の準備                 | 発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う。                  | 食品腐敗微生物についてまとめる。                      | 30   |
| 30 | 発表会                    | 食品腐敗微生物の結果を中心にプレゼンテーションを行う。               | 食品腐敗微生物についてまとめ、よりよい衛生管理の方法や注意点をまとめよう。 | 30   |

|         |   |                 |  |
|---------|---|-----------------|--|
| 科目名     | 生活色彩論   | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択   |
| 担当教員    | 難波 めぐみ  |                 |  |
| 開講期     | 後期  |                 |  |
| 授業概要    | <p>[授業の目的・ねらい] ☑<br/>色は生活の中で欠かせない存在である。また、生活そのものを豊かにしてくれる大きな存在である。衣生活はもちろん食生活や、住生活の中で色が大きく関わっている。本授業では、生活の中での色について学び、快適な色彩環境の構築へと結びついて行けるように学修する。☑</p> <p>[授業全体の内容の概要] ☑<br/>衣生活、食生活、住生活に関わる色彩について、実習やコラージュ、また、討論を通して身につけていく。色彩学の基本を修得し、新たな快適な生活空間の提案へと結びついて行けるようにする。</p> |                 |  |
| 達成目標    | <p>[到達目標] ☑<br/>①色彩の意味を理解する。☑<br/>②各領域における色彩を理解する。☑<br/>③生活空間の中で、色が心と体に与える影響を理解する。</p>  |                 |  |
| 受講資格    | 人間生活学科生活総合コース4年生  | 成績評価<br>方法      | ①授業態度 20点 ②途中課題（コラージュなど）20点 ③完成作品30点 ④課題（レポート、テストなど）30点 ①～④の総合的評価60点以上で合格。 |
| 教科書     | 随時印刷物の配布。   |                 |  |
| 参考書     | 「新版生活の色彩学」加藤雪枝・石原久代・中川早苗・橋本令子他、朝倉書店   |                 |  |
| 学生への要望  | ①遅刻欠席をせず、常に積極的に授業に取り組むこと。☑<br>②コラージュ制作や、体験授業など主体的に取り組むこと。   |                 |  |
| オフィスタイム | 水曜日 I、IV、金曜日 III、IV 家政学館 4 F 被服学研究室 不在の場合もありますので、授業終了後確認して下さい。  |                 |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目         | 授業内容   | 自学自習                             | 目安時間 |
|----|------------|--|----------------------------------|------|
| 1  | オリエンテーション  | 1) 授業内容について☑<br>2) 色は何故見えるのか（服飾デザイン論内容の確認）                               | シラバスを確認し、授業内容を理解する               | 40   |
| 2  | 色の活用場面について | 1) 色の活用場面についての事例報告☑<br>予習で調査した色に関する内容をもとに討論会を実施する。                       | 生活の中の色の活用場面の事例報告内容を調べ、発表できるようにする | 90   |
| 3  | 世界の色彩      | 1) 世界の色彩について☑<br>色の捉え方は、国によって様々とされている。国別による色彩感について事例を紹介し理解を深める。          | 世界の色彩の捉え方を調べノートにまとめる             | 90   |
| 4  | 色彩の心理      | 1) 色彩が心と与える影響について（心地よい、暖かみや暗記力、認識力など）☑<br>2) 色彩の治癒力とは（沈静色など）☑            | 色彩の力を調べノートにまとめる                  | 90   |
| 5  | 色彩の生理・感情   | 1) 色彩と生理作用について☑<br>2) 色彩と感情の関係について                                       | 色彩と心と色との関係を調べノートにまとめる            | 90   |
| 6  | 衣生活における色彩① | 1) 衣服の色が心と与える影響について☑<br>あなたは何色の色を着ますか（保持していますか）。衣服の所持色から心理状態を探る。         | 衣服と色との関係を考える                     | 90   |
| 7  | 衣生活における色彩② | 1) 衣服の色と体温の関係について☑<br>色が体に及ぼす作用について、実体験をとおして考える。                         | 衣服と色と体の関係を調べノートにまとめる             | 90   |
| 8  | 食生活における色彩① | 1) 色彩がおぼす食品へのおいしさについて☑<br>彩りのある食事や食卓が、嗜好に影響をあたえることを体験を通して考える。            | 色彩と食品について事例報告資料を作成する             | 90   |
| 9  | 食生活における色彩② | 1) 色が食欲に与える影響について☑<br>食欲増進、食欲抑制の献立のコラージュから、人間の嗜好と色との関係を調べる。              | 食品コラージュ作成                        | 100  |
| 10 | 住生活における色彩① | 1) 照明と色について☑<br>2) 上手なインテリアコーディネートの基本として色の存在を考える。室内のコラージュから生活の中の色を考えていく。 | 快適な住生活として室内コラージュの作成              | 100  |
| 11 | 住生活における色彩② | 1) 快適な住環境と色との関係について☑<br>前の週の室内コラージュを発表し、住むことと色との関係を考える。                  | 室内コラージュの作成                       | 100  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目         | 授業内容   | 自学自習            | 目安時間 |
|----|------------|--|-----------------|------|
| 12 | 福祉におけるの色彩① | 1) 色彩福祉検定とは☒<br>福祉現場において、色が利用者のみならず介護職員へも影響を与えていると言われている。生活を改善する色を考えていく。 | 生活を改善するという色を考える | 90   |
| 13 | 福祉におけるの色彩② | 1) カラーユニバーサルデザインとは☒<br>人間の色の感じ方は一様ではない。一般色覚者との色の見え方の違いを体験から学ぶ。           | 福祉と色の事例収集       | 90   |
| 14 | まとめと発表①    | 1) 今までの授業内容から、1つのテーマを見つけP Cによる発表原稿を作成する。                                 | 発表原稿の制作         | 100  |
| 15 | まとめと発表②    | 1) 前の週でまとめた内容を、発表することによって内容の深化を進める。☒<br>2) 予習・復習で制作したノートのまとめをし提出する。      | 発表後の修正と原稿の提出    | 100  |

|          |  |                 |  |  |
|----------|--|-----------------|--|--|
| 科目名      | 卒業研究Ⅰ  | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修 |  |
| 担当教員     | 大泉 由美  |                 |  |  |
| 開講期      | 通年   |                 |  |  |
| 授業概要     | これまでの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決めたうえで、先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につける。そして論文執筆方法を習得・体得する。☑ |                 |  |  |
| 達成目標     | ①明確にしたい、または解決したい問題などをとりあげ、研究テーマを決めたか。☑<br>②先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につけることができたか。 |                 |  |  |
| 受講資格     | 人間生活学科   | 成績評価<br>方法      | 課題50%、経過報告及び発表50%  |  |
| 教科書      | 必要に応じて資料を配付  |                 |  |  |
| 参考書      | 授業内で随時紹介   |                 |  |  |
| 学生への要望   | 1. 主体性を持って参加すること☑<br>2. 途中経過を報告すること☑<br>☑  |                 |  |  |
| オフィスタイトム | 水曜 1限☑<br>木曜 1限☑<br>場所：創学館 4階No.2 研究室 ☑  |                 |  |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目          | 授業内容   | 自学自習 | 目安時間 |
|----|-------------|--|------|------|
| 1  | ガイダンス       | 1. 卒業研究の意義、進め方について<br>2. 今後のスケジュールの検討☑       |      | 0    |
| 2  | 卒業論文の書き方（1） | ・卒業論文の書き方についての解説                             |      | 0    |
| 3  | 卒業論文の書き方（2） | ・文献の探し方、データの収集について                           |      | 0    |
| 4  | 卒業論文の書き方（3） | ・参考文献の活用方法（1）                                |      | 0    |
| 5  | 卒業論文の書き方（4） | ・参考文献の活用方法（2）、データのまとめ方                       |      | 0    |
| 6  | 研究テーマ設定（1）  | 1. 研究テーマの検討☑<br>2. 研究テーマへの批判☑                |      | 0    |
| 7  | 研究テーマ設定（2）  | 1. 研究テーマの検討☑<br>2. 研究テーマへの批判☑                |      | 0    |
| 8  | 研究テーマ設定（3）  | 1. 先行研究の検討☑<br>2. 研究テーマの検討☑<br>3. 研究テーマへの批判☑ |      | 0    |
| 9  | 研究テーマ設定（4）  | 1. 先行研究の検討☑<br>2. 研究テーマの検討☑<br>3. 研究テーマへの批判☑ |      | 0    |
| 10 | 研究テーマ設定（5）  | 1. 先行研究の検討☑<br>2. 研究テーマの検討☑<br>3. 研究テーマへの批判☑ |      | 0    |
| 11 | 訪問調査（1）☑    | 1. 見学☑<br>2. 関係者へのインタビューなど☑                  |      | 0    |
| 12 | 訪問調査（2）     | 1. 見学☑<br>2. 関係者へのインタビューなど☑                  |      | 0    |
| 13 | 訪問調査（3）     | 1. 見学☑<br>2. 関係者へのインタビューなど☑                  |      | 0    |
| 14 | 訪問調査（4）     | 1. 見学☑<br>2. 関係者へのインタビューなど☑                  |      | 0    |
| 15 | 中間まとめ       | 1. 研究テーマの仮報告☑<br>2. スケジュール確認☑                |      | 0    |
| 16 | 研究テーマの決定    | 1. 研究テーマの決定                                  |      | 0    |
| 17 | 資料収集・分析（1）  | 1. 資料収集☑<br>2. 資料分析☑                         |      | 0    |
| 18 | 資料収集・分析（2）  | 1. 資料収集☑<br>2. 資料分析☑                         |      | 0    |
| 19 | 資料収集・分析（3）  | 1. 資料収集☑<br>2. 資料分析☑                         |      | 0    |
| 20 | 資料収集・分析（4）  | 1. 資料収集☑<br>2. 資料分析☑                         |      | 0    |
| 21 | 資料収集・分析（5）  | 1. 資料収集☑<br>2. 資料分析☑                         |      | 0    |
| 22 | 資料収集・分析（6）  | 1. 資料収集☑<br>2. 資料分析☑                         |      | 0    |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目            | 授業内容                           | 自学自習 | 目安時間 |
|----|---------------|--------------------------------|------|------|
| 23 | 資料収集・分析（7）    | 1. 資料収集☑<br>2. 資料分析☑           |      | 0    |
| 24 | 資料収集・分析（8）    | 1. 資料収集☑<br>2. 資料分析☑           |      | 0    |
| 25 | 資料収集・分析（9）    | 1. 資料収集☑<br>2. 資料分析☑           |      | 0    |
| 26 | 卒業論文執筆の事始め（5） | 1. 執筆のルール☑<br>2. 文章表現法☑        |      | 0    |
| 27 | 卒業論文執筆の事始め（6） | 1. 執筆のルール☑<br>2. 文章表現法☑        |      | 0    |
| 28 | 卒業論文執筆の事始め（7） | 1. 執筆のルール☑<br>2. 文章表現法☑        |      | 0    |
| 29 | 中間報告（1）       | 1. 論文執筆状況の報告☑<br>2. 今後のスケジュール☑ |      | 0    |
| 30 | 中間報告（2）       | 1. 中間報告の批判☑<br>2. 研究スケジュールの検討☑ |      | 0    |



|                |  |                          |  |
|----------------|--|--------------------------|--|
| <b>科目名</b>     | 卒業研究 I   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修   |
| <b>担当教員</b>    | ダニエル ホーナー  |                          |  |
| <b>開講期</b>     | 通年   |                          |  |
| <b>授業概要</b>    | <p>A. The number (ナンバリング) of this subject is HL2351. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>B. Instructor has taught English at Koriyama Women's University Attached High School <input checked="" type="checkbox"/><br/>(郡山女子大学附属高等学校) since 1995. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>C. Be an active learner who enthusiastically pursues growth and excellence. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>D. Express succinctly research themes and personal career information. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>E. Demonstrate comprehension of terminology specific to your career choice. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>F. Write terminology and career information in contemporary formats. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>G. Express clearly the results of your research in reports and presentations. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>FEEDBACK: Educative feedback is frequently given to students on their conduct, homework, quizzes and tests that is positive, constructive and considers the individuality of each student but also the diversity of all of the students.</p> |                          |  |
| <b>達成目標</b>    | <p>1. The main objective is to improve all four skills (reading, writing, listening and speaking) pertaining with a focus on persuasive expression of your skills and abilities. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>2. Learn how to self-evaluate all four skills as they relate to careers, and then learn ways to improve your own abilities. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>3. Express concise and correct information about prospective companies and employers. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>4. The minimum standard to receive 4 credits for this subject is to achieve 70% or higher on the overall average of these main criteria: attitude, 4 skills in research, documents submitted, research reports and presentations. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>5. The "Diploma Policy" (DP) for this subject stipulates "Problem Solving Skills," "Comprehensive Learning Experiences" and "Creative Thinking Skills Development."</p>   |                          |  |
| <b>受講資格</b>    | 大3年  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | <p>1. Participation and Attitude (10%) <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>2. Demonstration of the Four Skills through Research (40%) <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>3. Documents, Research Reports and Presentations (50%)</p> |
| <b>教科書</b>     | (none)   |                          |  |
| <b>参考書</b>     | Documents produced by students and instructor, Daniel O. Horner.   |                          |  |
| <b>学生への要望</b>  | <p>1. Please keep all appointments and research deadlines. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>2. For each hour of lecture by professors, students need 2 hours of preparation and review on their own. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>3. Be an active learner with very lofty goals. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>4. Conduct and continue research on a daily basis. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>5. Stay ahead of schedule; avoid procrastinating!</p>  |                          |  |
| <b>オフィスタイト</b> | Office hours are Monday and Wednesday 5th period (16:10 ~ 17:40), <input checked="" type="checkbox"/><br>and by appointment, 創学館 4 F No.3 研究室.   |                          |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目                         | 授業内容   | 自学自習        | 目安時間 |
|---|----------------------------|--|-------------|------|
| 1 | Guidance                   | Preliminary Guidance.                                      | Preparation | 120  |
| 2 | Guidance                   | Second Guidance Session.                                   | Preparation | 90   |
| 3 | Preliminary Research       | Discussion of preliminary research.                        | Preparation | 120  |
| 4 | Preliminary Research       | Continued discussion of preliminary research.              | Preparation | 120  |
| 5 | Defining Objectives        | Define the objectives for the first semester of the year.  | Review      | 90   |
| 6 | Defining Objectives        | Define the objectives for the second semester of the year. | Preparation | 120  |
| 7 | Research Themes            | Brainstorm potential research themes to be completed.      | Preparation | 120  |
| 8 | Additional Research Themes | Brainstorm more potential research themes to be completed. | Preparation | 120  |
| 9 | Career Objectives          | Correlate research themes to career objectives.            | Preparation | 120  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                                  | 授業内容   | 自学自習                               | 目安時間 |
|----|-------------------------------------|--|------------------------------------|------|
| 10 | Career Objectives                   | Continue to correlate research themes to career objectives.  | Review                             | 90   |
| 11 | Career Terminology                  | Plan the initial research report on career terminology.  | Prepare initial research report.   | 180  |
| 12 | Additional Career Terminology       | Submit the initial research report on career terminology.  | Preparation                        | 120  |
| 13 | Career Parameters                   | Define in-depth career parameters and related themes.  | Preparation                        | 120  |
| 14 | Career Parameters                   | Define additional in-depth career parameters and related themes. Write a detailed outline of personal career parameters. | Preparation                        | 150  |
| 15 | Report on Parameters                | Write and the rough draft of report on career parameters.  | Prepare second research report.    | 120  |
| 16 | Report on Parameters                | Submit the final document of the report on career parameters.  | Preparation                        | 120  |
| 17 | Initial Consultation of Four Skills | Have the initial consultation on ways of improving the four main skills needed for career success.                       | Preparation                        | 120  |
| 18 | Consultation on Listening Skills    | Have the initial consultation on ways of improving listening as related to career choice and success.                    | Preparation                        | 120  |
| 19 | Consultation on Speaking Skills     | Have the initial consultation on ways of improving speaking as related to career choice and success.                     | Preparation                        | 120  |
| 20 | Consultation on Reading Skills      | Have the initial consultation on ways of improving reading as related to career choice and success.                      | Preparation                        | 120  |
| 21 | Consultation on Writing Skills      | Have the initial consultation on ways of improving writing as related to career choice and success.                      | Preparation                        | 90   |
| 22 | Report on Four Skills               | Submit the rough draft of research conducted on the four skills needed for success in careers.                           | Prepare the third research report. | 120  |
| 23 | Report on Four Skills               | Submit the report on the four skills needed for success in careers.  | Preparation                        | 120  |
| 24 | Current Technologies                | Consultation on current technologies and the impact they have on the ever-changing job market.                           | Preparation                        | 120  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目  | 授業内容  | 自学自習  | 目安時間 |
|----|---|---|---|------|
| 25 | Research Current Technologies                   | Conduct research on current technologies that pertain to the student's career choice.   | Prepare fourth research report.                   | 120  |
| 26 | Report on Current Technologies                  | Report on current technologies that pertain to the student's career choice.   | Review  | 90   |
| 27 | Consultation on Final Research Report           | Consult with student on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the previous year.               | Preparation                                       | 90   |
| 28 | More Consultation on Final Research Report      | Continue consultation with students on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the entire year.  | Prepare final cumulative research report.         | 240  |
| 29 | Final Report and Outline of Presentation        | Submit the final research report to the instructor, and submit the outline of the final presentation for review by the instructor.                  | Study, review and prepare for final presentation. | 240  |
| 30 | Final Research Report and Presentation Practice | Use the final cumulative research report to practice for the final presentation that includes decisive conclusions on the student's career choices. | Review  | 90   |

|                |   |                          |  |
|----------------|---|--------------------------|--|
| <b>科目名</b>     | 卒業研究Ⅰ   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修 |
| <b>担当教員</b>    | 安田 純子   |                          |  |
| <b>開講期</b>     | 通年  |                          |  |
| <b>授業概要</b>    | 各自が生活に関して関心を持っていることについて、詳しく調べ、考察していきます。探究することのおもしろさを知って研究を進めます。☒<br>☒<br>最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☒<br>☒<br>位置づけ・水準 HL2351   |                          |  |
| <b>達成目標</b>    | 目標は、各自が生活に関して関心を持っていることについて、研究を進め、まとめの仕方や発表の仕方を学び、また、文章で表現できるように学んでいきます。☒<br>☒<br>単位認定の最低基準は、関心や問題を見つけ、研究の進め方がある程度把握し、7割以上方向性が示せること。☒<br>ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力☒ |                          |  |
| <b>受講資格</b>    | 家政学部 人間生活学科 3年  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 研究過程（態度・発表準備等）（60%）、研究論文等の中間のまとめ（30%）  |
| <b>教科書</b>     | 特になし（必要に応じて指示する。）   |                          |  |
| <b>参考書</b>     | 各自その都度必要な文献   |                          |  |
| <b>学生への要望</b>  | 積極的に課題を見つけ、真摯に取り組んでほしい。   |                          |  |
| <b>オフィスタイト</b> | 前期：月曜日と木曜日の13:00~16:30☒<br>後期：水曜日と金曜日の13:00~16:30☒<br>創学館N o. 1 研究室   |                          |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目             | 授業内容                  | 自学自習                 | 目安時間 |
|----|----------------|-----------------------|----------------------|------|
| 1  | テーマを見つける       | 興味のあるテーマを探す           | テーマを見つける             | 30   |
| 2  | 図書館の使い方        | 図書館の使い方、資料の探し方        | 資料の探しかたになれる。         | 30   |
| 3  | テーマを見つける       | 調べてみたいテーマ探し           | テーマを見つける             | 30   |
| 4  | 資料集め           | 必要な資料の探し方・集め方         | 必要な資料の探し・集めをやる。      | 30   |
| 5  | 資料集め           | 資料を集める                | 資料を集める               | 300  |
| 6  | 資料を読み取る        | 論文に向けて参考となる資料の読み取り    | 資料を読み取る              | 300  |
| 7  | 必要資料集め         | 再び不足資料を探す             | 不足資料を探す              | 60   |
| 8  | 資料を読み取る        | 資料中の表やグラフを読み取る        | 資料中の表やグラフを読み取る       | 90   |
| 9  | 論文構想①          | 論文構想の大枠を考える。          | 論文構想の大枠を考える。         | 60   |
| 10 | 論文構想②          | 論文構想を模索               | 論文構想を模索する。           | 60   |
| 11 | 論文構想③          | 論文構想を模索               | 論文構想を模索する。           | 60   |
| 12 | 論文構想④          | 論文構想を模索               | 論文構想を模索する。           | 60   |
| 13 | パワーポイントと発表について | 発表用パワーポイントと原稿の作成について  | 発表用パワーポイントの作成の練習     | 60   |
| 14 | プレゼンテーションについて  | プレゼンテーションについて説明       | プレゼンテーションのし方の確認練習    | 60   |
| 15 | 論文構想⑤          | 書ける論文について研究倫理等        | 書ける論文の骨組みを模索する。      | 30   |
| 16 | 論文の骨組み         | 論文の骨組みについて考える。        | 論文の骨組みを考える。          | 30   |
| 17 | 論文構想⑥          | 論文のテーマの見直し            | 論文のテーマをいろいろな角度から考える。 | 60   |
| 18 | 論文執筆①          | 論文の書き方                | 論文の書き方を復習する。         | 60   |
| 19 | 論文執筆②          | 論文執筆練習                | 本論文に向け執筆（練習）する。      | 240  |
| 20 | 論文執筆③          | 論文執筆練習                | 本論文に向け執筆（練習）する。      | 240  |
| 21 | 添削             | 論文添削指導                | 添削指導されたものを修正する。      | 120  |
| 22 | 添削             | 論文添削指導                | 添削指導されたものを修正する。      | 120  |
| 23 | 資料集め（参考文献）     | 参考文献の読み方              | 参考文献を読む。             | 60   |
| 24 | 本論文に向けての追加資料   | 本論文に向けて足りない資料など       | 本論文に足りない資料などを集め、読む。  | 60   |
| 25 | 論文執筆④          | 論文執筆・添削指導             | 論文を執筆する。             | 120  |
| 26 | 論文執筆⑤          | 論文執筆・添削指導             | 論文を執筆する。             | 120  |
| 27 | 論文執筆⑥          | 論文執筆・添削指導             | 論文を執筆する。             | 120  |
| 28 | 論文のテーマ         | 論文のテーマの方向性についてのまとめと確認 | 論文のテーマの方向性を確認をする。    | 60   |
| 29 | 論文テーマ          | 論文テーマを確認する。           | 論文のテーマをしぼる。          | 120  |
| 30 | 卒研全体のまとめ       | 全体のまとめ                | 全体を見直し、テーマを再確認する。    | 60   |

|                |   |                    |  |  |
|----------------|---|--------------------|--|--|
| <b>科目名</b>     | 卒業研究Ⅰ   |                    | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b>   | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修 |
| <b>担当教員</b>    | 山本 裕詞   |                    |  |  |
| <b>開講期</b>     | 通年  |                    |  |  |
| <b>授業概要</b>    | <p>自らの課題意識をもとに調査研究を進め、論理実証的に結論を導き出し、卒業論文にまとめる。特に、卒業研究Ⅰは、自らの課題意識を明確化することを目的に、先行研究の収集、整理、批判を行う。具体的には、年度末までに自らの課題意識の研究上の位置づけを明らかにして、論文構成を試案する。学生は、個別指導の際に、自らの課題に対する調査研究結果を発表し、それに対する小職からの講評を受け、次回の個別指導までの課題内容をフィードバックする。なお、研究の必要に応じて、小職の中等教育や特別支援教育における教員経験を活用した指導を行う。☒</p> <p>実務経歴：中高の教員として神奈川県立新羽高等学校、学校法人白根開善学校等で勤務。☒</p> <p>☒<br/>位置づけ・水準 HL2351</p> |                    |  |  |
| <b>達成目標</b>    | <p>1. 自らの課題意識を、先行研究との関係で位置付ける。☒</p> <p>2. 論理実証的手法を用いて考察を深める。☒</p> <p>3. 卒業論文を、論文執筆の作法に従って作成することで、自律的研究能力の基礎を培う。☒</p> <p>4. 4年次の中間報告、最終報告を見通して、伝える技術を経験的に学ぶ。☒</p> <p>単位認定の最低基準は、上記1～3の総合的評価が達成度7割以上であること。☒</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力</p>  |                    |  |  |
| <b>受講資格</b>    | 相談により担当となった学生   | <b>成績評価<br/>方法</b> | 達成目標の達成度の総合的評価☒<br>内訳：1. 課題意識の具体化 20% ☒<br>2. 先行研究のテキスト批評と論理実証性 30% ☒<br>3. 研究倫理の意識化と遵守 30% ☒<br>4. 研究テーマの確定と卒論構成の試案 20% |  |
| <b>教科書</b>     | 特になし。   |                    |  |  |
| <b>参考書</b>     | 河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶應義塾大学出版会 2002年  |                    |  |  |
| <b>学生への要望</b>  | 主体的に取り組むこと。   |                    |  |  |
| <b>オフィスタイム</b> | 前期：月曜Ⅰ、Ⅱ限、 後期：月曜Ⅲ、Ⅳ限 ☒<br>場所：教職課程推進室 ☒<br>そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。  |                    |  |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目                | 授業内容   | 自学自習       | 目安時間 |
|---|-------------------|--|------------|------|
| 1 | 仮テーマの設定と先行研究の抽出 1 | 仮の研究テーマを設定し、それに関する先行研究を調査収集する。また、収集した先行研究を対象にテキスト批評を行う。  | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 2 | 興味関心・課題意識の言語化     | 自らの興味関心・課題意識を言葉で表現することによって、既に理解できていることと、不鮮明なことを意識化する。  | レポート       | 180  |
| 3 | テキスト批評 1          | 指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。  | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 4 | テキスト批評 2          | 指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。  | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 5 | テキスト批評 3          | 指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。  | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 6 | テキスト批評 4          | 指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。  | 発表用レポート作成  | 180  |
| 7 | 仮テーマの設定と先行研究の調査 1 | 自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。 | 発表用レポート    | 180  |
| 8 | 仮テーマの設定と先行研究の調査 2 | 自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。 | 発表用レポートの作成 | 180  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                | 授業内容   | 自学自習       | 目安時間 |
|----|-------------------|--|------------|------|
| 9  | 仮テーマの設定と先行研究の調査 3 | 自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。 | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 10 | 仮テーマの設定と先行研究の調査 4 | 自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。 | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 11 | 仮テーマの設定と先行研究の調査 5 | 自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。 | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 12 | 仮テーマの設定と先行研究の調査 6 | 自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。 | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 13 | テーマの設定と先行研究の整理 1  | 先行研究を整理し、自らの研究の意義を位置付け、研究テーマを確定する。   | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 14 | テーマの設定と先行研究の整理 2  | 先行研究を整理し、自らの研究の意義を位置付け、研究テーマを確定する。   | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 15 | テーマの設定と先行研究の整理 3  | 先行研究を整理し、自らの研究の意義を位置付け、研究テーマを確定する。   | 発表用レポートの作成 | 180  |

|                |   |                          |  |
|----------------|---|--------------------------|--|
| <b>科目名</b>     | 卒業研究Ⅰ   | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修 |
| <b>担当教員</b>    | 瀬谷 真理子  |                          |  |
| <b>開講期</b>     | 通年  |                          |  |
| <b>授業概要</b>    | <p>〔授業の目的・ねらい〕☑<br/>卒業研究は、大学の学修の集大成として、総合的に学問を捉え、主体的に新たな発想力をもって物事の本質を見極め、学問への探求を忘れず、専門分野での新たな知見を得られるような人材の育成を目指すことを目的とする。☑<br/>〔授業全体の内容の概要〕☑<br/>Ⅰ. 研究テーマの設定 1、先行研究論文の収集。2、先行調査の分析。3、テーマの設定。Ⅱ. 設定テーマを基に、関連書籍、論文などのデータ収集、解析、分析、経過発表、学生間の討論を行う。☑メント等によるフィードバックを行います。<br/>さらに福島県高等学校での家庭科教員としての実務経験を生かしながら実践的な指導を行います。<br/>〔実務経歴〕福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。<br/>位置づけ・水準 HL2351</p> |                          |  |
| <b>達成目標</b>    | <p>〔到達目標〕☑<br/>①論文調査方法を学び、自分にあった方法を理解する。☑<br/>②論文の構成を理解する。<br/>③論文の作成ができ、発表することができる。<br/>単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。<br/>ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考</p>   |                          |  |
| <b>受講資格</b>    | 特になし。   | <b>成績評価<br/>方法</b>       | ①卒研に取り組む姿勢30%、②報告会及び課題提出状況30%、③途中経過状況40%、①～③の総合評価60点以上で単位認定する。                         |
| <b>教科書</b>     | 論文課題に対応し提示。   |                          |  |
| <b>参考書</b>     | 随時案内する。   |                          |  |
| <b>学生への要望</b>  | 1. 指定日に必ず出席すること。2. 課題を次週までに終わらせる（場合により、話し合いで変更する）。<br>3. テーマの選定に努力を惜しまず積極的に望む。☑   |                          |  |
| <b>オフィスタイム</b> | 水曜日 1、11時限 家政学館4F 生活科学科研究室。   |                          |  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目            | 授業内容   | 自学自習                          | 目安時間 |
|----|---------------|--|-------------------------------|------|
| 1  | ガイダンス         | 1年間の内容と留意事項  | 課題を見つける                       | 60   |
| 2  | テーマの設定方法を学ぶ   | 先行研究調査   | 各自研究の先行研究を調べまとめる              | 60   |
| 3  | テーマの設定方法を学ぶ   | 先行研究調査   | 各自研究の先行研究を調べまとめる              | 60   |
| 4  | テーマの設定方法を学ぶ   | 先行研究調査   | 各自研究の先行研究を調べまとめる              | 60   |
| 5  | テーマの設定方法を学ぶ   | 先行研究分析方法を学ぶ  | 先行研究を整理する                     | 60   |
| 6  | テーマの設定方法を学ぶ   | 先行研究分析方法を学ぶ  | 先行研究を整理する                     | 60   |
| 7  | テーマ設定方法を学ぶ    | 先行研究分析方法を学ぶ  | 先行研究を整理する                     | 60   |
| 8  | テーマ設定         | 第2回から第7回までに行った、先行研究分析から、最も興味関心を持ったテーマを取り上げ、書籍収集、先行研究収集等をし、第10回の討論会準備を行う。 | 発表用パワーポイントの作成                 | 90   |
| 9  | テーマ設定         | 第8回に引き続き、討論会準備を行う。   | 発表用パワーポイントの作成                 | 90   |
| 10 | 仮テーマにおける討論会   | 仮テーマをもとに調査をおこなった内容を発表する。討論会形式とする。  | 発表用パワーポイントの作成                 | 90   |
| 11 | 仮論文テーマにおける討論会 | 第10回仮テーマにおける討論会をおこない、論文制作が可能か検討。   | これまでの発表用内容の確認                 | 60   |
| 12 | 論文テーマ設定       | 第11回からテーマ選定。第10回において論文テーマの選定に至らなかった場合は、再度調査発表を行い決定する。                    | これまでの発表用内容から独自のテーマが可能か文献収集する。 | 60   |
| 13 | 論文作成方法を学ぶ     | 文献調査による調査方法とは。☑  | 文献研究について関連研究を調べる              | 60   |
| 14 | 論文作成方法を学ぶ     | データ分析による調査方法とは。  | データ分析について関連研究を調べる             | 60   |
| 15 | 論文作成方法を学ぶ     | 調査方法を選定し、進め方を決定する。   | 論文作成についてまとめる                  | 60   |
| 16 | 資料収集          | 調査方法が決定したのち、論文制作に必要な参考資料等の収集を行う。   | 授業内容を整理しまとめる                  | 60   |
| 17 | 資料収集          | 第16回同様に資料等の収集を行う。  | 収集資料の整理                       | 60   |
| 18 | 資料分析調査        | 第16回から17回までに収集した先行研究を分析し、まだ、研究が進められていない分野を見つけ、その分野で進めていけるのか確認する。         | 収集資料の整理と分析                    | 60   |
| 19 | 資料分析調査        | 第18回同様に、収集した先行研究を分析し、まだ、研究が進められていない分野を見つけ、その分野で進めていけるのか確認する。             | 収集資料の整理と分析                    | 60   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目       | 授業内容  | 自学自習            | 目安時間 |
|----|----------|---|-----------------|------|
| 20 | 資料分析調査   | 第19回までに行った調査分析から、論文タイトル（サブの有る場合は、サブタイトルも考える）、論文の章立てを考える。  | 論文の目次を考える       | 60   |
| 21 | 資料分析調査   | 第20回同様に論文タイトル、章立てを行い指導教員に確認を得る。   | 論文タイトルと目次を再検討する | 60   |
| 22 | 調査及び資料収集 | 調査方法として、アンケートを希望（必要）とする場合は、アンケート項目の選定を行う。   | アンケート方法を調べる     | 60   |
| 23 | 調査及び資料収集 | アンケート内容項目の選定、確認が済み次第、アンケート調査に取り掛かる。   | アンケート項目を考える     | 60   |
| 24 | 調査及び資料収集 | 文系論文制作者は、研究に必要な資料収集に取り組む。書籍に関しては、論文執筆は最低10冊の関連書式に目を通す。また、論文への引用には、細心注意を払い、先行研究及び書籍から論文へ引用する場合は、必ず記載することを徹底する。 | 先行研究の論文を要約する    | 60   |
| 25 | 調査及び資料収集 | 第24回同様に、調査及び資料収集に努める。   | 先行研究の論文を要約する    | 60   |
| 26 | 論文制作     | 第25回目までに、必要最低限の調査及び資料の収集を行い、章立て通り分類を行う。   | 先行研究の論文を要約する    | 60   |
| 27 | 論文制作     | 第26回同様に、章立て通り分類を行う。   | 授業内容を整理する       | 60   |
| 28 | 論文制作     | 章立て通りに分類が終了後、論文執筆に取り掛かる。まずは、はじめに（序）を記載し、第29回までに1度提出をする。   | 各自研究を進める        | 90   |
| 29 | 論文制作     | 第28回において提示した、はじめに（序）の添削をおこなう。指導教員の指示に従いながら書き方を学んでいく。修正後再度提出することを繰り返す。   | 各自研究を進める        | 90   |
| 30 | 論文制作     | 第29回において、はじめに（序）の添削をおこなった結果を受けて、再度提出した内容の確認をする。以降、春休みを使って資料収集及び論文の制作に取り組み卒業研究Ⅱに向けて準備を整えていく。                   | 序文の作成及び添削後の修正   | 90   |



|                |  |                          |   |
|----------------|--|--------------------------|---|
| <b>科目名</b>     | 卒業研究Ⅱ  | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修                                |
| <b>担当教員</b>    | 山本 裕詞  |                          |   |
| <b>開講期</b>     | 通年   |                          |   |
| <b>授業概要</b>    | 自らの課題意識をもとに調査研究を進め、論理実証的に結論を導き出し、卒業論文にまとめる。学生は、個別指導の際に、自らの課題に対する調査研究結果を発表し、それに対する小職からの講評を受け、次回の個別指導までの課題内容をフィードバックする。☑<br>なお、研究の必要に応じて、中等教育や特別支援教育における教員経験を活用した指導を行う。☑<br>実務経歴：中高の教員として神奈川県立新羽高等学校、学校法人白根開善学校等で勤務。☑<br>☑<br>位置付け・水準 HL2452 |                          |   |
| <b>達成目標</b>    | 1. 自らの課題意識を、先行研究との関係で位置付ける。☑<br>2. 論理実証的手法を用いて考察を深める。☑<br>3. 中間報告、最終報告を通して、伝える技術を経験的に学ぶ。☑<br>4. 卒業論文を、論文執筆の作法に従って作成することで、自律的研究能力の基礎を培う。☑<br>単位認定の最低基準は、上記1～4の総合的評価が達成度7割以上であること。☑<br>ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力                           |                          |   |
| <b>受講資格</b>    | 相談により担当となった学生  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | 達成目標の達成度の総合的評価☑<br>内訳：1. 先行研究との関係での研究の位置づけ 20%☑<br>2. 研究過程における論理実証性、研究倫理 30%☑<br>3. 中間報告、最終報告 20%☑<br>4. 卒業論文の完成度 30% |
| <b>教科書</b>     | 特になし。  |                          |   |
| <b>参考書</b>     | 河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶應義塾大学出版会 2002年   |                          |   |
| <b>学生への要望</b>  | 主体的に取り組むこと。  |                          |   |
| <b>オフィスタイム</b> | 前期：月曜Ⅰ、Ⅱ限、 後期：月曜Ⅲ、Ⅳ限 ☑<br>場所：教職課程推進室 ☑<br>そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。   |                          |   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                 | 授業内容   | 自学自習       | 目安時間 |
|----|--------------------|--|------------|------|
| 1  | テーマの確定と仮の章立て       | 学生は、卒業研究Ⅰでの学習を下地にテーマを確定するとともに、仮の章構成を考える。                             | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 2  | 仮の章構成を基にした研究計画を作成  | 学生は、前回の授業で行った仮の章構成をもとに、研究計画を作成し、説明する。                                | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 3  | 計画にそった研究の実施と経過報告 1 | 学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。                                      | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 4  | 計画にそった研究の実施と経過報告 2 | 学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。                                      | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 5  | 計画にそった研究の実施と経過報告 3 | 学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。                                      | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 6  | 計画にそった研究の実施と経過報告 4 | 学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。                                      | 発表用レポート作成  | 180  |
| 7  | 中間発表の作成            | 学生は、中間発表に向けて発表資料を作成し、発表内容を言語化する。それによって、達成されつつある研究目的と、残されている課題とを特定する。 | 発表用レポート    | 180  |
| 8  | 研究計画の修正            | 学生は、中間発表の反省を踏まえ、研究計画の修正を行う。修正が必要ないときは、当初の研究計画通りに研究を進める。              | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 9  | 計画にそった研究の実施と経過報告 5 | 学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。                                      | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 10 | 計画にそった研究の実施と経過報告 6 | 学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。                                      | 発表用レポートの作成 | 180  |
| 11 | 計画にそった研究の実施と経過報告 7 | 学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。                                      | 論文執筆       | 180  |
| 12 | 計画にそった研究の実施と経過報告 8 | 学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。                                      | 論文執筆       | 180  |
| 13 | 最終発表の作成            | 学生は、最終発表に向けた資料作成と発表原稿の作成を行い、概要を説明する。                                 | 最終発表の作成    | 180  |
| 14 | 卒業論文の仕上げ 1         | 学生は卒業論文を完成させる。残された課題について、説明する。                                       | 論文執筆       | 180  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目        | 授業内容                               | 自学自習 | 目安時間 |
|----|-----------|------------------------------------|------|------|
| 15 | 卒業論文の仕上げ2 | 卒業論文を完成させる。学生は、最終発表原稿を作成し、発表練習を行う。 | 論文執筆 | 180  |

|         |  |                 |  |
|---------|--|-----------------|--|
| 科目名     | 卒業研究Ⅱ  | 対象<br>単位数<br>必選 | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修 |
| 担当教員    | 安田 純子  |                 |  |
| 開講期     | 通年   |                 |  |
| 授業概要    | 各自が生活に関して関心を持っていることについて、詳しく調べ、考察していきます。探究することのおもしろさを知って研究を進めます。☑<br>最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑<br>☑<br>位置づけ・水準 HL2452   |                 |  |
| 達成目標    | 目標は☑<br>各自が生活に関して関心を持っていることについて、研究を進め、まとめの仕方を学び、発表できるようにし、また、文章で表現できるように仕上げていくこと。☑<br>☑<br>単位認定の最低基準は、自分の研究について発表し、文章で表現して論文に仕上げ、8割以上の完成度を求める。☑<br>ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力 |                 |  |
| 受講資格    | 家政学部 人間生活学科 4年   | 成績評価<br>方法      | 研究過程（態度・発表準備等）（60%）、発表（10%）、研究論文等まとめ（30%）  |
| 教科書     | 特になし（必要に応じて指示する。）  |                 |  |
| 参考書     | 各自その都度必要な文献  |                 |  |
| 学生への要望  | 積極的に課題を見つけ、真摯に取り組んでほしい。  |                 |  |
| オフィスタイト | 前期：月曜日と木曜日の13:00~16:30☑<br>後期：水曜日と金曜日の13:00~16:30☑<br>創学館N o. 1 研究室  |                 |  |

## -授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目             | 授業内容               | 自学自習                | 目安時間 |
|----|----------------|--------------------|---------------------|------|
| 1  | テーマを見つける       | 興味のあるテーマを探す        | テーマを見つける            | 30   |
| 2  | 図書館の使い方        | 図書館の使い方、資料の探し方     | 資料の探しかたになれる。        | 30   |
| 3  | テーマを見つける       | 調べてみたいテーマ探し        | テーマを見つける            | 30   |
| 4  | 資料集め           | 必要な資料の探し方・集め方      | 必要な資料の探し・集めをやる。     | 30   |
| 5  | 資料集め           | 資料を集める             | 資料を集める              | 300  |
| 6  | 資料を読み取る        | 論文に向けて参考となる資料の読み取り | 資料を読み取る             | 300  |
| 7  | 必要資料集め         | 再び不足資料を探す          | 不足資料を探す             | 60   |
| 8  | 資料を読み取る        | 資料中の表やグラフを読み取る     | 資料中の表やグラフを読み取る      | 90   |
| 9  | 論文構想①          | 論文構想の大枠を考える。       | 論文構想の大枠を考える。        | 60   |
| 10 | 論文構想②          | 論文構想を模索            | 論文構想を模索する。          | 60   |
| 11 | 論文構想③          | 書ける論文のための骨組みの決定    | 書ける論文のための骨組みの決定する。  | 60   |
| 12 | パワーポイント、発表原稿作成 | 発表用パワーポイントと原稿の作成①  | 発表用パワーポイントと原稿の作成する。 | 60   |
| 13 | パワーポイント、発表原稿作成 | 発表用パワーポイントと原稿の作成②  | 発表用パワーポイントと原稿の作成する。 | 60   |
| 14 | パワーポイント、発表原稿作成 | 発表用パワーポイントと原稿の作成③  | 発表用パワーポイントと原稿の作成する。 | 60   |
| 15 | プレゼンテーションのために  | プレゼンの練習            | プレゼンの練習をする。         | 30   |
| 16 | プレゼンテーションのために  | プレゼンの練習            | プレゼンの練習をする。         | 30   |
| 17 | 論文要旨集          | 論文要旨集作成            | 論文要旨集作成を作成する。       | 60   |
| 18 | 論文執筆①          | 論文の書き方             | 論文の書き方を復習する。        | 60   |
| 19 | 論文執筆②          | 論文執筆               | 論文を執筆する。            | 240  |
| 20 | 論文執筆③          | 論文執筆               | 論文を執筆する。            | 240  |
| 21 | 添削             | 論文添削指導             | 添削指導されたものを修正する。     | 120  |
| 22 | 添削             | 論文添削指導             | 添削指導されたものを修正する。     | 120  |
| 23 | 追加資料集め         | 足りない資料など           | 足りない資料などを集める。       | 60   |
| 24 | 追加資料集め         | 足りない資料など           | 足りない資料などを集める。       | 60   |
| 25 | 論文執筆④          | 論文執筆・添削指導          | 論文を執筆する。            | 120  |
| 26 | 論文執筆⑤          | 論文執筆・添削指導          | 論文を執筆する。            | 120  |
| 27 | 論文執筆⑥          | 論文執筆・添削指導          | 論文を執筆する。            | 120  |
| 28 | 論文のまとめ         | まとめと確認             | まとめと確認をする。          | 60   |
| 29 | 論文提出用作成        | 提出原稿と体裁            | 体裁を整え提出原稿の仕上げをする。   | 120  |
| 30 | 卒研全体のまとめ       | 全体のまとめ             | 全体を見直し論文を提出する。      | 60   |

|                |  |                          |   |
|----------------|--|--------------------------|---|
| <b>科目名</b>     | 卒業研究Ⅱ  | <b>対象<br/>単位数<br/>必選</b> | 家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修  |
| <b>担当教員</b>    | ダニエル ホーナー  |                          |   |
| <b>開講期</b>     | 通年   |                          |   |
| <b>授業概要</b>    | <p>A. The number (ナンバリング) of this subject is HL2452.☑<br/>                 B. Instructor has taught English at Koriyama Women's University Attached High School☑<br/>                 (郡山女子大学付属高等学校) since 1995.☑<br/>                 C. Be an active learner who enthusiastically pursues growth and excellence. ☑<br/>                 D. Express succinctly research themes and personal career information. ☑<br/>                 D. Demonstrate comprehension of terminology specific to your career choice. ☑<br/>                 E. Write terminology and career information in contemporary formats. ☑<br/>                 F. Express clearly the results of your research in reports and presentations.☑<br/>                 FEEDBACK: Educative feedback is frequently given to students on their conduct, homework, quizzes and tests that is positive, constructive and considers the individuality of each student but also the diversity of all of the students.</p>  |                          |   |
| <b>達成目標</b>    | <p>1. The main objective is to improve all four skills (reading, writing, listening and speaking) of language pertaining to your career with a focus on persuasive expression of your skills and abilities. ☑<br/>                 2. Learn how to self-evaluate all four skills as they relate to careers, and then learn ways to improve your own abilities. ☑<br/>                 3. Express concise and correct information about prospective companies and employers. ☑<br/>                 4. Understand how active learning methods can be applied to lifelong learning.☑<br/>                 5. The minimum standard to receive 4 credits for this subject is to achieve 70% or higher on the overall average of these main criteria: attitude, 4 skills in research, documents submitted, research reports and presentations. ☑<br/>                 6. The "Diploma Policy" (DP) for this subject stipulates "Problem Solving Skills," "Comprehensive Learning Experiences" and "Creative Thinking Skills Development."</p> |                          |   |
| <b>受講資格</b>    | 大4年  | <b>成績評価<br/>方法</b>       | <p>1. Participation and Attitude (10%)☑<br/>                 2. Demonstration of the Four Skills through Research (40%) ☑<br/>                 3. Documents, Research Reports and Presentations (50%)</p> |
| <b>教科書</b>     | (none)   |                          |   |
| <b>参考書</b>     | Documents produced by students and instructor, Daniel O. Horner.   |                          |   |
| <b>学生への要望</b>  | <p>1. Please keep all appointments and research deadlines.☑<br/>                 2. For each hour of lecture by professors, students need 2 hours of preparation and review on their own.☑<br/>                 3. Be an active learner with very lofty goals.☑<br/>                 4. Conduct and continue research on a daily basis. ☑<br/>                 5. Stay ahead of schedule; avoid procrastinating!</p>   |                          |   |
| <b>オフィスタイト</b> | Office hours are Monday and Wednesday 5th Period (16:10 ~ 17:40), ☑<br>and by appointment, 創学館 4 F No.3 研究室.   |                          |   |

-授業内容とスケジュール-

| 回 | 項目                   | 授業内容   | 自学自習        | 目安時間 |
|---|----------------------|--|-------------|------|
| 1 | Guidance             | Preliminary guidance and creation of initial plans for the year.         | Preparation | 120  |
| 2 | Continued Guidance   | Guidance Session No. 2.  | Preparation | 120  |
| 3 | Preliminary Research | Discussion of preliminary research.                                      | Preparation | 90   |
| 4 | Preliminary Research | Second session with continued discussion of preliminary research.        | Review      | 120  |
| 5 | Defining Objectives  | Define objectives for the first semester of the year.                    | Preparation | 120  |
| 6 | Defining Objectives  | Second session to define objectives for the second semester of the year. | Preparation | 90   |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目                                  | 授業内容   | 自学自習                               | 目安時間 |
|----|-------------------------------------|--|------------------------------------|------|
| 7  | Research Themes                     | Brainstorm potential research themes to be completed during the second semester.   | Review                             | 90   |
| 8  | Additional Research Themes          | Brainstorm more potential research themes to be completed during the second semester.                                    | Preparation                        | 120  |
| 9  | Career Objectives                   | Correlate research themes to career objectives.  | Preparation                        | 120  |
| 10 | Career Objectives                   | Second session of correlating research themes to career objectives.  | Review                             | 120  |
| 11 | Career Terminology                  | Plan the initial research report on career terminology.  | Prepare initial research report.   | 180  |
| 12 | Additional Career Terminology       | Submit the initial research report on career terminology.  | Preparation                        | 120  |
| 13 | Career Parameters                   | Define in-depth career parameters and themes related to your career.   | Review                             | 120  |
| 14 | Career Parameters☒<br>Pt. 2         | Define additional in-depth career parameters and related themes. Write a detailed outline of personal career parameters. | Review                             | 120  |
| 15 | Report on Career Parameters         | Write the rough draft of report on career parameters.  | Prepare second research report.    | 90   |
| 16 | Report on Parameters                | Submit the final document of the report on career parameters.  | Preparation                        | 120  |
| 17 | Initial Consultation of Four Skills | Have the initial consultation on ways of improving the four main skills needed for career success.                       | Preparation                        | 90   |
| 18 | Consultation on Listening Skills    | Have the initial consultation on ways of improving listening as related to career choice and success.                    | Preparation                        | 120  |
| 19 | Consultation on Speaking Skills     | Have the initial consultation on ways of improving speaking as related to career choice and success.                     | Preparation                        | 90   |
| 20 | Consultation on Reading Skills      | Have the initial consultation on ways of improving reading as related to career choice and success.                      | Preparation                        | 120  |
| 21 | Consultation on Writing Skills      | Have the initial consultation on ways of improving writing as related to career choice and success.                      | Review                             | 90   |
| 22 | Report on Four Skills               | Submit the rough draft of research conducted on the four skills needed for success in careers.                           | Prepare the third research report. | 120  |
| 23 | Report on Four Skills               | Submit the report on the four skills needed for success in careers.  | Preparation                        | 120  |
| 24 | Current Technologies                | Consultation on current technologies and the impact they have on the ever-changing job market.                           | Preparation                        | 120  |

-授業内容とスケジュール-

| 回  | 項目  | 授業内容  | 自学自習                                      | 目安時間 |
|----|---|---|---|------|
| 25 | Research Current Technologies                   | Conduct research on current technologies that pertain to the student's career choice.   | Preparation                               | 120  |
| 26 | Report on Current Technologies                  | Report on current technologies that pertain to the student's career choice.   | Review                                    | 90   |
| 27 | Consultation on Final Research Report           | Consult with student on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the entire year.                   | Preparation                               | 90   |
| 28 | More Consultation on Final Research Report      | Continue consultation with students on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the entire year.    | Prepare final cumulative research report. | 120  |
| 29 | Final Report and Outline of Presentation        | Submit the final research report to the instructor, and submit the outline of the final presentation for review by the instructor.                    | Preparation                               | 240  |
| 30 | Final Research Report and Presentation Practice | Use the final cumulative research report to practice for the final presentation that includes decisive conclusions on the student's career choice(s). | Preparation and Practice                  | 240  |